

はじめに

この報告書は、2017-8 年度 関西学院大学社会学部授業科目 研究演習(大谷)・社会調査実習(大谷)の研究成果をまとめたものである。

まず、関西学院大学大谷ゼミ 19 期生のゼミ活動について簡単に整理しておこう。大谷研究室では、2016 年度から学術振興会科研費基盤研究(A)「政策形成に貢献し調査困難状況に対応可能な社会調査方法の研究」を受給しており、1 学年上の 18 期生は、47 都道府県が実施している「県民意識調査」の実態を把握する調査研究を進めていた(『47 都道府県庁が実施する社会調査の実態把握～「県民意識調査」の実施状況と問題点』関西学院大学社会学部大谷研究室 2018 年 3 月)。19 期生はその調査結果をもとに、県民の生活実態を正確に測定できる質問文を使った「県民生活実態調査」を愛媛県と長崎県民を対象として実施する研究に中心にかかわっていった。「質問文の作成」「調査票のレイアウト(フォントを含む)」「サンプリング作業」「郵送調査作業(依頼ハガキ・調査票封入・切手貼付・督促ハガキ送付)」「調査対象者の問い合わせ対応作業」「調査票回収・エディティング作業」「コーディング・データ入力作業」「データクリーニング・集計作業」と調査票調査の一連の作業を、大谷ゼミ 18 期生 24 名、19 期生 26 名、20 期生 24 名、総勢 74 名の学年の異なる学部学生がチームを組んで実施にあたったのである。特にサンプリング作業は、4 年生が就活時期であったこともあり 19 期生が中心となって、愛媛県 20・長崎県 21 市町村の市役所を訪問し、愛媛県では選挙人名簿から、長崎県では住民基本台帳から転記するサンプリング作業を実施したのである。調査作業の具体的内容については、本報告書第 1 章と大谷信介編『「愛媛・長崎県民生活実態調査」報告書～平成 28-32 年度科研費基盤研究(A)研究成果中間報告書』(2018 年 3 月)を参照されたい。調査作業は、大学から支給された研究ラボを中心に実施し、調査経費は科研費の研究費によって出費された。

この報告書に掲載されている原稿は、各人の卒業論文をベースとして、報告書原稿として再構成したものである。卒論提出後、ゼミ生から選ばれた編集委員によって 1 章山下知恵・2 章木島麻並・3 章酒谷果奈・4 章川村優佳・5 章吉見将也・吹田孝介・6 章長野僚太・7 章原田早也佳・8 章武藤俊太郎がそれぞれの章を執筆した。序章と全体の修正は、編集長を務めた田村航平がおこなった。また、この報告書に収めきれなかったデータや資料等については、DVD に編集して残した(担当:山本治貴・小林弦輝)。特に卒論提出後の報告書編集執筆作業は、編集委員の熱心な取り組みの結果、内容的にもとてもレベルの高い報告書として完成したと思われる。一連の調査作業および編集作業には、基盤研究 A のリサーチアシスタント(RA)でありゼミの先輩でもある関学研究員松川尚子が重要な役割を果たしてくれた。

このようにこの報告書は、基本的に学部学生が共同してデータ作成・分析・執筆・編集して完成させたものである。内容的には稚拙で不備な点も多々あると思われるが、彼等がひたむきに研究に取り組んできたことは確かな事実である。彼らのこの調査研究への貢献は多大なものであった。今回の調査作業およびこの報告書にかけた情熱が、彼等の将来の人生の中で何らかの役に立つであろうことを期待してやまない。

この報告書をまとめるにあたっては、多くの方々にお世話になった。基盤研究の研究分担者・連携研究者の先生方、調査票作成過程を含め調査実施全般に協力いただいた愛媛県・長崎県庁の職員の皆様、「県民生活実態調査」に回答してくださった愛媛県民・長崎県民の皆様全てに対して、この場を借りてお礼を申し述べたいと思う。

2019 年 3 月 1 日

関西学院大学社会学部 教授

大谷 信 介



目 次

はじめに

序章

第1章 県民生活実態調査の実施過程と回収率向上のための運用の工夫
—調査方法論上のファインディングス—

第2章 調査データの空間分析法の開発
—Google Map の活用法と特性の考察—

第3章 働き方に関する実態把握

第4章 世帯収入・家計構造を問う質問文の妥当性と可能性

第5章 「県民生活実態調査」における家族の実態

第6章 内閣府「国民生活に関する世論調査」の活用

第7章 過去の研究室調査との比較分析

第8章 質問文の有効性の検討

編集後記

序章 社会調査による生活実態の把握と分析

複雑に入り組んだ現代社会に生きる我々にとって、「調査」はその実態を明らかにする上で大きな役割を果たしている。調査は社会の現況や問題点を把握し、改善していく上で欠かせないものである。ここ数年はインターネットの普及などの影響で調査の種類が多様化し、誰でも調査に関わることができる世の中になった。このように、調査は我々にとって身近なものになったが、果たして本当に効果のある調査はどれくらいあるのだろうか。世間に溢れかえっている調査について見ていくと、問題が山積しているものが大多数を占める。そしてこの問題は、政府や地方自治体が実施している調査についても例外ではない。そしてこのような状況の中、厚生労働省の「毎月勤労統計調査」の捏造を筆頭とした政府統計の不正という最悪の事態が起きてしまった。政府の基幹統計の約4割に誤りがあった事実は、国への信頼を根幹から揺るがしかねない。さらに、経済学を中心とした統計調査に比べると、社会学に基づいた社会調査は軽視されている。そのため、本報告書内で取り扱う都道府県の社会調査に関しても、政策立案に役立っていない調査が数多く存在している。このような状況では、都道府県民の生活実態や問題点を正確に把握することができない。

そこで、本共同研究では都道府県庁が実施している社会調査の実態と抱える課題を整理した上で、国民生活の実態をより正確に測定できる新しい調査を構築していく試みを行っている。その研究の一環として、大谷研究室では2017年度に「愛媛・長崎県民生活実態調査」を実施した。この調査は、我々の先輩である大谷ゼミ18期生の研究によって明らかになった47都道府県の調査の問題点を踏まえ、現行の調査が「意識を問う質問」が多く政策立案に役立っていないことや、政府の調査がバラバラに実態把握せざるをえない現状を鑑みて、「事実を問う質問」を多く取り入れ、各項目をクロス分析することができるように構築されている。研究の過程で、我々大谷ゼミ19期生26名は、調査票の作成や愛媛・長崎両県の市町村でのサンプリング作業、2000を超える回答のデータ入力、結果の分析など、様々な形で本調査に携わってきた。この報告書は、「愛媛・長崎県民生活実態調査」の結果の分析による国民生活の実態把握について、大谷ゼミ19期生26名が執筆した卒論をベースに編集したものとなっている。編集にあたって、ゼミ生の中から選ばれた編集委員による会議を定期的に行い、議論を重ねながら完成させることができた。

第1章では、「県民生活実態調査」の実施過程と、回収率向上のための工夫についてまとめている。調査の精度を高めるために、回収率を向上させることは非常に重要である。章の冒頭で実施過程について整理した上で、調査に回答してくれる人にはどのような傾向があるのかを明らかにすることで、回収率を向上させる手がかりをつかんでいく。

第2章では、「県民生活実態調査」における新たな取り組みの1つである、Google Mapを用いた調査データの空間分析法の開発についてまとめている。本調査では、職場の郵便番号や買い物をする店舗名、普段利用する病院名を問う、実験的な質問文を採用した。この質問文は、県民の生活行動を空間的に分析できるように工夫されている。本章ではこれらの質問文の有効性や、Google Mapによる回答結果の位置情報を活用した分析について述べていく。

第3章では、「県民生活実態調査」からわかる人々の「働き方」に関する実態を整理してまとめている。「働き方改革」により人々の生活行動が多様化しており、また共働き世帯も増加している。そのような現代社会において、職業や通勤だけでなくテレビ視聴時間や世帯収入、夫婦の就業組み合わせといった様々な観点から「働く」ことについて分析することで、より正確に実態を把握していく。

第4章では、「県民生活実態調査」の「家計構造」と「世帯収入」を問う質問文についてまとめている。家計構造については世帯の家計全体を10割として、収入別に割合を整数で記入する、実験的な質問文を採用した。これらの質問文によって、共働き世帯や年金生活者の家計の実態を測定することができた。本章では、特に年金生活者に着目しながら、家計構造を問う質問文の有効性や問題点について述べていく。

第5章では、「県民生活実態調査」からわかる「家族・夫婦」に関する実態を整理してまとめている。家族の

実態を社会調査によって正確に把握することは難しいが、本調査では家族に関する様々な項目をクロス分析できる。その利点を活かし、「同居・別居」や「子ども」、「きょうだい」など、現代社会の家族・夫婦の実態を詳細に述べていく。

第6章では、内閣府の調査である「国民生活に関する世論調査」の活用についてまとめている。本調査の「生活満足度」、「時間的ゆとり」、「インターネット利用」に関する質問文は、内閣府の調査と全く同じものを採用している。これにより、内閣府の調査のデータと結果を比較することができる。その上で、同じ質問文でも結果に差が出たのかどうか、質問文そのものの有効性はどの程度なのかを述べていく。

第7章では、「県民生活実態調査」による分析と、大谷研究室が過去に実施した「4 都市居住類型別調査」「関西ニュータウン調査」「西宮マンション調査」による分析の比較についてまとめている。ここでは、「パーソナル・ネットワーク」「車の所有・利用」「団塊世代に着目した分析」について、既存の研究室調査との比較、質問文の考察を行っている。

第8章では、その他の重要な質問文について、その有効性を検討していく。「県民生活実態調査」の質問文の中には、今後の調査でも使うことができる有効な質問文もあれば、今後の使用にあたっては再検討が必要な質問文も存在する。その根拠や問題点について、それぞれの項目ごとにまとめている。

また、本研究を進めるにあたって、多くの表や資料を作成した。代表的なものは本文中に記載しているが、詳細な表や分析方法については一部別途DVDに収録している。また、「県民生活実態調査」の概要や調査の経過についての詳細は、大谷研究室の昨年度の報告書である『47 都道府県庁が実施する社会調査の実態把握』や『科研費基盤研究中間報告書』（ともに2018年3月発行）に記載されているので、そちらも参照されたい。

各章担当者一覧

序章	田村航平
第1章	山下知恵・大森由依子
第2章	木島麻並・田村航平
第3章	酒谷果奈・田村航平・潮博史・長谷川慶・柳谷侑司
第4章	川村優佳
第5章	吉見将也・吹田孝介・大西聡・櫻本佳野・羽野裕也・山本治貴
第6章	長野僚太・石田裕太郎・岡田裕子
第7章	原田早也佳・小林弦輝・吉野由佳子
第8章	武藤俊太郎・江口梓・常吉珠生・増井真優・宮崎樹菜

下線は各章の編集委員 編集長：田村航平

第1章 県民生活実態調査の実施過程と回収率向上のための運用の工夫 ー調査方法論上のファインディングスー

本章では、日本学術振興会科学研究費基盤研究(A)「政策形成に貢献し調査困難状況に対応可能な社会調査方法の研究」(2016・2020 年度)の一環として実施した「愛媛・長崎県民生活実態調査」の実施過程と回収率向上のための運用の工夫についてまとめる。社会調査において、回収率の向上は調査の精度を高めるため非常に重要である。本調査では、調査方法論上の工夫を重ね、有効回収率 60%越えを実現できた。

第1項では、調査の概要として、ゼミ生で行ったサンプリング名簿の閲覧・抽出作業についてまとめ、得られたデータの正確性を、国勢調査と比較することで検証している。第2項では、回収率向上のための工夫と運用スケジュールをまとめている。第3項では、未回収率を出すことで、調査票を返送してくれない人の特徴を分析している。第4項では返送の早さと属性について分析している。第5項では、宛先不明についてまとめている。第6項ではNA・非該当の多かった設問について分析している。

1-1 サンプリング

① 概要

表 1-1 は、県民生活実態調査の調査概要である。標本の抽出間隔の算出方法の詳細は、『研究成果中間報告書(p.34~35)』を参照。両県とも、当初の設定目標である回収率 60%を達成することができた。

【表 1-1】

調査地	愛媛県・長崎県		
調査対象者	18~80 歳の住民		
サンプル数	各県 2000、計 4000		
抽出方法	[愛媛]選挙人名簿による層化無作為抽出法 [長崎]住民基本台帳による確率比例抽出法		
調査方法	郵送法による質問紙調査		
調査期間	2017 年 7 月~9 月		
回収率	[愛媛] 回収数 1248 有効回収数 1210 有効回収率 60.5% [長崎] 回収数 1240 有効回収数 1226 有効回収率 61.3%		

【表 1-2 抽出スケジュール】

(愛媛県)		(長崎県)	
6/13(火)	四国中央市	6/23(金)	島原市、南島原市、東彼杵町、佐々町、川棚町、波佐見町
6/14(水)	砥部町、大洲市	6/27(火)	佐世保市、諫早市、大村市、雲仙市、五島市
6/15(木)	内子町、久万高原町	6/28(水)	小値賀町、長崎市、新上五島町、西海市、壱岐市
6/19(月)	上島町、松前町、伊予市、鬼北町、松野町	6/29(木)	長崎市、長与町
6/20(火)	宇和島市、愛南町、松山市、伊方町、西予市	6/30(金)	対馬市、松浦市、平戸市、諫早市、時津町
6/21(水)	八幡浜市、東温市		
6/22(木)	西条市、今治市		
6/23(金)	新居浜市		

抽出ミスがあったため、追加サンプリングを行った(各 1 サンプル)

7/19 四国中央市、7/21 愛南町、7/6 雲仙市、7/19 諫早市

② 作業

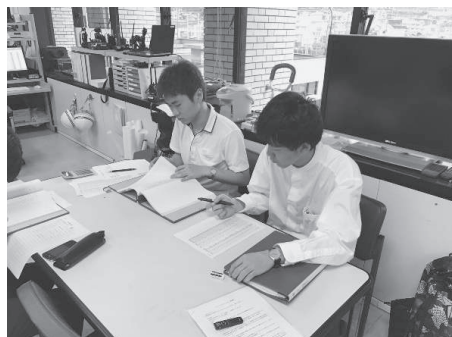
表 1-2 は、抽出スケジュールをまとめたものである。サンプリング作業は、2017 年の 6 月に当時のゼミ 3 回生で愛媛県・長崎県のすべての市町役場を訪れ、実施した。抽出件数に応じて、1 市町あたり 1~4 名で作業を行った。愛媛県では「選挙人名簿」、長崎県では「住民基本台帳」を閲覧したため、事前の申請手続きや閲覧方法もそれぞれ異なった。愛媛県各市町での担当課は、すべて選挙管理委員会、長崎県各市町の担当課は、住民基本台帳を扱う市民課が多かった。また、最も大きな特徴として、選挙人名簿では閲覧料が不要なのに対して、住民基本台帳では閲覧料が必要だという点があげられる。閲覧料が 300 円の市町が 19 と最も多く、最高が老岐市の 350 円、最低が佐々町の 200 円だった。市町ごとの閲覧媒体、名簿並び順、閲覧料の詳細は、『研究成果中間報告書(p.36~39)』を参照。

【サンプリング作業の感想(松山市)】

10 時から 17 時半まで休憩無し、お昼ご飯無しで作業をしました。4 人で作業をし、抽出数 729 のうち 600 を超えても終わる見込みがなく、時間ギリギリまでやりました。約 8 時間、パソコンを凝視しページをスクロールし続けたので大変でした。その点、紙での閲覧はページをめくりやすいので良いと思いました。作業が 17 時までの予定でしたが、17 時半まで職員の方が見守ってくださって、有難かったです。

このように、閲覧人数に上限があり、なおかつ抽出数が多い市町では作業の負担が大きかったことが分かる。なお、他の市町でのサンプリング作業の感想・写真は DVD を参照。

【作業写真 1-1(八幡浜市)】



【作業写真 1-2(大学で封入)】



このような作業を経て抽出したデータを、ゼミ生で Excel に入力し、印刷業者への発注後、封入作業を行い、発送した。

③ サンプリングデータの検証

次に、愛媛県と長崎県で異なるサンプリング台帳を用いていることに着目し、抽出されたデータに差異が出るかどうか、分析したい。表 1-3 は、本調査で抽出されたデータの年代分布を、国勢調査と比較したものである。表 1-4 は、市町ごとの人口割合を国勢調査と比較したものである。

【表 1-3 国勢調査の年代分布と比較】

	愛媛		長崎	
	国勢調査(%)	選挙人名簿(%)	国勢調査(%)	住民基本台帳(%)
18~19 歳	2.2	3.1	2.2	1.8
20 代	10.8	10.0	11.1	10.1
30 代	14.7	14.1	14.3	14.4
40 代	17.3	17.4	16.7	16.1
50 代	16.6	15.9	17.5	18.0
60 代	21.2	22.5	21.5	22.7
70~80 歳	17.2	17.1	16.8	17.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0

【表 1-4 国勢調査の市町と比較】

	愛媛			長崎	
	国勢調査	選挙人名簿		国勢調査	住民基本台帳
	18～80 歳 人口割合(%)	18～80 歳 人口割合(%)		18～80 歳 人口割合(%)	18～80 歳 人口割合(%)
松山市	37.1	36.5	長崎市	31.7	31.7
今治市	11.6	11.6	佐世保市	18.6	18.6
宇和島市	5.6	5.7	島原市	3.2	3.3
八幡浜市	2.5	2.6	諫早市	10.1	10.1
新居浜市	8.7	8.6	大村市	6.7	6.8
西条市	7.8	7.9	平戸市	2.3	2.3
大洲市	3.1	3.2	松浦市	1.7	1.7
伊予市	2.7	2.7	対馬市	2.3	2.3
四国中央市	6.4	6.4	壱岐市	1.9	1.9
西予市	2.7	2.9	五島市	2.7	2.7
東温市	2.5	2.4	西海市	2.0	2.0
上島町	0.5	0.5	雲仙市	3.1	3.2
久万高原町	0.6	0.7	南島原市	3.3	3.3
松前町	2.2	2.2	長与町	3.1	3.2
砥部町	1.6	1.6	時津町	2.2	2.2
内子町	1.2	1.3	東彼杵町	0.6	0.6
伊方町	0.7	0.8	川棚町	1.0	1.0
松野町	0.3	0.3	波佐見町	1.1	1.1
鬼北町	0.7	0.8	小値賀町	0.2	0.2
愛南町	1.6	1.7	佐々町	1.0	1.0
			新上五島町	1.4	1.4
計	100.0	100.0	計	100.0	100.0

※平成 27 年国勢調査 <https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2.html>

『平成 27 年国勢調査 人口等基本集計（男女・年齢・配偶関係、世帯の構成、住居の状態など）』より作成

両県とも、国勢調査と県民意識調査で比較すると、年代・市町ごとに抽出される割合はほぼ同じ値を示している。また、選挙人名簿と住民基本台帳のあいだで、精度に大きな差はなかった。

これらから、選挙人名簿と住民基本台帳を用いた調査では、国勢調査と同じ精度のサンプリング抽出が可能だと分かった。また、申請手続きの書類提出の煩雑さや、費用を考慮すると、閲覧料が無料の愛媛県の選挙人名簿の方が適しているのではないかと。国の科研費を使用した学術調査なため、費用が削減されるに越したことはない。

1-2 工夫と運用スケジュール

① 工夫

本調査では、回収率向上のために以下の工夫を施した。

【表 1-5】

- ・調査目的周知のため、記者会見を行った(愛媛県のみ)
 - ・正規調査票送付 1 週間前に依頼はがきを送付
 - ・正規調査票 → 「切手を貼付した返信用封筒、モリサワフォントを使用、県のキャラクター入り」
 - ・先渡し謝礼ボールペンを封入
 - ・正規締め切り日前に催促はがきを送付
 - ・正規締め切り日後に催促調査票を送付
- (詳細は中間報告書 p28～p32)

表 1-5 のような工夫を施し、表 1-6 のスケジュールで運用した。ただ、大学の夏季休暇中(8/11～8/21)は構内に立ち入りができないため、この期間に到着した調査票の開封作業は夏季休暇明けにまとめて行った。そのため、催促調査票発送直後(8/9 以降)に効果がどれだけあったのか、1 日刻みでの分析ができなかったのが問題点としてあげられる。また、表 1-7 のように、回収日区分を 4 つ設定し、第 4 項の返送の早さの分析で用いる。

【表 1-6 スケジュール】

7/06(木)	依頼はがき発送
7/12(水)	調査票発送
7/27(木)	催促はがき発送
7/28(金)	正規締切日
8/09(水)	催促調査票発送
8/11(金)～8/21(月)	大学一斉休暇

【表 1-7 回収日区分】

①	7/13～7/20 最も返送が早い人 (1 週目)
②	7/21～7/28 (2 週目)
③	7/29～8/09 催促はがき発送後、返送した人
④	8/10～9/07 催促調査票発送後、返送した人

② 調査への問い合わせ対応

調査票発送後、7 月 13 日～8 月 11 日の平日(受付時間 10:00～15:00)に、関西学院大学社会学部大谷研究室に調査本部を設置し、ゼミ生による電話問い合わせ対応を行った。

研究室への問い合わせ件数は、研究室への電話が 51 件、メールが 7 件だった。

また、長崎県民による長崎県庁への電話が 16 件、来庁が 1 件。愛媛県民による愛媛県庁への問い合わせは、電話、来庁ともに 0 件だった。表 1-8 に内訳をまとめた。

【表 1-8 問い合わせ内容】

	苦情	調査の質問	質問文の質問	真偽確認	辞退・拒否・不可	郵便行き違い	住所・宛名間違い	計
愛媛県民から	0	3	2	4	12	0	2	23
長崎県民から	1	6	2	15	9	0	0	33
県不明	0	1	2	2	11	3	0	19
計	1	10	6	21	32	3	2	75

問い合わせ内容の例は、「どこから個人情報入手したのか」「詐欺ではないのか」「本人が回答不能の場合、代理回答をしてもよいのか」「氏名の漢字が間違っている」というものだった。詳細は、『研究成果中間報告書 p.50』を参照。

1-3 回収状況

表 1-9 では、市町別の回収状況をまとめた。

今回は、回収数だけでなく、未回収数にも注目し、未回収率を算出した。従来の調査では、「どれだけ回収ができたか」に重点が置かれ、未回収数には言及されてこなかった。しかし、回収率の向上には、返送してくれない人へのアプローチが不可欠である。今回、未回収率を用いて分析することで、「どれだけの人返送してくれないのか」「どの属性の人が返送してくれないのか」を把握することができる。

SPSS には、返送のあった人のデータしか入っておらず分析ができないため、新たにファイルを作成した。→サンプリングデータ Excel の「住所、性別、生年月日」の項目と、回収状況 Excel の「返送チェック(0=返送なし、1=返送あり)」の項目を統合し、データを SPSS に移した。年齢は 2017 年 6 月 1 日時点のものを生年月日から算出した。作成した SPSS ファイルの例は DVD を参照。

【表 1-9 回収状況 市町別】 *未回収率(%)=未回収数/送付数 **回収率(%)=回収数/送付数

	愛媛						長崎					
		送付数	回収数 (無効票 含む)	回収率 (%)**	未回収 数	未回収 率(%)*		送付数	回収数 (無効票 含む)	回収率 (%)**	未回収 数	未回収 率(%)*
市 町	松山市	729	443	60.7	287	39.2	長崎市	634	395	62.3	239	37.7
	今治市	232	143	61.6	89	38.4	佐世保市	371	216	58.2	155	41.8
	宇和島市	114	68	59.6	46	40.4	島原市	65	40	61.5	25	38.5
	八幡浜市	52	41	78.8	11	21.2	諫早市	202	121	59.9	81	40.1
	新居浜市	172	109	63.0	63	36.6	大村市	135	84	62.2	51	37.8
	西条市	157	93	59.2	64	40.8	平戸市	45	29	64.4	16	35.6
	大洲市	64	40	62.5	24	37.5	松浦市	33	26	78.8	7	21.2
	伊予市	54	34	63.0	20	37.0	対馬市	45	23	51.1	22	48.9
	四国中央市	127	83	65.4	44	34.6	壱岐市	37	24	64.9	13	35.1
	西予市	58	37	63.8	21	36.2	五島市	53	35	66.0	18	34.0
	東温市	48	32	66.7	16	33.3	西海市	40	28	70.0	12	30.0
	上島町	10	7	70.0	3	30.0	雲仙市	63	35	55.6	28	44.4
	久万高原町	13	7	53.8	6	46.2	南島原市	65	47	72.3	18	27.7
	松前町	44	30	68.2	14	31.8	長与町	63	43	68.3	20	31.7
	砥部町	31	16	51.6	15	48.4	時津町	44	24	54.5	20	45.5
	内子町	25	18	72.0	7	28.0	東彼杵町	12	10	83.3	2	16.7
	伊方町	15	10	66.7	5	33.3	川棚町	20	10	50.0	10	50.0
	松野町	6	5	83.0	1	16.7	波佐見町	22	14	63.6	8	36.4
	鬼北町	16	10	62.5	6	37.5	小値賀町	3	2	66.7	1	33.3
	愛南町	33	12	66.7	11	33.3	佐々町	20	14	70.0	6	30.0
							新上五島町	28	20	71.4	8	28.6
	計	2000	1248	62.4	752	37.6	計	2000	1240	62.0	760	38.0

【表 1-10 回収状況 性別・年代】

		愛媛					長崎				
		送付数	回収数 (無効票 含む)	回収率 (%)	未回収 数(年代 NA=1)	未回収 率(%)	送付数	回収数 (無効票 含む)	回収率 (%)	未回収 数(性別 NA=1)	未回収 率(%)
性 別	男性	969	571	58.9	398	41.1	959	557	58.1	402	41.9
	女性	1031	677	65.7	354	34.3	1040	683	65.7	357	34.3
	計	2000	1248		752		1999	1240		759	
年 代	10代	61	26	42.6	35	57.4	36	16	44.4	20	55.6
	20代	199	91	45.7	108	54.3	201	90	44.8	111	55.2
	30代	282	138	48.9	144	51.1	287	158	55.1	129	44.9
	40代	348	193	55.5	155	45.1	321	174	54.2	147	45.8
	50代	317	211	66.6	106	33.4	360	249	69.2	111	30.8
	60代	450	338	75.1	112	24.9	453	319	70.4	134	29.6
	70代	342	251	73.4	91	26.6	342	234	68.4	108	31.6
	計	1999	1248		751		2000	1240		760	

サンプリング名簿の性別・年代のデータを用いて、表 1-10 では、性別・年代ごとの回収状況をまとめた。

なお、表 1-10 内の愛媛県の未回収数の「年代の NA=1」と、長崎県の未回収数の「性別の NA=1」は、サンプリング原簿を確認したところ、転記ミスにより空欄になっていた。

表 1-9・表 1-10 より、まず、属性的特徴として、両県とも男性の方が未回収率が高く、年代は 10 代・20 代の未回収率が高い。年代が上がるにつれて、未回収率は低くなる。

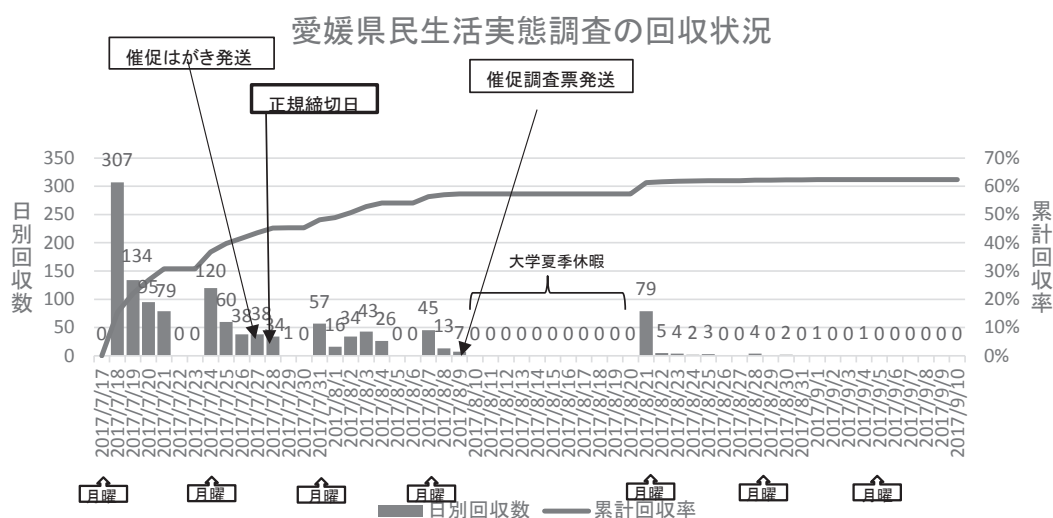
- ・「男性は返送してくれない」、
- ・「若年層は返送してくれない」

次に、地域の特徴を見る。愛媛県で、砥部町・久万高原町・西条市・宇和島市の順に未回収率が高い。一方、松野町・八幡浜市・内子町の順に未回収率が低い。長崎県は、川棚町・対馬市・時津町・雲仙市の順に未回収率が高い。一方、東彼杵町・松浦市・南島原市の順に未回収率が低い。地域別の回収率の目立った特徴はなかった。

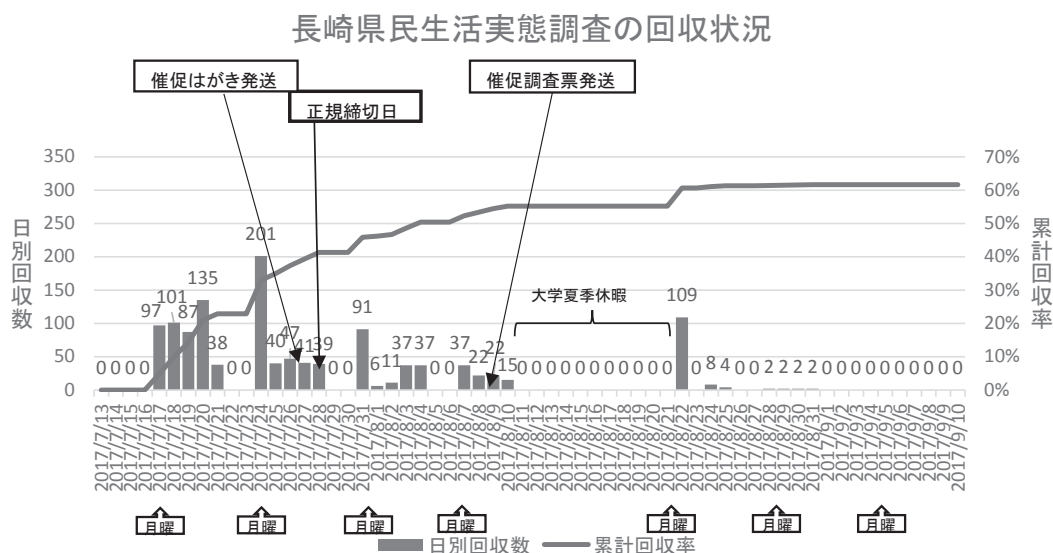
1-4 返送の早さ

表 1-11、表 1-12 は、日別の回収数の推移をまとめたものである。

【表 1-11 愛媛県 日別回収数と累計回収率】



【表 1-12 長崎県 日別回収数と累計回収率】



両県とも共通して、以下の特徴がある。

- ・「休み明けの月曜日の回収数が多くなっている」
- ・「催促調査票発送後に回収数が増えている」

また、注目すべき点は、愛媛県の1週目の回収数が突出していることだ。総回収数1248件のうち307件が1週目の7月18日に回収されている。なぜ愛媛県ではこのように回収の反応が良かったのか。

要因として、愛媛県のみで行った記者会見の効果があつたのではないかと推測した。記者会見は、愛媛県庁と研究代表者と松山大学の担当者が出席し、テレビはNHK松山、新聞は愛媛新聞、産経新聞、読売新聞に掲載されたため、多くの人の目に留まり、調査への不安感の軽減につながったのではないかと。本章3-2の問い合わせ対応の集計で、長崎県庁への問い合わせは計17件であつたのに対し、愛媛県庁へは0件だった点や、調査の「真偽確認」の問い合わせが長崎県民からは15件に対し、愛媛県民からは4件だった点をふまえても、記者会見の効果はあつたと考えられる。

次ページ表1-13では、属性ごとに回収の早さを分析した。

【市町：回収日】

愛媛県で、大洲市・松野町・愛南町では、1週目の返送率が2週目の返送率より低く、それ以外の市町では、1週目と2週目が同じ、もしくは、1週目の方が高い。長崎県は、長崎市・島原市・平戸市・松浦市・対馬市・壱岐市・五島市・東彼杵町・新上五島町で、1週目の返送率が2週目の返送率より低い。

【性別：回収日】

性別と回収日の早さを分析すると、両県で以下の3つの特徴が共通していた。

- ・「男性の方が早く返送する(1週目に返送する)」
- ・「2週目に返送する割合は、女性の方が多くなる」
- ・「女性の方が催促後の反応が良い」

さらに、これら3つとも、松田(2017)の調査でも同じ傾向が見られたため、不変だと考えられる。

【年代別：回収日】

年代と回収日の早さの分析においても、両県で以下の特徴が共通していた。

- ・「若い人ほど、早く返送せず催促後の反応が良い」

こちらも松田(2017)の調査で同じ傾向が見られた。これはつまり、「年齢が高くなるほど、早く返送する割合が多くなる」といえる。愛媛県で年代ごとに見ると、50代、60代それぞれで1週目に返送した人は40%越え、70代以上で1週目に返送した人は50%越えと高かった。

【家族構成別：回収日】

両県とも、一週目に返送してくる割合は、単身ではない方が多い。愛媛県は二週目に返送してくる割合は、単身ではない方が多い。一方、長崎は二週目に返送してくる割合は単身の方が多。両県とも、「催促はがき」発送後の反応は、単身・単身ではないの間であまり差がなかった。愛媛県では、「催促調査票」発送後の反応は、単身の方が良く、長崎県では、単身ではない方が反応が良かった。

【学歴別：回収日】

○中卒・高卒→「中・高卒」

○高専・短大・専門学校・大学・大学院卒→「大卒など」として分析

両県とも、[中・高卒]の方が一週目に返送してくる割合が多い。中高卒の多い、高齢者の返送が早いことも影響していると考えられる。両県とも、[大卒など]の方が「催促はがき」発送後と「催促調査票」発送後に返送してくる割合が多い。

【表1-13 回収日と属性(市町・性別・年代・家族構成)】

愛媛県						長崎県					
(NA=0)	① 1 週 目	② 2 週 目	③ 催 促 は が き 後	④ 催 促 調 査 票 後	計	(NA=4)	① 1 週 目	② 2 週 目	③ 催 促 は が き 後	④ 催 促 調 査 票 後	計
松山市	45.1	28.9	18.9	7.1	100.0(439)	長崎市	34.6	34.9	19.0	11.5	100.0(390)
今治市	42.6	38.3	10.6	8.5	100.0(141)	佐世保市	35.5	30.3	23.2	10.9	100.0(211)
宇和島市	49.3	29.9	20.9	0.0	100.0(67)	島原市	22.5	35.0	27.5	15.0	100.0(40)
八幡浜市	40.0	32.5	12.5	15.0	100.0(40)	諫早市	32.8	32.8	23.5	10.9	100.0(119)
新居浜市	47.6	22.3	23.3	6.8	100.0(103)	大村市	41.5	25.6	24.4	8.5	100.0(82)
西条市	35.2	28.4	29.5	6.8	100.0(88)	平戸市	27.6	34.5	20.7	17.2	100.0(29)
大洲市	26.3	34.2	21.1	18.4	100.0(38)	松浦市	34.6	38.5	19.2	7.7	100.0(26)
伊予市	38.2	38.2	8.8	14.7	100.0(34)	対馬市	27.3	50.0	18.2	4.5	100.0(22)
四国中央市	42.3	21.8	29.5	6.4	100.0(78)	杵岐市	26.1	34.8	21.7	17.4	100.0(23)
西予市	36.4	36.4	18.2	9.1	100.0(33)	五島市	17.1	54.3	20.0	8.6	100.0(35)
東温市	48.0	16.0	24.0	12.0	100.0(25)	西海市	50.0	25.0	17.9	7.1	100.0(28)
上島町	42.9	42.9	0.0	14.3	100.0(7)	雲仙市	34.3	28.6	14.3	22.9	100.0(35)
久万高原町	71.4	0.0	28.6	0.0	100.0(7)	南島原市	40.4	21.3	29.8	8.5	100.0(47)
松前町	44.8	34.5	13.8	6.9	100.0(29)	長与町	47.6	26.2	16.7	9.5	100.0(42)
砥部町	31.3	31.3	18.8	18.8	100.0(16)	時津町	37.5	33.3	12.5	16.7	100.0(24)
内子町	55.6	16.7	22.2	5.6	100.0(18)	東彼杵町	20.0	50.0	20.0	10.0	100.0(10)
伊方町	60.0	30.0	10.0	0.0	100.0(10)	川棚町	40.0	40.0	0.0	20.0	100.0(10)
松野町	20.0	40.0	40.0	0.0	100.0(5)	波佐見町	35.7	21.4	28.6	14.3	100.0(14)
鬼北町	40.0	40.0	20.0	0.0	100.0(10)	小値賀町	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0(2)
愛南町	36.4	59.1	4.5	0.0	100.0(22)	佐々町	21.4	14.3	35.7	28.6	100.0(14)
						新上五島町	10.5	42.1	31.6	15.8	100.0(19)
計	43.1	30.1	19.2	7.6	100.0(1210)	計	34.2	32.8	21.3	11.7	100.0(1222)
(NA=22)	①	②	③	④	計	(NA=27)	①	②	③	④	計
男性	44.6	29.3	18.8	7.3	100.0(536)	男性	39.2	29.8	20.8	10.1	100.0(533)
女性	41.7	31.3	19.8	7.2	100.0(652)	女性	30.6	35.7	21.8	11.9	100.0(666)
計	43.0	30.4	19.4	7.2	100.0(1188)	計	34.4	33.1	21.4	11.1	100.0(1199)
(NA=88)	①	②	③	④	計	(NA=100)	①	②	③	④	計
20代以下	27.6	31.6	26.5	14.3	100.0(98)	20代以下	26.8	30.5	24.4	18.3	100.0(82)
30代	38.1	32.5	19.8	9.5	100.0(126)	30代	23.4	26.2	27.6	22.8	100.0(145)
40代	37.1	29.7	24.0	9.1	100.0(175)	40代	30.4	29.2	26.1	14.3	100.0(161)
50代	42.6	28.2	21.3	8.0	100.0(188)	50代	36.4	34.2	21.5	7.9	100.0(228)
60代	48.5	30.0	17.2	4.3	100.0(303)	60代	38.4	33.2	19.5	8.9	100.0(292)
70代以上	52.6	31.5	12.1	3.9	100.0(232)	70代以上	39.0	40.4	15.6	5.0	100.0(218)
計	43.6	30.4	19.0	7.0	100.0(1122)	計	34.2	33.1	21.5	11.2	100.0(1126)
(NA=16)	①	②	③	④	計	(NA=16)	①	②	③	④	計
単身	42.2	26.6	18.8	12.3	100.0(154)	単身	27.1	45.1	21.1	6.8	100.0(133)
単身ではない	43.6	30.8	18.9	6.7	100.0(1040)	単身ではない	35.4	31.8	21.3	11.5	100.0(1060)
計	43.4	30.2	18.9	7.5	100.0(1194)	計	34.5	33.3	21.3	11.0	100.0(1193)
(NA=36)	①	②	③	④	計	(NA=64)	①	②	③	④	計
中・高卒	45.5	30.9	16.8	6.8	100.0(618)	中・高卒	35.6	34.0	20.6	9.9	100.0(720)
大卒など	40.6	30.6	21.6	7.2	100.0(556)	大卒など	33.3	31.7	21.7	13.3	100.0(442)
計	43.2	30.7	19.1	7.0	100.0(1174)	計	34.7	33.1	21.0	11.2	100.0(1162)

1-5 宛先不明等

宛先不明として研究室に送り返された調査票に着目した。どれだけの調査票が、宛先に届かず戻ってきたのか、それらには何か共通点がないのか、何が原因だったのか、分析した。

表 1-14 は宛先不明や受け取り拒否の件数をまとめたものである。

【表 1-14 宛先不明・受け取り拒否件数】

	葉書 宛先不明	調査票 宛先不明 1 回目	調査票 宛先不明 2 回目	調査票 受取拒否	その他	返送計	有効数
(愛媛県)							
松山市	18	24		2	2		
今治市	2	3		0	1		
宇和島市	1	1		0	0		
新居浜市	2	3		0	0		
西条市	0	1		0	0		
大洲市	2	2		0	0		
伊予市	1	1		0	0		
四国中央市	0	1		0	0		
西予市	0	0		1	0		
砥部町	1	1		0	0		
内子町	0	0		1	0		
鬼北町	1	1		0	0		
愛南町	1	1		0	0		
合計	29	39	0	4	3	1248	1210
(うち、住所 が集合住宅)	(2)	(2)	(0)				
(長崎県)							
長崎市	7	7	1	3	1		
佐世保市	5	4	0	1	1		
島原市	1	1	0	0	0		
諫早市	2	5	0	1	0		
五島市	0	1	0	1	0		
西海市	0	0	0	1	0		
南島原市	2	2	0	0	0		
長与町	1	1	0	0	0		
時津町	1	1	0	0	0		
合計	19	22	1	7	2	1240	1226
(うち、住所 が集合住宅)	(7)	(9)	(0)				

なお、表内に記載している集合住宅の数は、サンプリング原簿の住所に建物名や部屋番号が含まれているものをカウントしたものである。管理番号と集合住宅に着目し、宛先不明になった原因を考察する。

- ・愛媛県の方が長崎県より「葉書宛先不明」「調査票宛先不明」の数が多い。
- ・長崎県は、「葉書宛先不明」「調査票宛先不明」のうち、住所が集合住宅になっている割合が高い。

① 宛先不明の原因を探る——管理番号に着目する

愛媛県は、管理番号が連番で宛先不明になっている(No.38～40、No.169～170、No.500～503)。そして、これらの住所はすべて松山市だった。そこで、サンプリング原簿の住所に何らかの問題があったのではと仮説をたて、原因を調べた。一方、長崎県は、愛媛県のように管理番号が連番になっている宛先不明はなかった。

連番宛先不明の確認

◎サンプリング原簿(手書き)と、データ入力後の Excel のデータを照合し、確認した。
・No.38～40、No.169～170 に関しては、不備が見当たらず、連番で宛先不明になった原因が分からなかった
・No.500～503 の 4 件のデータに関しては、我々の人為ミスが原因だと判明
→原簿には「土居田町」と記入してあるのに、Excel に「土居町」と誤って入力してあった。
(Excel 例)「土居町●●番地」「〒790-0056(土居田町の郵便番号)」
これが、印刷会社による郵便番号チェックにより…
(Excel 例)「土居町●●番地」「〒791-1115(土居町の郵便番号)」
と訂正されてしまい、本来「土居田町」に送付されるはずが、「土居町」に送付され、宛先不明となってしまった。

1 つ目のミスだけならば、郵便番号は正しいため、調査票が辛うじて届いていた可能性もあるが、印刷会社が良かれと思い行ったチェックにより、このような事態が起こるとは、予想外だった。宛先不明に限らず、連番で何かしらのエラーが生じている場合は、サンプリング原簿に立ち返り、丹念に調べるのが重要である。人為ミスが起きるのは仕方ないことだが、宛先不明に戻ってきたときにすぐ原因を突き止め、送付し直していたら、回収数があと 4 件増えていたかもしれない。

② 宛先不明の原因を探る——集合住宅に着目する

「宛先不明、かつ、住所が集合住宅」の数を調べた。(寮・宿舍・県営住宅も含む)

愛媛「葉書宛先不明」…2 件、「調査票宛先不明」…2 件

長崎「葉書宛先不明」…7 件、「調査票宛先不明」…9 件

・両県ともに、部屋番号の記載漏れはなかった。

・長崎は、宿舍と思われる住所が 2 件含まれていた(九電・自衛隊)。

→集合住宅の宛先不明は、建物名・部屋番号の不備を疑ったが、そうではなく、転居によるものではないかと結論付けた。

1-6 NA・非該当について

どのような質問で NA(ノーアンサー)・非該当が多かったのか、なぜそのような結果になったのかを分析していく。分析により、回答者が答えづらかった質問項目を明らかにし、今後調査を行う際に役立てたい。表 1-15 は、NA・非該当にあたる回答の数と、それが占める割合をまとめたものである。

単純集計表から NA が多かった質問文 5 つを挙げる。

【愛媛県】

問 23(1)NA=117 その病院へ行く場合、最も利用している交通手段は次のどれですか。

問 26(2)NA=160 あなたは「この 1 年」で、次の施設を利用したことがありますか。(2)公立の図書館などの社会教育施設

問 26(3)NA=190 あなたは「この 1 年」で、次の施設を利用したことがありますか。(3)お住まいの地域の学校施設

問 26(4)NA=153 あなたは「この 1 年」で、次の施設を利用したことがありますか。(4)公共の文化ホールなどの文化施設

問 33 NA=241 あなたの世帯の家計(収入)はどのように構成されていますか。家計全体を 10 とし、それぞれの割合を整数でお答えください。すべて足し合わせて 10 になるようにご記入ください。

【長崎県】

問 13(2)NA=155 あなたが日ごろ最も頼りにしている人は、どなたですか。

問 26(2)NA=182 あなたは「この 1 年」で、次の施設を利用したことがありますか。(2)公立の図書館などの社会教育施設

問 26(3)NA=214 あなたは「この 1 年」で、次の施設を利用したことがありますか。(3)お住まいの地域の学校施設

問 26(4)NA=176 あなたは「この 1 年」で、次の施設を利用したことがありますか。(4)公共の文化ホールなどの文化施設

問 33 NA=268 あなたの世帯の家計(収入)はどのように構成されていますか。家計全体を 10 とし、それぞれの割合を整数でお答えください。すべて足し合わせて 10 になるようにご記入ください。

両県とも NA が多かったのは、問 13(2)の最も頼りにしている人についての質問文、問 23 の利用する病院と交通手段、所要時間についての質問文、問 26 の施設利用を問う質問文だった。問 26 は、質問文が指す「施設」が何であるのか理解しにくかったことが考えられる。問 33 と問 34 はどちらも世帯の収入についての質問文である。どちらも「答えたくない」という選択肢が用意されていたにもかかわらず、問 33 の方が NA が多いことから、回答者の負担が大きかったと考えられる。

【表 1-15 設問別 NA・非該当】 ※意識を問う質問

番号	質問内容	愛媛				長崎			
		NA 数	NA 率 (%)	非該当数	非該当率 (%)	NA 数	NA 率 (%)	非該当数	非該当率 (%)
問 1	性別	22	1.8			23	1.9		
問 2	配偶関係	7	0.6			11	0.9		
問 3	年齢	88	7.3			96	7.8		
問 4	出身地	34	2.8			46	3.8		
問 5	職業	18	1.5			24	2.0		
問 5(1)	職場	51	4.2	441	30.4	41	3.3	439	35.8
問 5(2)	通勤手段	45	3.7	489	40.4	63	5.1	472	38.5
問 6	学歴	36	3.0			60	4.9		
問 7	きょうだい	14	1.2			41	3.3		
問 8	子供有無	23	1.9	10	0.8	44	3.6	11	0.9
問 9	父親の存命	81	6.7			98	8.0		
問 9	母親の存命	74	6.1			93	7.6		
問 10	両親同居	37	3.1			64	5.2		
問 10(1)	両親の家への交通手段	42	3.5	667	55.1	61	5.0	620	50.6
問 10(2)	両親の家への所要時間	44	3.6	663	54.8	71	5.8	634	51.7
問 12※	もっとも頼りにしている家族・親族	27	2.2			46	3.8		
問 13(1)※	最も親しくしている人	45	3.7			75	6.1		
問 13(2)※	最も頼りにしている人	111	9.2			155	12.6		
問 14	居住年数	35	2.9			56	4.6		
問 15	住居種別	11	0.9			21	1.7		
問 16	同居人数	14	1.2			28	2.5		
問 17	同居者家族構成	16	1.3			30	2.4		
問 18※	生活満足	25	1.2			27	2.2		
問 19※	日ごろのゆとり	10	0.8			22	1.8		
問 20	テレビ視聴時間	12	1.0			23	1.9		
問 21	食料品購入者	13	1.1			25	2.0		
問 22	食料品購入店	35	2.9			80	6.5		
問 22(1)	店舗への交通手段	19	1.6			56	4.6		
問 22(2)	店舗への所要時間	37	3.1			76	6.2		
問 23	利用する病院	141	11.7			139	11.3		
問 23(1)	病院への交通手段	117	9.7			126	10.3		
問 23(2)	病院への所要時間	128	10.6			144	11.7		
問 24	国内旅行	8	0.7			21	1.7		
問 25	海外旅行	31	2.6			54	4.4		
問 26(1)	施設利用(公民館や集会所)	90	7.4			112	9.1		
問 26(2)	施設利用(社会教育施設)	160	13.2			182	14.8		
問 26(3)	施設利用(学校施設)	190	15.7			214	17.5		
問 26(4)	施設利用(文化施設)	153	12.6			176	14.4		
問 27(1)	県の広報誌	92	7.6			66	5.4		
問 27(2)	市町の広報誌	42	3.5			56	4.6		
問 28※	地域活動の盛んさ	29	2.4			37	3.0		
問 29※	地域活動へのかわり	26	2.1			36	2.9		
問 30	自家用車	20	1.7			28	2.3		
問 31	運転頻度	72	6.0			104	8.4		
問 32	インターネット利用	36	3.0			46	3.8		
問 33	家計の構造	241	19.9			268	21.8		
問 34	世帯収入	55	4.5			69	5.6		

1-7 まとめ

回収率向上の工夫をするため、回収の早さの区分を同じにし、県民生活実態調査と松田(2017)を比較してみると、男性女性、若年層という属性において全く同じ傾向があったので興味深かった。郵送調査における回答者の特徴を把握できたのはとても意味がある。今後の調査でも可能ならば同じ分析をしてみたいし、調査対象者の属性によってアプローチの仕方を変えることで、回収率向上につながるだろう。

また今回の調査で、分析をする前の、データの統合作業に非常に時間がかかった。返送の有無、有効無効、回収日、性別、年齢といった最低限の項目が一目で分かるような Excel のフォーマットを事前に作っておくと、負担が軽減されるのではないかな。(フォーマット例は DVD を参照)

参考文献

松田映二, 2017, 「新たな時代への地域づくり—標本調査を用いて人口減少への対応を考察—」『政策と調査』12(2):1-196.

総務省統計局, 2015, 「平成 27 年国勢調査」(<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2.html>).

『都道府県, 年齢 (5 歳階級), 男女別人口—総人口(平成 27 年 10 月 1 日現在)』

『都道府県・市区町村別主要統計表』

『人口等基本集計 (男女・年齢・配偶関係, 世帯の構成, 住居の状態など)』

第2章 調査データの空間分析法の開発ーGoogle Mapの活用法と特性の考察ー

県民生活実態調査は愛媛県と長崎県という地方部で調査を行った。これまでの大谷研究室の調査（『関西ニュータウン比較調査研究』や『西宮アパート・マンション調査』）では、場所を問う質問の場合には最寄り駅を問うてきた。しかしながら、公共交通機関が発達している都会の地域では有効であっても、地方部では有効でないことが予想された。そのため本調査では郵便番号を問う質問文を新たに採用した。本稿では Q5(1)(2)の質問の回答率と分析からみる質問文の有効性、並びに得られた郵便番号データから Google Map を活用した分析方法を提案する。

2-1 通勤の質問項目から

2-1-1 大谷研究室の既存研究との比較

ここでは研究室で以前行った『関西ニュータウン比較調査研究』や『西宮アパート・マンション調査』と今回の県民生活実態調査を比較しながら質問文の有効性を検討していく。

【関西ニュータウン調査質問票と単純集計（通勤に関する項目のみ抜粋）】

- Q10. ①現在、通勤の際に実際に使っている乗車駅はどちらですか。
Q9で「2. 利用していない」「3. どちらも通勤していない」と答えた方は普段よく使っている鉄道の乗車駅をお答えください。
鉄道会社名（ ）（ ）駅
- ②その駅はあなたの家から徒歩圏内ですか。徒歩圏内の場合は徒歩での所要時間をお答えください。
1. 徒歩圏内である （ ）分
2. 徒歩圏内ではない
- ③その駅までは、日頃どのような交通手段を主に使われていますか。
1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク・原付 4. バス
5. 自動車（自分で運転） 6. 自動車（送迎してもらう） 7. その他（ ）
- Q11. 通勤の際に実際に使っている降車駅はどちらですか。通勤に電車を利用されていない方は、勤務先の最寄り駅をお答えください。あなた・配偶者とも通勤されていない方は、Q13にお進みください。
鉄道会社名（ ）（ ）駅

【西宮アパート・マンション調査質問票（通勤に関する項目を抜粋）】

- Q14. ①あなたの勤務先（もしくは通学先）の最寄り駅はどちらですか。（配偶者がおられる場合は、配偶者の勤務先についてもお答えください。）
あなた 鉄道会社名（ ）（ ）線（ ）駅
配偶者 鉄道会社名（ ）（ ）線（ ）駅

【表 2-1：ニュータウン調査・西宮マンション調査における最寄り駅に関する質問の単純集計表】

(NT 調査)	記入あり	NA	計	(マンション調査)	記入あり	NA	計
通勤乗車駅	65.3 (1093)	34.7 (580)	100.0 (1673)	本人勤務先最寄り駅	83.9 (466)	16.1 (89)	100.0 (555)
通勤降車駅	73.9 (881)	26.1 (311)	100.0 (1192)	配偶者勤務先最寄り駅	63.4 (182)	36.6 (105)	100.0 (287)

表 2-1 は上に示した 2 つの調査の回答率の単純集計表である。『関西ニュータウン比較調査研究』では通勤時に利用する駅と降車駅を問うており、その回答率は 7 割程度である。『西宮アパート・マンション調査』では本人勤務先の最寄り駅と配偶者の通勤先最寄り駅を問うており、本人は 8 割、配偶者は 6 割という結果であった。

【県民生活実態調査質問票（通勤に関する項目を抜粋）】

⑤(1) 職場はどちらにありますか。【1つだけ〇】 1. を選択した方は、①都道府県名・市区町村名、
②郵便番号をご記入ください。

あなた		配偶者（あなたの夫や妻）	
1. ①【 】 都道【 】 市区【 】 府県【 】 町村【 】	1. ①【 】 都道【 】 市区【 】 府県【 】 町村【 】		
②（〒 — ）	②（〒 — ）		
2. 職場は自宅である ⇒ ⑤(3)	2. 職場は自宅である ⇒ ⑤(3)		

【表 2-2：県民生活実態調査質問票（通勤に関する項目を抜粋）】

（市町村）	記入あり	NA	計	（郵便番号）	記入あり	NA	計
愛媛県	99.2 (641)	0.8 (5)	100.0 (646)	愛媛県	75.1 (485)	24.9 (161)	100.0 (646)
長崎県	99.6 (669)	0.4 (3)	100.0 (672)	長崎県	74.0 (497)	26.0 (175)	100.0 (672)

以上のように、高い回答率を叩き出した。郵便番号だと場所が特定される可能性もあるため、回答率が低くなると想定されていたが結果は逆だった。職場住所を市町村だけでなく郵便番号まで聞く、という試みは成功したと言えるだろう。山間部の地域で一部、同じ郵便番号の地域が広く正確な位置をつかむことが難しいケースもあったが、概ね大体の正確な位置をつかむことができた。

これにより、自宅と職場の位置をつなげて Google Map で分析する方法も可能となった。

2-1-2 Google Map を用いた新しい分析方法

ここでは、郵便番号を聞いたことで詳細な住所を把握できる点を活かした新しい分析方法を提案する。Google Map の機能の 1 つである「ルート検索」を用いて、自宅と職場の位置関係と経路、所要時間などを測定することが可能になる。その機能を使い、今回は 2 つの分析方法を実践した。詳細な分析方法は章末資料を参照されたい。

また、この分析方法を用いて行ったルート検索には、郵便番号が回答されている 982 サンプル（愛媛：485 長崎：497）について 1 つずつ入力、検索をしていき、作業時間は約 10 時間を要した。

① 通勤時間の誤差を算出する

Google Map のルート検索で算出される所要時間と、「県民生活実態調査」で回答されている通勤時間にはどれくらいの差があるのかを計算していく。誤差が小さくなり Google Map の精度が高いという結果が出たら、調査票から通勤時間に関する質問を省略することも考慮することができるだろう。

以下の表 2-3 は、本人が回答した通勤所要時間の平均と Google Map のルート検索で算出される所要時間の平均を通勤手段ごとに算出したもの、並びに、本人が回答した通勤所要時間と Google Map のルート検索での所要時間を比較した際の誤差を通勤手段ごとに算出しまとめたものである。

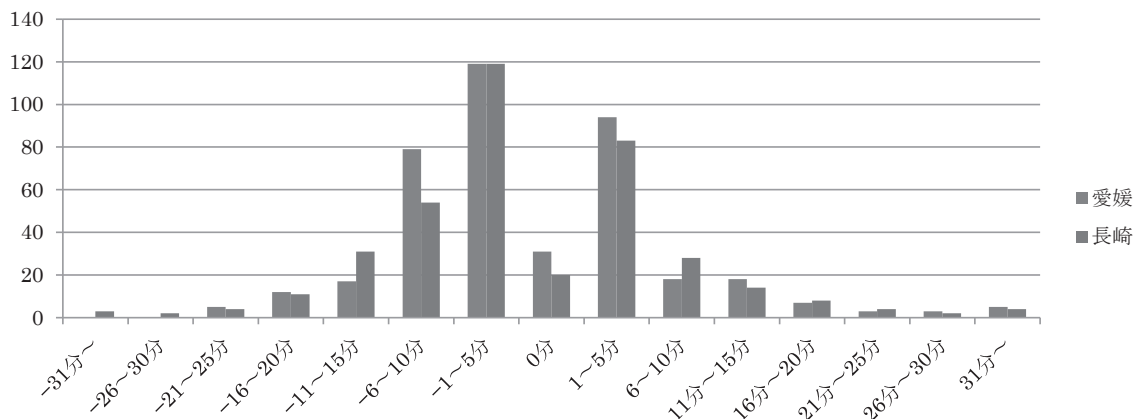
【表 2-3：通勤手段別の通勤時間誤差（5 段階）と誤差の平均、検索結果の所要時間と回答での所要時間の平均】
（NA・非=799）

（愛媛）	0～2 分	3～5 分	6～10 分	11～20 分	21 分～	計	誤差（分）	検索（分）	回答（分）
徒歩	31.8(14)	18.2(8)	22.7(10)	22.7(10)	4.5(2)	100.0(44)	7.36	12.6	7.2
自転車	13.6(6)	27.3(12)	45.4(20)	6.8(3)	6.8(3)	100.0(44)	7.98	9.5	15.8
バイク	41.5(17)	24.4(10)	29.3(12)	2.4(1)	2.4(1)	100.0(41)	4.85	16.6	16.0
自動車	36.9(97)	26.6(70)	19.8(52)	12.9(34)	3.8(10)	100.0(263)	6.18	17.9	19.7
バス・路面	22.2(2)	44.4(4)	11.1(1)	22.2(2)	0.0(0)	100.0(9)	6.22	31.0	37.7
鉄道	20.0(2)	20.0(2)	20.0(2)	40.0(4)	0.0(0)	100.0(10)	8.40	38.9	44.2
計	33.6(138)	25.8(106)	23.6(97)	13.1(54)	3.9(16)	100.0(411)	6.42	16.9	18.7

(NA・非=839)									
(長崎)	0～2分	3～5分	6～10分	11～20分	21分～	計	誤差(分)	検索(分)	回答(分)
徒歩	32.6(15)	23.9(11)	21.7(10)	15.2(7)	6.5(3)	100.0(46)	7.35	13.3	10.3
自転車	50.0(3)	16.7(1)	16.7(1)	16.7(1)	0.0(0)	100.0(6)	4.50	7.0	14.6
バイク	46.2(12)	30.8(8)	11.5(3)	11.5(3)	0.0(0)	100.0(26)	4.58	14.9	16.5
自動車	30.3(86)	26.8(76)	21.5(61)	16.9(48)	4.6(13)	100.0(284)	6.79	18.7	23.4
バス・路面	18.2(4)	27.3(6)	18.2(4)	22.7(5)	13.6(3)	100.0(22)	9.41	43.5	36.2
鉄道	0.0(0)	0.0(0)	100.0(3)	0.0(0)	0.0(0)	100.0(3)	7.67	52.0	37.5
計	31.0(120)	26.4(102)	21.2(82)	16.5(64)	4.9(19)	100.0(387)	6.82	19.2	23.3

以下の図 2-1 は、本人が回答した通勤所要時間から Google Map のルート検索での所要時間を引いた際の誤差の分布をグラフ化したものである。つまり誤差が「-」（マイナス）をとる場合は本人が回答した所要時間よりも Google Map のルート検索の所要時間が短く、「+」（プラス）をとる場合は本人が回答した所要時間よりも Google Map のルート検索の所要時間が長いということになる。

【図 2-1：誤差の時間ごとの分布】



(表 2-3、図 2-1 の結果の概要と主な特徴)

- ・通勤時間の誤差の平均は愛媛 6.42 分、長崎 6.82 分、合計 6.62 分と 6 分台に収まる。
- ・中央値は両県ともに 4 分。最頻値は愛媛 2 分、長崎 1 分。最小値は両県ともに 0 分。最大値は愛媛 59 分、長崎 43 分。
- ・誤差の許容範囲を 10 分までと定めると、その範囲に収まるのは愛媛 83.0%、長崎 78.6%。
- ・誤差が「-」（マイナス）になることのほうが多い。Google Map のほうが所要時間が短く出る傾向があるといえる。
- ・「バイク」、「自動車」の場合の誤差が比較的小さい。
- ・「路線バス・路面電車」の場合の誤差が比較的大きい。

② 通勤距離を算出する

職場所在地の郵便番号と現住所のデータをそれぞれ Google Map 上に入力することで、二点間の距離を算出することが可能になる。直線距離はもちろん、交通手段別の経路から実際の移動距離を算出することもできる。このデータを利用することで、通勤手段、通勤時間に加えて通勤距離を新たな分析の材料となる。

分析にあたって懸念されるのは、異なる 2 点間の距離を複数同時に算出することは機能上できないため、1 つずつ求めていく必要がある点、郵便番号を使用するので完全に正確な位置まではわからない点が挙げられる。

表 2-4 は自宅から職場までの通勤距離を 5 段階に区分し、それを通勤手段ごとにまとめたものである。

【表 2-4：通勤手段別の通勤距離（5 段階）と平均】

(NA・非=753)

(愛媛)	0～ 2.00km	2.01～ 5.00km	5.01～ 10.00km	10.01～ 20.00km	20.01～ km	計	平均 (km)
徒歩	96.0(48)	2.0(1)	2.0(1)	0.0(0)	0.0(0)	100.0(50)	0.84
自転車	63.3(31)	26.5(13)	8.2(4)	2.0(1)	0.0(0)	100.0(49)	2.29
バイク	33.3(15)	42.2(19)	22.2(10)	0.0(0)	2.2(1)	100.0(45)	4.86
自動車	33.0(95)	29.2(84)	20.8(60)	10.8(31)	6.3(18)	100.0(288)	6.30
バス・路面	18.2(2)	54.5(6)	27.3(3)	0.0(0)	0.0(0)	100.0(11)	4.14
鉄道	0.0(0)	40.0(4)	40.0(4)	10.0(1)	10.0(1)	100.0(10)	11.35
その他	100.0(4)	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)	100.0(4)	1.62
計	42.7(195)	27.8(127)	17.9(82)	7.2(33)	4.4(20)	100.0(457)	5.05

(NA・非=771)

(長崎)	0～ 2.00km	2.01～ 5.00km	5.01～ 10.00km	10.01～ 20.00km	20.01～ km	計	平均 (km)
徒歩	94.2(49)	1.9(1)	0.0(0)	1.9(1)	1.9(1)	100.0(52)	1.73
自転車	62.5(5)	25.0(2)	0.0(0)	12.5(1)	0.0(0)	100.0(8)	3.62
バイク	35.5(11)	45.2(14)	6.5(2)	6.5(2)	6.5(2)	100.0(31)	5.41
自動車	35.1(108)	22.1(68)	24.0(74)	14.9(46)	3.9(12)	100.0(308)	6.06
バス・路面	34.0(17)	34.0(17)	16.0(8)	14.0(7)	2.0(1)	100.0(50)	4.79
鉄道	25.0(1)	0.0(0)	25.0(1)	50.0(2)	0.0(0)	100.0(4)	8.84
その他	50.0(1)	50.0(1)	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)	100.0(2)	1.23
計	42.2(192)	22.6(103)	18.7(85)	13.0(59)	3.5(16)	100.0(455)	5.13

(表 2-4 の結果の概要と主な特徴)

- ・通勤距離の最小値は両県ともに 0.02km、最大値は愛媛 75.90km、長崎 78.75km。
- ・「徒歩」、「自転車」の通勤距離は短く、愛媛よりも長崎の方が距離は長い。
- ・「バイク」や「自動車」の通勤距離は両県に大きな差は見られない。
- ・両県とも 4 割を超える人が職場から 2km 以内に住んでいる。
- ・職場から 10km 以上のところに住んでいる人の割合は、愛媛よりも長崎のほうが多い。

<作業中に発生した問題のまとめ>

※直線距離、所要時間ともに算出せず (計 37 件)

- ・存在しない郵便番号が入力されている。(愛媛 9 件、長崎 11 件)
- ・通勤が不可能な他都道府県の郵便番号が入力されている。(愛媛 5 件、長崎 5 件)
- ・7 桁未満の郵便番号が入力されている。(長崎 6 件)
- ・ルート検索が不可能である。(愛媛 1 件)

※直線距離のみ算出 (計 100 件)

- ・通勤手段の回答がその他、NA になっている。(愛媛 15 件、長崎 26 件)
- ・路線バスのルートが表示されない。(愛媛 2 件、長崎 15 件)
- ・通勤時間の誤差が明らかに大きく、実際の現住所が違うと考えられる。(愛媛 15 件、長崎 27 件)
- これらの扱いをどうするか。なぜ問題が生じるのか。→調査票で現在の住所を改めて問うべき？
- (例) 徒歩の通勤距離の最大値が 45.80km になっている。(長崎のサンプル)
- 長崎の徒歩による通勤距離の平均が大幅に高い数値になってしまっている。
- それを除く 51 サンプルで計算すると、長崎の徒歩通勤の平均距離は 0.87km になる。

以上のように、これまでの調査では分からなかったことを分析することができた。したがって、Google Map を用いた分析方法は、通勤分析の可能性を広げることができるため有用であるといえる。

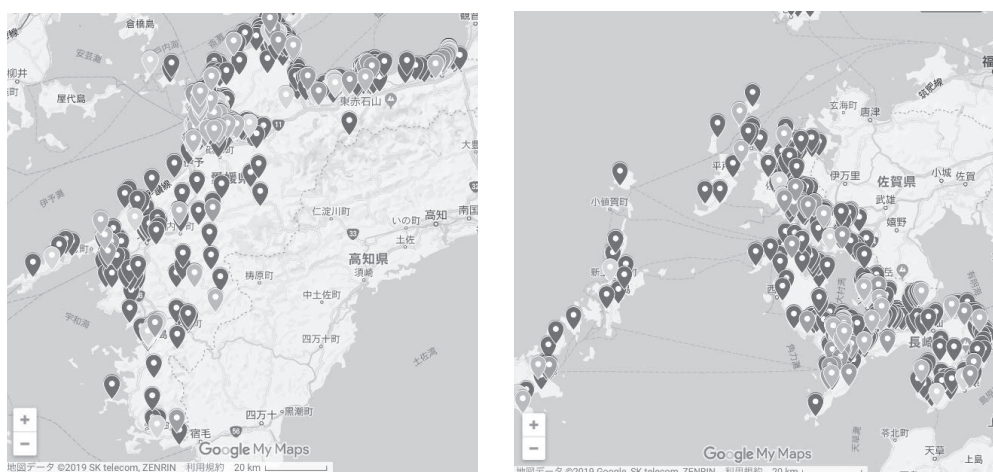
作業に少し時間がかかるのが難点ではあるが、この方法は「買い物行動」や「通院」など、通勤以外の分野でも使うことができる。郵便番号の回答率も高いため、有効な分析が可能である。

通勤時間の測定に関しては、ある程度参考にはなるが、調査票から通勤時間の質問を省くことができるほどの高い精度はないと言える。通勤距離に関しては、今後実施していく他の地域の分析にも取り入れることで、都心部と地方部などの地域差がよりはっきりと数字に表れるであろう。

2-1-3 Google Map のマッピング機能の利用

Google Map を利用した分析方法をもうひとつ紹介する。本調査では通勤の項目で通勤に利用している交通手段を単一で回答してもらった。回答を主に使う 1 つの手段に絞ることで、Google Map にて分布図を作成することが可能になり、現住所や、職場郵便番号のデータとかけ合わせることで、通勤手段の分布が一目で分かる。これにより、文字だけでなく視覚的に分析結果を捉えることができる。以下の図は通勤手段ごとにピンの色を変え地図に落とし込んだものである。作業内容については章末資料 2 を参照されたい。

【図 2-2 : Google Map で現住所×通勤手段のマッピング】



<参考ページ>Google Map による通勤手段・通勤時間のマッピング

現住所×通勤手段 URL

<https://drive.google.com/open?id=1FRUdhDlSt7jGIFmEWXjYLZ7Mb1xxADD&usp=sharing>

現住所×通勤時間 URL

https://drive.google.com/open?id=111WmpDa2J5Te7ux1hsXRF_mlzUDNMz9Y&usp=sharing

職場の住所×通勤手段 URL

https://drive.google.com/open?id=1KjrbjxvqoSaihsz_FeKLSDb7-TIQLbQx&usp=sharing

職場の住所×通勤時間 URL

https://drive.google.com/open?id=1ppA3uO_QXNKc8FPY_uWuy2jP3GHcFJ0s&usp=sharing

2-1-4 結論

新たな取り組みである「郵便番号」を問う質問文は通勤実態の詳細な把握、分析において大きな役割を果たした。人々が「どこからどこへ」通勤しているのかを、数字でも視覚的にも捉えることができるようになった。

課題としては、鉄道を利用する場合に駅までどのような交通手段を使っているかがわからず、また鉄道駅が密集している地域ではどの駅を利用しているかもわからないことである。このことは Google Map で分析する際にも影響がある。今回は地方都市が対象だったため影響が小さかったが、今後、鉄道の利用が多い大都市圏を調査・分析する際には問題となりうる。

しかしながら、都市部と地方部の両方を同じ質問文で分析する「県民生活実態調査」では、郵便番号を用いた今回の調査の質問文が最も有効であると言えるだろう。

2-2 買い物・通院の質問文から

本調査では、前章で述べた通勤の項目における郵便番号にとどまらず、Q22、23において買い物店舗名と病院名を問うかなり実験的な質問文を設けた。その結果として買い物店舗と病院の郵便番号と住所を特定することができた。これらの情報を用いて Google Map によるルート検索が今後の調査において分析ツールとして有用なものとなり得るかどうかを検証した。この章ではその結果と今後の調査への提案を行う。

【県民生活実態調査質問票（食料品買い物店舗に関する項目を抜粋）】

22 食料品（朝食や夕食の食べ物）を購入するにあたり、あなたの世帯で「この1年間」に、最もよく利用した店舗名と支店名をお書きください。

支店名が分からない場合は、町名など場所を示すことをお書きください。

例：「エレナ〇〇店」「イオン〇〇店」「ファミリーマート〇〇店」「道の駅〇〇」「〇〇駅前の〇〇商店」

1. 店舗名【 】

2. 店舗はまったく利用していない ⇒ p.9 23

【県民生活実態調査質問票（病院に関する項目を抜粋）】

23 あなたが風邪をひいたり、体調をこわした時に、診察を受ける病院（診療所を含む）の名前をお書きください。またその病院がある市町名もお書きください。

（例）「〇〇内科クリニック」（長崎市）「〇〇診療所」（佐々町）「大村市民病院」（大村市）

病院名【 】 市区町村【 】

2-2-1 店舗・病院の特定およびコーディング

回答の中には正式な店舗名や病院名を記入されているものが多くあったが、正式名称ではない回答も多く、記入された情報から支店名や病院名を特定する作業が発生した。今回は Google Map でルート検索をし、買い物店舗や病院までの距離や所要時間などを計測しようという構想があったため、Google の検索エンジンを利用し以下のような6つのデータ入力を行った。

- ①支店名を含む買い物店舗名 ②買い物店舗郵便番号 ③買い物店舗住所
- ④病院名 ⑤病院郵便番号 ⑥病院住所

【図 2-3：検索エンジンからのデータ入力】



Google の検索エンジンで店舗名や病院名を検索すると上図のように郵便番号を含めた住所や営業時間などの基本情報が表示される機能がある。この機能を利用し、ケースナンバーと合わせて 6 つのデータを Excel ファイルに入力していった。

検索する際は次のような手順と基準で店舗・病院の特定に当たった。

①調査対象者の回答通りに検索（病院は市町名も併せて検索）

→店舗または病院を 1 施設に確定できればここで検索を終了し Excel ファイルにデータを入力。確定できない場合は②に移行。

②店舗名+調査対象者の現住所の市町名で検索

→店舗または病院を 1 施設に確定できればそのデータを Excel ファイルに入力。

→2 つ以上ある場合は特定できないため、記入はあるが特定できないもの「特定不可能」として Excel ファイルに入力。

複数記入がある場合は最初に回答されている店舗または病院を採用し、最初のものが特定できない場合は次に書かれている回答を採用した。また、店舗名や病院名の記載がない場合は NA として処理する。

また、入力したデータを SPSS にデータセットする際、新たに 4 つの変数を作成した。

- ・店舗名記入有無 → 1.記入あり 2.記入なし
- ・店舗特定可否 → 1.特定 2.特定不可 9.非該当
- ・病院記入有無 → 1.記入あり 2.記入なし
- ・病院特定可否 → 1.特定 2.特定不可 9.非該当

以下の表 2-5、2-6 は店舗名や病院名の記入の有無を表した記入率と、その記入された情報から店舗または病院が特定できた比率をまとめたものである。

【表 2-5：店舗名記入率および特定率】

(愛媛県)				(長崎県)			
記入なし	5.4 (65/1210)	うち		記入なし	7.9 (97/1226)	うち	
記入あり	94.6 (1145/1210)		特定	記入あり	92.1 (1129/1226)		特定
			特定できず				特定できず
			85.2 (975/1145)				90.8 (1025/1129)
			14.8 (170/1145)				9.2 (104/1129)

【表 2-6：病院名記入率および特定率】

(愛媛県)				(長崎県)			
記入なし	12.1 (146/1210)	うち		記入なし	11.0 (135/1226)	うち	
記入あり	87.9 (1064/1210)		特定	記入あり	89.0 (1091/1226)		特定
			特定できず				特定できず
			96.4 (1026/1064)				93.4 (1019/1091)
			3.6 (38/1064)				6.6 (72/1091)

データ検索を行った所感として、店舗についてはチェーン名だけが回答されているものの特定はかなり骨が折れる作業であった。愛媛県でいえば「フジ」「マルナカ」「コープ・生協」「セブンスター」、長崎県でいえば「エレナ」「まるたか」などといった同じ市町内に複数の店舗を構えるチェーン店を特定不可能として処理することが多くあり、病院よりも特定率が低いと感じた。正確な特定率をみても明らかになった。

病院の特定に関しては、愛媛県において同じ名前の医療施設が同じ市町内にあり特定できなかったものが 1 サンプル、同じ経営母体であるが第一病院と第二病院があり判断できなかったものが若干数あったもののほとんどが特定できた。

2-2-2 Google Map によるルート検索

調査票を送付した住所（調査対象者現住所）と 2 章で入力したデータを用いて Google Map によるルート検索を行った。ルート検索を行った項目は大きく以下のとおりである。

- ①調査対象者現住所 × 店舗郵便番号
- ②調査対象者現住所 × 店舗住所
- ③調査対象者現住所 × 病院郵便番号
- ④調査対象者現住所 × 病院住所

上記 4 つの項目に対して(ア)道なりの距離 (m)、(イ)直線距離 (m)、(ウ)自動車での所要時間 (分)、(エ)徒歩での所要時間 (分) を Excel ファイルに入力した。作業マニュアルについては章末資料 1 を参照されたい。

＜ルート検索の際に発生した問題と対応＞

- ・調査対象者の現住所が表示されない → ルート検索不可として処理
- ・海を渡る経路はルート検索ができない → ルート検索不可として処理
- ・買い物や通院が不可能な距離が回答されている → ルート検索は可能とはするが、数値は除く（平均値や最大値などからは除く）
- ・店舗や病院が調査対象者現住所と同一 → ルート検索可能とし(ア)～(エ)を 0m、0 分として処理（愛媛 1 件、長崎 1 件）

その結果、愛媛県において店舗が特定できた 975 サンプルのうちルート検索ができたものは 886 サンプル (90.9%)、病院が特定できた 1026 サンプルのうちルート検索ができたものは 932 サンプル (90.8%) であった。長崎県においては店舗が特定できた 1025 サンプルのうちルート検索ができたものは 1017 サンプル (99.2%)、病院が特定できた 1019 サンプルのうちルート検索ができたものは 1007 サンプル (98.8%) であった。またこの作業は 1 件当たり 3～5 分程度時間がかかり、3 回生ゼミ生 24 人の力を借りて 1 カ月半以上の時間を要した。

2-2-3 Google Map によるルート検索は分析ツールになり得るか？

ここでは郵便番号を利用したルート検索と住所を利用したルート検索の所要時間の誤差から Google Map によるルート検索は分析ツールになり得るかを検討していく。

誤差を算出するために Excel の絶対値を返す関数 (=ABS) を利用した。誤差を入力する列を決め、
=ABS(〔調査対象者現住所×住所：自動車での所要時間のセル〕－〔調査対象者現住所×郵便番号：自動車での所要時間のセル〕)

を入力すると誤差の絶対値が返る。その数値を SPSS にデータセットした。(経路検索不可のサンプルは非該当 =999 として入力)

表 2-7 は、調査対象者住所×郵便番号でのルート検索を行った所要時間と、調査対象者住所×住所でルート検索を行った所要時間を比較しその誤差を 5 段階に分けまとめたものである。

【表 2-7：郵便番号でのルート検索の所要時間と住所でのルート検索の所要誤差（自動車での所要時間）】

		0～2 分	3～5 分	6～10 分	11～20 分	21 分～	計	最小誤差 (分)	最大誤差 (分)	平均(分)
(愛媛県)	店舗	74.6 (661)	17.7 (157)	5.2 (46)	2.0 (18)	0.5 (4)	100.0 (886)	0	47	2.2
	病院	74.5 (694)	15.5 (144)	6.8 (63)	2.0 (19)	1.3 (12)	100.0 (932)	0	45	2.5
(長崎県)	店舗	65.8 (669)	18.7 (190)	11.2 (114)	2.8 (28)	1.6 (16)	100.0 (1017)	0	40	2.9
	病院	67.4 (679)	17.5 (176)	8.9 (90)	4.7 (47)	1.5 (15)	100.0 (1007)	0	50	3.0

愛媛県では店舗・病院どちらの項目においても誤差が 0～2 分が 7 割を超え、0～5 分として考えると 9 割以上が該当する。長崎県でもどちらの項目も 8 割以上が 0～5 分以内の誤差になる。この結果からルート検索する際に、調査対象者現住所と郵便番号の情報を利用してもかなり精度の高いものになるといえる。

また誤差の最大値は愛媛県・長崎県のそれぞれの項目で郵便番号を利用した経路検索の分数が住所を利用した経路検索の分数を大幅に上回っている。この最大値に該当するサンプルを再度経路検索したところ、郵便番号の所在を示すピンが山の頂上に表示されていた。山間部などでは誤差が大きくなりやすいことが予想される。

表 2-8 は、本人が回答した店舗への所要時間の平均と店舗郵便番号を利用した Google Map のルート検索で算出される所要時間の平均を交通手段ごとに算出したもの並びに、本人が回答した店舗への所要時間と Google Map のルート検索での所要時間を比較した際の誤差を交通手段ごとに算出しまとめたものである。

【表 2-8：交通手段別の時間誤差（5 段階）と誤差の平均、郵便番号検索結果の所要時間と回答での所要時間の平均（店舗）】
(NA・非=345)

(愛媛)	0～2 分	3～5 分	6～10 分	11～20 分	21 分～	計	誤差(分)	検索(分)	回答(分)
徒歩	36.4 (24)	24.2 (16)	18.2 (12)	12.1 (8)	9.1 (6)	100.0 (66)	7.4	11.8	6.3
自転車	26.2 (29)	31.5 (35)	33.3 (37)	7.2 (8)	1.8 (2)	100.0 (111)	5.5	6.0	7.7
バイク	58.5 (24)	22.0 (9)	14.6 (6)	4.9 (2)	0.0 (0)	100.0 (41)	3.0	7.0	6.7
自動車	42.0(267)	30.3(193)	19.5(124)	6.8 (43)	1.4 (9)	100.0 (636)	4.5	10.6	10.4
バス・路面・鉄道	0.0 (0)	0.0 (0)	14.3 (1)	57.1 (4)	28.6 (2)	100.0 (7)	16.4	8.7	25.1
その他	75.0 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	25.0 (1)	0.0 (0)	100.0 (4)	4.5	7.5	10.0
計	40.1(347)	29.2(253)	20.8(180)	7.6 (66)	2.2(19)	100.0 (865)	6.8	8.6	11.0

(NA・非=234)

(長崎)	0～2 分	3～5 分	6～10 分	11～20 分	21 分～	計	誤差(分)	検索(分)	回答(分)
徒歩	28.7 (41)	28.7 (41)	19.6 (28)	11.9 (17)	11.1(16)	100.0 (143)	8.5	14.7	10.6
自転車	40.7 (11)	7.4 (2)	22.2 (6)	18.5 (5)	11.2 (3)	100.0 (27)	7.4	15.7	12.0
バイク	47.1 (8)	17.6 (3)	11.8 (2)	17.6 (3)	5.9 (1)	100.0 (17)	6.0	12.1	8.2
自動車	45.1(332)	26.0(191)	20.9(154)	5.7 (42)	2.3(17)	100.0 (736)	4.4	12.1	10.8
バス・路面・鉄道	13.0 (7)	22.2 (12)	35.2 (19)	20.3 (11)	9.3 (5)	100.0 (54)	9.3	11.0	19.9
その他	26.7 (4)	6.7 (1)	40.0 (6)	13.3 (2)	13.3 (2)	100.0 (15)	9.9	22.3	24.0
計	40.6(403)	25.2(250)	21.7(215)	8.1 (80)	4.4(44)	100.0 (992)	7.5	14.6	14.2

表 2-9 は、本人が回答した店舗への所要時間の平均と店舗住所を利用した Google Map のルート検索で算出される所要時間の平均を交通手段ごとに算出したもの並びに、本人が回答した店舗への所要時間と Google Map のルート検索での所要時間を比較した際の誤差を交通手段ごとに算出しまとめたものである

【表 2-9：交通手段別の時間誤差（5 段階）と誤差の平均、住所検索結果の所要時間と回答での所要時間の平均（店舗）】
(NA・非=345)

(愛媛)	0～2 分	3～5 分	6～10 分	11～20 分	21 分～	計	誤差(分)	検索(分)	回答(分)
徒歩	63.6 (42)	19.7 (13)	9.1 (6)	4.6 (3)	3.0 (2)	100.0 (66)	3.4	5.8	6.3
自転車	30.7 (34)	32.4 (36)	26.1 (29)	9.0 (10)	1.8 (2)	100.0 (111)	5.3	4.9	7.7
バイク	56.1 (23)	24.4 (10)	19.5 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (41)	2.8	6.2	6.7
自動車	49.0(312)	26.6(169)	18.6(118)	4.9 (31)	0.9 (6)	100.0 (636)	3.9	9.3	10.4
バス・路面・鉄道	0.0 (0)	0.0 (0)	14.3 (1)	57.1 (4)	28.6 (2)	100.0 (7)	16.4	8.7	25.1
その他	50.0 (2)	25.0 (1)	25.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (4)	3.3	8.3	10.0
計	47.7(413)	26.5(229)	18.8(163)	5.6 (48)	1.4(12)	100.0 (865)	5.8	7.2	11.0

(NA・非=234)

(長崎)	0～2 分	3～5 分	6～10 分	11～20 分	21 分～	計	誤差(分)	検索(分)	回答(分)
徒歩	42.0 (60)	25.8 (37)	21.0 (30)	5.6 (8)	5.6 (8)	100.0 (143)	5.2	10.1	10.7
自転車	37.1 (10)	22.2 (6)	22.2 (6)	14.8 (4)	3.7 (1)	100.0 (27)	6.2	13.5	12.0
バイク	41.2 (7)	41.2 (7)	17.6 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	100.0 (17)	3.7	9.4	8.2
自動車	52.3(385)	28.3(208)	13.7(101)	5.2(38)	0.5 (4)	100.0 (736)	3.4	9.9	10.8
バス・路面・鉄道	13.0 (7)	25.8 (14)	24.1 (13)	24.1(13)	13.0 (7)	100.0 (54)	10.0	9.9	19.9
その他	13.3 (2)	20.0 (3)	33.4 (5)	20.0 (3)	13.3 (2)	100.0 (15)	9.6	22.0	24.0
計	47.5(471)	27.7(275)	15.9(158)	6.7(66)	2.2(22)	100.0 (992)	6.3	12.4	14.2

(表 2-8、2-9 の結果の概要と主な特徴)

- ・郵便番号を用いるよりも住所を用いたほうが調査対象者回答との誤差は少なくなる。
- ・誤差の許容範囲を 10 分とすると、郵便番号を用いた検索でも住所を用いた検索でも 9 割が範囲内に収まる。

- ・交通手段別でみると郵便番号を用いた検索も住所を用いた検索も「自動車」「バイク」の誤差が少なく「バス・路面電車」の誤差が大きい。

表 2-10 は、本人が回答した病院への所要時間の平均と病院郵便番号を利用した Google Map のルート検索で算出される所要時間の平均を交通手段ごとに算出したもの並びに、本人が回答した病院への所要時間と Google Map のルート検索での所要時間を比較した際の誤差を交通手段ごとに算出しまとめたものである

【表 2-10：交通手段別の時間誤差（5 段階）と誤差の平均、郵便番号検索結果の所要時間と回答での所要時間の平均（病院）】
(NA・非=308)

(愛媛)	0～2 分	3～5 分	6～10 分	11～20 分	21 分～	計	誤差(分)	検索(分)	回答(分)
徒歩	34.4 (33)	25.0 (24)	19.8 (19)	10.4 (10)	10.4(10)	100.0 (96)	8.6	13.0	8.0
自転車	31.9 (29)	39.5 (36)	14.3 (13)	8.8 (8)	5.5 (5)	100.0 (91)	5.3	8.6	10.4
バイク	47.5 (19)	27.5 (11)	22.5 (9)	2.5 (1)	0.0 (0)	100.0 (40)	3.3	8.6	8.7
自動車	40.2(258)	29.6(190)	17.1(110)	8.9 (57)	4.2(27)	100.0 (642)	5.5	12.2	13.3
バス・路面・鉄道	15.8 (3)	10.5 (2)	0.0 (0)	52.6 (10)	21.1(4)	100.0 (19)	15.7	14.9	28.9
その他	7.1 (1)	35.7 (5)	14.3 (2)	35.7 (5)	7.1 (1)	100.0 (14)	8.9	10.9	16.3
計	38.0(343)	29.7(268)	17.0(153)	10.1 (91)	5.2(47)	100.0 (902)	7.9	11.4	14.3

(NA・非=246)

(長崎)	0～2 分	3～5 分	6～10 分	11～20 分	21 分～	計	誤差(分)	検索(分)	回答(分)
徒歩	30.7 (47)	26.8 (41)	21.6 (33)	11.8 (18)	9.1 (14)	100.0 (153)	7.7	13.0	8.4
自転車	26.7 (4)	26.7 (4)	33.2 (5)	6.7 (1)	6.7 (1)	100.0 (15)	6.4	13.1	11.9
バイク	22.7 (5)	40.9 (9)	22.7 (5)	9.1 (2)	4.6 (1)	100.0 (22)	6.1	14.1	11.9
自動車	38.3(270)	31.1(219)	18.3(129)	8.9 (63)	3.4 (24)	100.0 (705)	5.3	13.9	13.3
バス・路面・鉄道	15.9 (11)	11.6 (8)	27.5 (19)	30.5 (21)	14.5(10)	100.0 (69)	12.0	12.6	22.8
その他	25.0 (4)	31.3 (5)	18.7 (3)	12.5 (2)	12.5 (2)	100.0 (16)	8.1	13.6	15.7
計	34.8(341)	29.2(286)	19.8(194)	10.9(107)	5.3(52)	100.0 (980)	7.6	13.4	14.0

表 2-11 は、本人が回答した病院への所要時間の平均と病院住所を利用した Google Map のルート検索で算出される所要時間の平均を交通手段ごとに算出したもの並びに、本人が回答した病院への所要時間と Google Map のルート検索での所要時間を比較した際の誤差を交通手段ごとに算出しまとめたものである

【表 2-11：交通手段別の時間誤差（5 段階）と誤差の平均、住所検索結果の所要時間と回答での所要時間の平均（病院）】
(NA・非=308)

(愛媛)	0～2 分	3～5 分	6～10 分	11～20 分	21 分～	計	誤差(分)	検索(分)	回答(分)
徒歩	50.0 (48)	32.3 (31)	11.4 (11)	2.1 (2)	4.2 (4)	100.0 (96)	4.8	7.7	8.0
自転車	36.2 (33)	34.1 (31)	17.6 (16)	7.7 (7)	4.4 (4)	100.0 (91)	5.6	7.7	10.4
バイク	55.0 (22)	30.0 (12)	10.0 (4)	5.0 (2)	0.0 (0)	100.0 (40)	2.9	7.7	8.7
自動車	48.0(308)	26.6(171)	17.1(110)	5.6 (36)	2.7 (17)	100.0 (642)	4.4	10.4	13.3
バス・路面・鉄道	5.3 (1)	10.5 (2)	10.5 (2)	52.6 (10)	21.1 (4)	100.0 (19)	16.0	14.8	28.9
その他	14.3 (2)	21.4 (3)	28.6 (4)	35.7 (5)	0.0 (0)	100.0 (14)	8.9	9.9	16.3
計	45.9(414)	27.7(250)	16.3(147)	6.9 (62)	3.2 (29)	100.0 (902)	7.1	9.7	14.3

(NA・非=246)

(長崎)	0～2 分	3～5 分	6～10 分	11～20 分	21 分～	計	誤差(分)	検索(分)	回答(分)
徒歩	48.9 (74)	34.1 (52)	9.9 (15)	6.0 (9)	2.1 (3)	100.0 (153)	4.2	8.2	8.4
自転車	33.3 (5)	26.7 (4)	26.7 (4)	13.3 (2)	0.0 (0)	100.0 (15)	5.8	9.8	11.9
バイク	45.5 (10)	40.9 (9)	9.1 (2)	4.5 (1)	0.0 (0)	100.0 (22)	3.3	10.8	11.9
自動車	45.8(323)	29.1(205)	17.4(123)	6.1 (43)	1.6 (11)	100.0 (705)	4.2	11.5	13.3
バス・路面・鉄道	13.1 (9)	7.2 (5)	30.4 (21)	36.2 (25)	13.1 (9)	100.0 (69)	12.0	11.2	22.8
その他	25.0 (4)	25.0 (4)	18.8 (3)	18.8 (3)	12.4 (2)	100.0 (16)	8.3	12.0	15.7
計	43.4(425)	28.5(279)	17.1(168)	8.5 (83)	2.5 (25)	100.0 (980)	6.3	10.6	14.0

(表 2-10、2-11 の結果の概要と主な特徴)

- ・郵便番号を用いるよりも住所を用いたほうが調査対象者回答との誤差は少なくなる。
- ・誤差の許容範囲を 10 分までと定めると、郵便番号を用いた検索でも住所を用いた検索でも 8 割がその範囲内に収まる。
- ・交通手段別でみると郵便番号を用いた検索も住所を用いた検索も「自動車」「バイク」の誤差が少なく「バス・路面電車」の誤差が大きい。

今回、Google Map を活用した分析を行うにあたって Google Map ではどの程度公共交通機関でのルート検索が可能であるかを検討したが、JR や私鉄でのルート検索はできても巡回バスなどごくローカルな交通手段はルート検索ができなかった。公共交通機関を利用する場合のルート検索の検証は都会の地域の方が向いているのではないだろうか。

2-2-4 ワーディングの検討

プライバシーの意識が高まっている調査困難状況下において店舗名や病院名などを記入してもらえるか、という問題は質問文の検討段階で議論になったが、表 2-5、2-6 でも前述したように今回の調査では店舗では 9 割以上、病院では 9 割程度の回答が得られ当初の予想を覆した。また、記入があったもので店舗が特定できたものは 8 割以上、病院が特定できたものは 9 割以上であった。

病院の記入率が低くなった要因として、店舗名よりも個人情報色が強く回答するのがためらわれたということが考えられる。加えて「これといったかかりつけはない」「ここ数年間は病院にかかっていない」といった回答が十数サンプル存在した。店舗の特定率が病院よりも低くなった要因は前述したように、チェーン店が店舗の特定を困難にしたことが挙げられる。

また、Q22 で回答された店舗はほとんどの調査対象者が生鮮食品を扱っているようなスーパーや産直市などを回答しており、愛媛県ではコンビニエンスストアの回答は 2 サンプル（ローソン 1 件、サークル K サンクス 1 件）のみだった。対して長崎県では 10 サンプル（ローソン 2 件、ファミリーマート 3 件、セブンイレブン 5 件）だった。

第 5 章で明らかになったように、普段の食料品の買い物をしているのはほとんどが女性であるので調査対象者本人の買い物行動を把握したい場合には今回のような食料品店ではなく一番利用するコンビニを問う質問文を取り入れてみるのも良いかもしれない。

Q23 で回答された病院名については総合病院や診療所（＝クリニック）がほとんどであった。病院と診療所の定義の違いは病床数にある。病院は 20 床、診療所は 19 床以下と医療法で定義されており、診療所は外来を中心にしているという特徴がある。愛媛県では、特定した病院名の中に「診療所」を含むのは 45 件、「クリニック」を含むのは 240 件あった。また診療科の区分から考えると、特定した病院名の中に「内科」を含むのは 323 件、「耳鼻科」を含むのは 1 件、「耳鼻咽喉科」を含むのは 25 件、「消化器科」を含むのは 25 件、「循環器科」を含むのは 42 件、「呼吸器科」を含むのは 7 件となった。長崎県では、「診療所」を含むのは 35 件、「クリニック」を含むのは 197 件あった。診療科の区分では、「内科」を含むのは 384 件、「耳鼻咽喉科」を含むのは 12 件、「消化器科」を含むのは 18 件、「循環器科」を含むのは 56 件、「呼吸器科」を含むのは 9 件となった。診療科の件数はあくまでも延べ数ではあるが、風邪やちょっとした体調不良でかかる病院を回答として適当であると考える。

<参考ページ>

・厚生労働省 医療施設の類型 (2019/1/9 閲覧)

<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/10-2/kousei-data/PDF/22010206.pdf>

2-2-5 結論

Q22, 23 の質問文は当初の予想に反しかなり高い回答率を得て、その回答から店舗・病院の特定も大方可能であった。さらに Google の検索エンジンは店舗や病院の郵便番号や住所だけでなく、営業時間や店休日の情報も掲載されている。これらの情報を利用することでさらに幅広い分析も可能である。今後の調査でも大いに使用できかつ、まだまだ大きな可能性を持つ質問文である。

また、Google Map の郵便番号を利用したルート検索と住所を利用したルート検索での誤差はほとんどなく、郵便番号を利用しても住所と同程度の精度で行えることが分かった。しかしながら山間部や、1 つの郵便番号に

対して範囲が大きい場合は誤差が生じやすくなるので地方部では注意が必要だ。今後の調査では Google Map の特性を考えながら質問文を検討するのがよいだろう。

(章末資料1) Google Map を利用したルート検索マニュアル

1. 住所データの Excel ファイルとブラウザで Google map を開く。
2. 画面左上のメニューのルートを選択。



3. Excel から調査者の現住所と店舗・病院の郵便番号または住所をコピー (Ctrl+C) & ペースト (Ctrl+V) しルートを検索していく。検索は以下の4パターンを検索する。

- ①調査対象者現住所 × 店舗郵便番号
- ②調査対象者現住所 × 店舗住所
- ③調査対象者現住所 × 病院郵便番号
- ④調査対象者現住所 × 病院住所



4. 出発時刻日付の設定をする。
【すぐに出発】の横のタブをクリックし、【出発時刻】を選択。
出発時刻が現在の時刻を表示するので数字上をクリックし 10:00 に設定。
同じく日付も文字をクリックするとカレンダーが表示されるので 11/1 に設定。





5. 自動車での所要時間と距離を入力。

経路を検索すると以下のように複数のルートが表示されるが、一番上に表示されたルートを用いて入力用 Excel に入力する。距離についてはm（メートル）単位で入力し、時間については分単位で入力。
また、所要時間に幅がある場合は最速の時間を採用する。以下の画像であれば10分となる。

<ルートが検索できない場合>

住所に甲・乙・丙などが入っていると Map に表示されない場合があります。その場合は該当部分を消去し再度検索を行ってください。

県道606号線 経由

通常 10 - 14 分

3.5 km

[詳細](#)

県道337号線 経由

通常 10 - 14 分

4.4 km

県道606号線 経由

通常 12 - 14 分

3.9 km

P	Q	R	S
現住所と店舗住所利用			
道なりの距離(m)	直線距離(m)	車での所要時間(分)	徒歩での所要時間(分)
3500		10	

6. 徒歩での所要時間を入力。

画面左上のマークから人型を選択すると、徒歩でのルートを自動で検索してくれる。
表示された時間を先ほどと同じ要領で入力。

県道606号線 経由

43 分

3.4 km

[詳細](#)

P	Q	R	S
現住所と店舗住所利用			
道なりの距離(m)	直線距離(m)	車での所要時間(分)	徒歩での所要時間(分)
3500		10	43

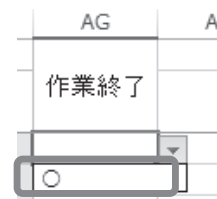
7. 直線距離の算出

Google map の地図上で調査対象者の現住所を表している小さな黒い丸を右クリックする。表示されるメニューから「距離を測定」を選択し、店舗を表している黒い二重丸をクリックする。地図上にスケールバーが現れ、距離を表示してくれるのでその距離をm（メートル）単位で Excel に入力。



P	Q	R	S
	現住所と店舗住所利用		
道なりの 距離(m)	直線距離 (m)	車での 所要時間(分)	徒歩での 所要時間(分)
3500	2850	10	43

8. Excel 内の青色に塗りつぶされたセル（調査対象者一人当たり 16 項目）全てを問題なく埋めることが出来たら、Excel 内の作業終了のタブを【○】に変更する。



＜ルート検索をする前に...＞

1	A	B	C	D	G	H	I	J	K
2	areaC	CN	PCN	現住所	店舗郵便番号	道なりの距離(m)	直線距離(m)	車での所要時間(分)	徒歩での所要時間(分)
3	382019	1	20001	愛媛県松山市一番町1-13-2	7908567				
4	382019	4	20004	愛媛県松山市三番町7-1-29	7908567				
5	382019	5	20005	愛媛県松山市千舟町1-1-17	7900012				
6	382019	6	20006	愛媛県松山市千舟町6-3-2	7913120				
7	382019	7	20007	愛媛県松山市千舟町7-11-2	7900035				
8	382019	8	20008	愛媛県松山市湊町2-1-25	7920035				
9	382019	11	20011	愛媛県松山市柳井町1-13-3	7900012				
10	382019	13	20013	愛媛県松山市柳井町3-1-19	7900035				
11	382019	14	20014	愛媛県松山市柳井町3-6-19	7908587				
12	382019	18	20018	愛媛県松山市雄郡1-11-23	7900012				
13	382019	20	20020	愛媛県松山市北藤原町1-5	7900035				
14	382019	21	20021	愛媛県松山市藤原町633-1	7900035				
15	382019	23	20023	愛媛県松山市小瀬2-2-5	判別不可能				
16	382019	24	20024	愛媛県松山市小瀬2-2-6	7900056				
17	382019	26	20026	愛媛県松山市小瀬3-2-5	7918015				
18	382019	27	20027	愛媛県松山市小瀬5-6-10	7900035				
19	382019	28	20028	愛媛県松山市小瀬6-2-14	7900056				
20	382019	34	20034	愛媛県松山市和泉北3丁目5-28号	7900056				
21	382019	38	20038	愛媛県松山市保免上2丁目13-19	7900056				
22	382019	42	20042	愛媛県松山市保免西1丁目12-31	7900044				
23	382019	43	20043	愛媛県松山市保免西1丁目3-9	7918025				
24	382019	44	20044	愛媛県松山市余戸東1丁目6-19	7900044				
25	382019	45	20045	愛媛県松山市余戸東2丁目6-33	7900045				

L	M	N	O	P	Q	R	S
Google(店舗)	店舗住所	道なりの距離(m)	直線距離(m)	車での所要時間(分)	徒歩での所要時間(分)	店舗作業終了	リマ
フジグラン松山	愛媛県松山市宮西一丁目2番1号						
フジグラン松山	愛媛県松山市宮西一丁目2番1号						
フレッシュバリュー銀天街店	愛媛県松山市湊町3丁目4-6						
フジグラン・エミフルMASAKI	愛媛県伊予郡松前町筒井850						
フジ藤原店	愛媛県松山市藤原2丁目4番62号						
コープ土居	愛媛県四国中央市土居町入間669-1						
フレッシュバリュー銀天街店	愛媛県松山市湊町3丁目4-6						
フジ藤原店	愛媛県松山市藤原2丁目4番62号						
いよつつ商事屋	愛媛県松山市湊町5丁目1-1						
フレッシュバリュー銀天街店	愛媛県松山市湊町3丁目4-6						
フジ藤原店	愛媛県松山市藤原2丁目4番62号						
フジ藤原店	愛媛県松山市藤原2丁目4番62号						
非該当							
セブンスター和泉店	愛媛県松山市土居町17						
ラムー松山中央店	愛媛県松山市中央2丁目70-1						
フジ藤原店	愛媛県松山市藤原2丁目4番62号						
セブンスター和泉店	愛媛県松山市土居町17						
セブンスター和泉店	愛媛県松山市土居町17						
セブンスター和泉店	愛媛県松山市土居町17						
(株)マルホンセンター 余戸店	愛媛県松山市余戸東1丁目10-40						
サニーマート衣山店	愛媛県松山市衣山1丁目171						
(株)マルホンセンター 余戸店	愛媛県松山市余戸東1丁目10-40						
(株)松山生協本社 余土店	愛媛県松山市余戸東4丁目5-5						

以上のような記入テンプレートを作成しましょう。どのサンプルかわかるように CN（ケースナンバー）を入れ調査対象者の現住所や、特定済みの店舗や病院の情報をまとめておきます。そうすることで効率よく作業ができます。

(章末資料2) Google Map を利用したマッピング方法

※この方法は、Google にログインした状態で行う。

1. 事前に、マップに表示したいデータをまとめた Excel ファイルを作成する。
1 行目には、データ名 (現住所や通勤手段など) を入力しておく。付属して様々なデータを入力してもよい。

通し番号	現住所	現住所郵便番号	通勤手段	通勤時間
1	長崎県松浦市	8594752	8	999
2	長崎県南島原	8592601	4	30
3	長崎県長崎市	8500834	88	888
4	長崎県長崎市	8500977	4	15
5	長崎県佐世保	8596114	99	999
6	長崎県長崎市	8500832	88	888
7	長崎県大村市	8560812	4	15
8	長崎県西彼杵	8512103	88	888
9	長崎県諫早市	8540046	4	15
10	長崎県佐世保	8570018	88	888

(SPSS からコピーしたため、通勤手段や通勤時間の欄が変数の値になっているが、後にマップ上でまとめて変更できるため、このままで問題はない。)

2. Google Map にブラウザ上でアクセスし、左上にある「メニュー」→「マイプレイス」→「マイマップ」→「地図の作成」の順に選択。
3. インポートと表示されたところから、先ほど作成した Excel ファイルを読み込む。
4. 「目印を配置する列の選択」は、ポインタされる基準となる座標である。したがって、「現住所」を選択。「マーカーの列として使用する列」は、「通し番号」を選択する。すると、地図上にマッピングされる。
5. データの読み込みの際エラーでマッピングができていなかったり、ありえない場所にマッピングされている場合は、レイヤのメニューからデータビューを表示し、修正する。
6. ピンをデータの種類別に色分けするため、レイヤの「均一スタイル」から、「場所のグループ化方法」を任意のデータ名に変更する。
7. さらに見やすくするため、ピンの色や名称を変更する。左側のメニューのそれぞれのピンを選択すると、右側に色を塗るマークが表示される。それをクリックすることで編集が可能になる。



第3章 働き方に関する実態把握

昨今、毎月勤労統計調査や賃金構造基本統計調査など政府統計の不正が問題になっている中で、働き方に関する正確な実態把握の必要性が叫ばれている。

本章では、県民生活実態調査から分かる愛媛県・長崎県の働き方を把握することを中心に、夫婦の働き方、人々の生活時間、家計構造を見ていく。その中で、過去の大谷ゼミで行われた調査と比較し、今後の調査への提言を行いたい。

【単純集計表】

問5. 現在のあなた（および配偶者）の主な職業は次のどれですか。【1つだけ○】

	本人(p<0.868)		配偶者(p<0.047)	
	愛媛(NA=18)	長崎(NA=24)	愛媛(NA・非=380)	長崎(NA・非=406)
農・林・漁業従事者（家族従事者を含む）	4.8(57)	5.0(60)	5.2(43)	6.7(55)
自営業者（家族従事者を含む）	8.6(102)	8.6(103)	10.0(83)	9.3(76)
会社員	28.0(334)	26.7(321)	27.0(224)	26.5(217)
教員	2.0(24)	1.9(23)	1.8(15)	1.8(15)
公務員	3.2(38)	3.4(41)	4.1(34)	5.9(48)
パート・アルバイト・派遣等（控除 や扶養の範囲超）	4.7(56)	6.4(77)	2.2(18)	4.8(39)
パート・アルバイト・派遣等（控除 や扶養の範囲内）	8.7(104)	8.7(104)	11.7(97)	9.6(79)
無職	21.3(254)	19.4(233)	24.6(204)	20.7(170)
専業主夫・専業主婦	13.0(155)	14.1(169)	11.1(92)	12.6(103)
学生	2.7(32)	2.8(34)	0.1(1)	0.0(0)
その他	3.0(36)	3.1(37)	2.3(19)	2.2(18)
計	100.0(1192)	100.0(1202)	100.0(830)	100.0(820)

5.(1) 職場はどちらにありますか。【1つだけ○】 1.を選択した方は、①都道府県・市町村と、郵便番号をご記入ください。(p<0.507)

	愛媛(NA・非=492)	長崎(NA・非=480)
1. ①【】都道府県【】市町村 ②(〒 -)	90.0(646)	90.1(672)
2. 職場は自宅である	10.0(72)	9.9(74)
計	100.0(718)	100.0(746)

5.(2) 主な通勤手段は次のどれですか。【1つだけ○】 また、日ごろ使う交通手段でかかる通勤時間（家から職場までにかかる総所要時間）はどれくらいですか。(p<0.000)

	愛媛 (NA・非=534)	長崎 (NA・非=535)
1. 徒歩	8.6(58)	10.0(69)
2. 自転車	10.5(71)	2.0(14)
3. バイク	9.8(66)	5.5(38)
4. 自動車	63.8(431)	67.4(466)
5. 路線バス・路面電車	2.2(15)	11.7(81)
6. 鉄道	1.9(13)	0.9(6)
7. フェリー・船	0.1(1)	0.4(3)

8.その他	3.1(21)	2.0(14)
計	100.0(676)	100.0(691)
平均	18.7 分(611) (0 分～120 分)	23.3 分(641) (0 分～210 分)

問 34. あなたの世帯の昨年 1 年間の収入（ボーナス・税込み）は、どれくらいですか。（ $p < 0.330$ ）

	愛媛 (NA=55)	長崎 (N=69)
1. 収入はなかった	4.9% (57)	3.7% (43)
2. 100 万円未満	3.7% (43)	5.4% (62)
3. 100 万円～129 万円	2.9% (33)	3.8% (44)
4. 130 万円～199 万円	6.8% (79)	6.1% (71)
5. 200 万円～399 万円	24.2% (280)	25.2% (292)
6. 400 万円～599 万円	16.0% (185)	14.8% (171)
7. 600 万円～799 万円	9.1% (105)	9.3% (108)
8. 800 万円～999 万円	5.0% (58)	4.3% (50)
9. 1000 万円～1199 万円	4.3% (50)	4.8% (55)
10. 1200 万円～1399 万円	1.5% (17)	0.8% (9)
11. 1400 万円～1599 万円	0.6% (7)	1.1% (13)
12. 1600 万円以上	0.9% (10)	0.7% (8)
13. 答えたくない	20.0% (231)	20.0% (231)
計	100.0% (1155)	100.0% (1157)

問 2. あなたは現在結婚されていますか。婚姻届けを出していない内縁の関係・事実婚も含めてお答えください。
($p < 0.938$)

	愛媛 (NA=7)	長崎 (NA=11)
1. 結婚している	71.0(854)	70.5(857)
2. 結婚していたが、配偶者と離別した	6.9(83)	6.7(81)
3. 結婚していたが、配偶者と死別した	5.6(67)	5.3(65)
4. 結婚したことはない	16.5(199)	17.4(212)
計	100.0(1203)	100.0(1215)

問 20. あなたの平日の平均的なテレビ視聴時間はどれくらいですか。

	愛媛 (NA=11)	長崎 (NA=25)
1. 見る	96.6% (1158)	95.5% (1144)
2. 全く見ない	3.4% (41)	4.5% (54)
平均視聴時間	185.0 分	184.3 分

＊情報の整理

○勤務時間

勤務時間という選択肢は今回なかったため、出勤時間と帰宅時間、通勤時間を使って求めて比べることにする。

勤務時間を求めることでどの職業では稼いでいるのか、また収入と勤務時間を合わせて見ることが出来る。

使う数値は質問5の(3)と(2)

＊出勤時間と帰宅時間で日付を超えている場合は帰宅時間の方を25時、26時などとしている。

＊(2)の通勤時間は自宅の場合SPSSには888と入力されていてそのままでは計算されないため0分と置き換えて計算する。

求め方の手順

①(出勤時間(24時間計算)×60)+出勤時間(分)=出勤時間を分計算で求めたもの

②(帰宅時間(24時間計算)×60)+帰宅時間(分)=帰宅時間を分計算で求めたもの

③ 通勤時間を往復計算するため×2にする

④ ②-①-③=勤務時間(分) という風に求めた。

＊勤務時間が1時間未満→0~59、1時間台→60~119、2時間台→120~179…となる。

＊勤務時間の平均を求めるときは勤務時間(分)÷60=勤務時間(時間)として求めている。

○収入置き換え

調査の収入の選択肢では収入の平均を求めることが出来ないため、それぞれの選択肢の真ん中の値をとって平均を求める。これによって数値化できるため、比較しやすいことに加え、世帯収入の職業別平均を求められる、更に家計の構造と組み合わせて使うこともできる。

以下の通り、**[34]**の収入の問いの答えを数値に置き換え→真ん中の値をとる

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 収入はなかった→0 | 2. 100万未満→50万 |
| 3. 100~129万→110万 | 4. 130~199万→160万 |
| 5. 200~399万→300万 | 6. 400~599万→500万 |
| 7. 600~799万→700万 | 8. 800~999万→900万 |
| 9. 1000~1199万→1100万 | 10. 1200~1399万→1300万 |
| 11. 1400~1599万→1500万 | 12. 1600万以上→1600万 |
| 13. 答えたくない→13 | |

○本人の勤労所得の求め方

[34]の世帯収入の数値化したもの×**[33]**の家計構造の本人の勤労所得×0.1=本人の勤労所得(実数)

(例) 世帯収入300万円台、家計構造の本人勤労所得の割合6の場合
300万円台×6(割)×0.1=180万円となる。

3-1 愛媛県民・長崎県民の働き方

① 各職業の特徴

以下の表は、愛媛県・長崎県の各職業の特徴を簡潔に表したものである。ここでは、通勤時間や勤務時間、世帯収入などをそれぞれの職業で比較することが出来るようにしている。詳細版は DVD に掲載しているので、そちらも一緒に参照されたい。

【表 3-1 各職業の特徴】

	①農・林・漁業従事者（家族従事者も含む）	②自営業者（家族従事者も含む）	③会社員
全体の人数	長崎 60 人、愛媛 57 人	長崎 103 人、愛媛 102 人	長崎 321 人、愛媛 334 人
性別	長崎:男 42 人(70.0%)、女 18 人(30.0%) (NA=0) 愛媛:男 33 人(58.9%)、女 23 人(41.1%) (NA=1)	長崎:男 62 人(61.4%)、女 39 人(38.6%) (NA=2) 愛媛:男 66 人(66.7%)、女 33 人(33.3%) (NA=3)	長崎:男 197 人(62.1%)、女 120 人(37.9%) (NA=4) 愛媛:男 205 人(61.9%)、女 126 人(38.1%) (NA=3)
年齢(平均)	長崎:63.9 歳、愛媛 64.6 歳	長崎:58.9 歳、愛媛 58.6 歳	長崎:47.2 歳、愛媛 45.5 歳
通勤時間(平均)	長崎:10 分 (5 分以内が多い) 愛媛:8 分 (5 分以内が多い)	長崎:8.5 分(10 分が最も多い) 愛媛:6.7 分(10 分、1 分の人が多い) 阿県とも通勤時間が最も短い。	長崎:26.8 分(30 分以内がほとんど) 愛媛:20.1 分(30 分以内がほとんど) 長崎では通勤時間が最も長い。
勤務時間 (平均)	長崎:10.2 時間 愛媛:9.1 時間	長崎:9.8 時間 愛媛:9.8 時間	長崎:10.5 時間 愛媛:10.3 時間
世帯収入(平均)	長崎:386 万 愛媛:341 万	長崎:414 万 愛媛:397 万	長崎:446 万 愛媛:438 万
*夫婦就業組み合わせ	・ 共働き:長崎 41 人(82.0%)、愛媛 42 人(79.2%) ・ 勤め×範囲外:長崎 2 人(4.0%)、愛媛 0 人 ・ 勤め×範囲内:長崎 0 人、愛媛 2 人(3.8%) ・ 勤め×無職:長崎 7 人(14.0%)、愛媛 9 人(17.0%)	・ 共働き:長崎 58 人(70.7%)、愛媛 53 人(69.7%) ・ 勤め×範囲外:長崎 2 人(2.4%)、愛媛 4 人(5.3%) ・ 勤め×範囲内:長崎 4 人(4.9%)、愛媛 3 人(3.9%) ・ 勤め×無職:長崎 15 人(18.3%)、愛媛 15 人(19.7%) ・ その他:長崎 3 人(3.7%)、愛媛 1 人(1.3%)	・ 共働き:長崎 99 人 (46.3%)、愛媛 98 人(47.8%) ・ 勤め×範囲外:長崎 11 人(5.1%)、愛媛 7 人(3.4%) ・ 勤め×範囲内:長崎 48 人(22.4%)、愛媛 49 人(23.9%) ・ 勤め×無職:長崎 52 人(24.3%)、愛媛 50 人 (24.4%) ・ その他:長崎 4 人 (1.9%)、愛媛 1 人 (0.5%)
*同居家族構成	・ 単身:長崎 2 人(3.4%)、愛媛 1 人(1.9%) ・ 夫婦のみ:長崎 18 人(31.0%)、愛媛 22 人(40.7%) ・ 子供世代:長崎 18 人(31.0%)、愛媛 14 人(25.9%) ・ 親世代:長崎 4 人(6.9%)、愛媛 5 人(9.3%) ・ 三世代:長崎 14 人(24.1%)、愛媛 10 人(18.5%) ・ その他:長崎 2 人(3.4%)、愛媛 2 人(3.7%)	・ 単身:長崎 4 人(4.0%)、愛媛 16 人(15.7%) ・ 夫婦のみ:長崎 39 人(38.6%)、愛媛 27 人(26.5%) ・ 子供世代:長崎 27 人(26.7%)、愛媛 33 人(32.4%) ・ 親世代:長崎 4 人(4.0%)、愛媛 7 人(6.9%) ・ 三世代:長崎 18 人(17.8%)、愛媛 13 人(12.7%) ・ その他:長崎 9 人(8.9%)、愛媛 6 人(5.9%)	・ 単身:長崎 26 人(8.3%)、愛媛 47 人(14.2%) ・ 夫婦のみ:長崎 64 人(20.3%)、愛媛 64 人(19.3%) ・ 子供世代:長崎 115 人(36.5%)、愛媛 119 人(36.0%) ・ 親世代:長崎 19 人(6.0%)、愛媛 13 人(3.9%) ・ 三世代:長崎 40 人(12.7%)、愛媛 35 人(10.6%) ・ その他:長崎 51 人(16.2%)、愛媛 53 人 (16.0%)

*夫婦就業組み合わせ: ①自営・勤め×自営・勤め⇒共働き ②自営・勤め×パート(範囲外)⇒勤め×範囲外 ③自営・勤め×パート(範囲内)⇒勤め×範囲内

④自営・勤め×専業主婦・無職、無職×自営・勤め・パート⇒勤め×無職 ⑤パート×パート ⑥無職×無職 ⑦その他

*同居家族構成:①単身 ②夫婦のみ ③夫婦と子供世代⇒子供世代 ④夫婦と親世代⇒親世代 ⑤三世代以上⇒三世代 ⑥その他

4教員	5公務員	6パート・アルバイト・派遣等(範囲外)	7パート・アルバイト・派遣等(範囲内)
長崎 23 人、愛媛 24 人	長崎 41 人、愛媛 38 人	長崎 77 人、愛媛 56 人	長崎 104 人、愛媛 104 人
長崎:男 13 人(56.5%)、女 10 人(43.5%) (NA=0) 愛媛:男 12 人(50.0%)、女 12 人(50.0%) (NA=0)	長崎:男 24 人(58.5%)、女 17 人(41.5%) (NA=0) 愛媛:男 18 人(47.4%)、女 20 人(52.6%) (NA=0)	長崎:男 20 人(26.3%)、女 56 人(73.7%) (NA=1) 愛媛:男 14 人(25.5%)、女 41 人(74.5%) (NA=1)	長崎:男 20 人(19.2%)、女 84 人(80.8%) (NA=0) 愛媛:男 14 人(13.5%)、女 90 人(86.5%) (NA=0)
長崎:45.9 歳、愛媛:45.4 歳。	長崎:45.2 歳、愛媛:43.5 歳	長崎:50.5 歳、愛媛:51.5 歳	長崎:53.2 歳、愛媛:52.8 歳
長崎:17.6 分(15 分以内が多い) 愛媛:19.2 分	長崎:20.6 分 (20 分以内が多い) 愛媛:26.1 分 (30 分以内が多い) 愛媛では通勤時間が最も長い。	長崎:24.1 分(30 分以内が多い) 愛媛:19.9 分(20 分以内が多い)	長崎:17.9 分(20 分以内が多い) 愛媛:14.0 分(20 分以内が多い)
長崎:11.7 時間、愛媛:11.4 時間 <u>両県とも最も勤務時間が長い。</u>	長崎:10.7 時間、愛媛:10.6 時間	長崎:9.0 時間、愛媛:8.7 時間	長崎:7.3 時間、愛媛:7.1 時間 <u>両県とも最も勤務時間が短い。</u>
長崎:704 万、愛媛:711 万 <u>両県とも最も世帯収入は多い。</u>	長崎:617 万、愛媛:701 万	長崎:260 万、愛媛:300 万 <u>両県とも最も世帯収入は少ない。</u>	長崎:314 万、愛媛:338 万
・共働き:長崎 10 人(55.6%)、愛媛 16 人(84.2%) ・勤め×範囲外:長崎 1 人 (5.6%)、愛媛 0 人 ・勤め×範囲内:長崎 4 人 (22.4%)、愛媛 1 人 (5.3%) ・勤め×無職:長崎 3 人 (16.7%) 愛媛 2 人 (10.6%)	・共働き:長崎 16 人 (47.1%)、愛媛 15 人 (53.6%) ・勤め×範囲外:長崎 1 人(2.9%)、愛媛 1 人(3.6%) ・勤め×範囲内:長崎 8 人 (23.5%)、愛媛 6 人 (21.4%) ・勤め×無職:長崎 8 人(23.5%)、愛媛 5 人(17.9%) ・その他:長崎 1 人 (2.9%)、愛媛 1 人 (3.6%)	・勤め×範囲外:長崎 27 人 (57.5%)、愛媛 19 人 (48.8%) ・勤め×無職:長崎 5 人(10.6%)、愛媛 4 人(10.3%)、 ・パート×パート:長崎 6 人 (12.8%)、愛媛 6 人 (15.4%) ・その他:長崎 9 人 (19.1%)、愛媛 10 人 (25.6%)	・勤め×範囲内:長崎 48 人 (63.1%)、愛媛 60 人 (71.4%) ・勤め×無職:長崎 9 人 (11.8%)、愛媛 7 人 (8.3%) ・パート×パート:長崎 10 人 (13.2%)、愛媛 12 人 (14.3%) ・その他:長崎 9 人 (11.8%)、愛媛 5 人 (6.0%)
・単身:長崎 3 人(13.6%)、愛媛 3 人(12.5%) ・夫婦のみ:長崎 6 人(27.3%)、愛媛 8 人(33.3%) ・子供世代:長崎 12 人(54.5%)、愛媛 8 人(33.3%) ・親世代:長崎 0 人、愛媛 0 人 ・三世代:長崎 1 人(4.5%)、愛媛 1 人(4.2%) ・その他:長崎 0 人、愛媛 4 人(16.7%)	・単身:長崎 6 人(14.6%)、愛媛 3 人(7.9%) ・夫婦のみ:長崎 4 人(9.8%)、愛媛 3 人(7.9%) ・子供世代:長崎 16 人(39.0%)、愛媛 20 人(52.6%) ・親世代:長崎 6 人(14.6%)、愛媛 1 人(2.6%) ・三世代:長崎 4 人(9.8%)、愛媛 3 人(7.9%) ・その他:長崎:5 人(12.2%)、愛媛 8 人(21.1%)	・単身:長崎 8 人(10.4%)、愛媛 5 人(8.9%) ・夫婦のみ:19 人(24.7%)、愛媛 14 人(25.0%) ・子供世代:長崎 20 人(26.0%)、愛媛 23 人(41.1%) ・親世代:長崎 3 人(3.9%)、愛媛 0 人 ・三世代:長崎 8 人(10.4%)、愛媛 4 人(7.1%) ・その他:長崎 19 人(24.7%)、愛媛 10 人(17.9%)	・単身:長崎 5 人(4.9%)、愛媛 7 人(6.7%) ・夫婦のみ:長崎 28 人(27.2%)、愛媛 21 人(20.2%) ・子供世代:長崎 34 人(33.0%)、愛媛 45 人(43.3%) ・親世代:長崎 7 人(6.8%)、愛媛 6 人(5.8%) ・三世代:長崎 14 人(13.6%)、愛媛 13 人(12.5%) ・その他:長崎 15 人(14.6%)、愛媛 12 人(11.5%)

【特徴】

- ・教員が両県とも最も勤務時間が長く、他の職業に比べて 1 時間ほど長くなっている。
- ・教員が両県とも最も世帯収入は多い。ただ、本人の収入は公務員の方が多くなる。これは夫婦の就業組み合わせを見てみると、教員は共働きが公務員より多いのに比べ、公務員の方が、勤め×無職の割合が高いためだと考えられる。
- ・パート・アルバイト・派遣等（範囲外）が両県とも最も世帯収入が少ない。範囲内と比べても 100 万程度変わってくる。これは、範囲外の方が、パートだけで生計を立てている人が多いと考えられる。逆に、範囲内は、勤め×範囲内と、片方が正社員の人で補佐として働いているケースが多い印象である。
- ・パート・アルバイト・派遣等（範囲内）が両県とも最も勤務時間が短い。加えて、本人の収入も最も低い。
- ・農・林・漁業従事者と自営業者は職場が自宅の場合が多いので必然的に通勤時間が短くなっている。
- ・通勤手段が鉄道の人は両県とも少ない。自動車通勤者が最も多くなっている。

	8 無職	9 専業主婦・主夫	10 学生
全体の人数	長崎 233 人、愛媛 254 人	長崎 169 人、愛媛 155 人	長崎 34 人、愛媛 32 人
性別	長崎男 109 人(47.6%)、女 120 人(52.4%)(NA=4) 愛媛男 134 人(54.3%)、女 113 人(45.7%)(NA=7)	長崎男 4 人(2.4%)、女 160 人(97.6%)(NA=5) 愛媛男 6 人(4.0%)、女 145 人(96.0%)(NA=4)	長崎男 17 人(50.0%)、女 17 人(50.0%)(NA=0) 愛媛男 15 人(46.9%)、女 17 人(53.1%)(NA=0)
年齢(平均)	長崎 68.0 歳 愛媛 69.3 歳	長崎 57.4 歳 愛媛 60.9 歳	長崎 22.0 歳 愛媛 20.2 歳
年齢(平均)×性別	長崎:男性 67.2 歳、女性 68.6 歳 愛媛:男性 70.0 歳、女性 68.5 歳	長崎:男性 69.3 歳、女性 57.2 歳 愛媛:男性 58.0 歳、女性 61.1 歳	長崎:男性 24.3 歳、女性 20.2 歳 愛媛:男性 19.7 歳、女性 20.7 歳
世帯収入(平均)	長崎:197 万 愛媛:233 万 答えてくれない人が多い。特に長崎は 25% を占める。収入なしと答える人も 1 割いた。	長崎:373 万 愛媛:358 万 両県とも答えてくれない人が多く、全体の 2 割を占める。	長崎:200 万 愛媛:255 万。 両県とも答えてくれない人が最も多いが、それは世帯収入を知らないからではない。
同居家族構成	・単身:長崎 43 人(18.8%)、愛媛 44 人(17.7%) ・夫婦のみ:長崎 86 人(37.6%)、愛媛 108 人(43.5%) ・子供世代:長崎 28 人(12.2%)、愛媛 41 人(16.5%) ・親世代:長崎 4 人(1.7%)、愛媛 4 人(1.6%) ・三世代:長崎 21 人(9.2%)、愛媛 16 人(6.5%) ・その他:長崎 47 人(20.5%)、愛媛 35 人(14.1%)	・単身:長崎 4 人(2.5%)、愛媛 7 人(4.5%) ・夫婦のみ:長崎 63 人(38.9%)、愛媛 72 人(46.8%) ・子供世代:長崎 60 人(37.0%)、愛媛 41 人(26.6%) ・親世代:長崎 4 人(2.5%)、愛媛 6 人(3.9%) ・三世代:長崎 18 人(11.1%)、愛媛 20 人(13.0%) ・その他:長崎 13 人(8.0%)、愛媛 8 人(5.2%)	・単身:長崎 15 人(44.1%)、愛媛 12 人(38.7%) ・夫婦のみ:長崎 0 人、愛媛 0 人 ・子供世代:長崎 7 人(20.6%)、愛媛 12 人(38.7%) ・親世代:長崎 1 人(2.9%)、愛媛 0 人 ・三世代:長崎 2 人(5.9%)、愛媛 3 人(9.7%) ・その他:長崎 9 人(26.5%)、愛媛 4 人(12.9%)

11 その他の特徴

◎その他は全体で長崎は 37 人、愛媛は 36 人いる。

- ・性別：長崎は男性 19 人(54.3%)、女性 16 人(45.7%)(NA=2)
愛媛は男性 14 人(38.9%)、女性 22 人(61.1%)(NA=0)

- ・年代：長崎の年齢の平均は 59.3 歳。愛媛の年齢の平均は 55.1 歳。

- ・勤務時間：長崎の平均の勤務時間は 9.8 時間。愛媛の平均の勤務時間は 9.5 時間。

- ・世帯収入：両県とも答えてくれない人が一番多い。
長崎は平均 380 万円。愛媛は平均 311 万円。

- ・同居家族構成：
 - ・単身:長崎 11 人 (32.4%)、愛媛 6 人 (16.7%)
 - ・夫婦のみ:長崎 4 人 (11.8%)、愛媛 7 人 (19.4%)
 - ・子供世代:長崎 10 人 (29.4%)、愛媛 11 人 (30.6%)
 - ・親世代:長崎 1 人 (2.9%)、愛媛 2 人 (5.6%)
 - ・三世代:長崎 3 人 (8.8%)、愛媛 4 人 (11.1%)
 - ・その他:長崎 5 人 (14.7%)、愛媛 6 人 (16.7%)

⇒その他の他は職業の選択肢に当てはまらないような職業をしている人も答えているし、無職の人も答えていることもあり、データとしてははっきりわからない部分が多くある。

【表 3-3 60 歳以上】

	⑥パート・アルバイト・派遣等（控除や扶養の範囲外）	⑦パート・アルバイト・派遣等（控除や扶養の範囲内）
全体の人数	長崎 77 人、愛媛 56 人	長崎 104 人、愛媛 104 人
通勤時間(平均)	長崎:23.0 分、愛媛:19.6 分 <u>範囲外の方が愛媛は通勤時間が長い。</u>	長崎:21.7 分、愛媛:14.1 分 <u>範囲内の方が長崎は通勤時間が長い。</u>
勤務時間（平均）	長崎:8.6 時間、愛媛:8.7 時間 <u>範囲外の方が勤務時間は長い。</u>	長崎:7.4 時間、愛媛:7.6 時間
世帯収入(平均)	長崎:250 万、愛媛:271 万 <u>範囲外の方が世帯収入は多い。</u>	長崎:226 万、愛媛:249 万
本人勤労所得(実数) (平均)	長崎:102 万円、愛媛:116 万円	長崎:81 万円、愛媛:70 万円
日常的課題なし	長崎:50.0%、愛媛:50.0%	長崎:26.5%、愛媛:25.7% <u>①に比べて課題ありの人が大幅に増えている。</u> <u>課題のある人は範囲内の方が多い。</u>
日常的課題あり	・子や孫の育児に問題があると答えた人、本人両親、配偶者両親の看護・介護に問題があると答えた人は <u>範囲外の方が多い。</u> 長崎:4.8、愛媛:4.4 <u>範囲外の方が家計構造で本人勤労所得が占める割合が高い。</u>	・子どもの看病・介護に問題があると答えた人は <u>範囲内の方が多い。</u> 長崎:3.8、愛媛:2.9
本人勤労所得（家計構造）（平均）	長崎:0.6、愛媛:1.5 <u>範囲外も範囲内も①に比べ割合はかなり少なくなっている。</u>	長崎:1.9、愛媛:2.1 <u>範囲内の方が家計構造で配偶者勤労所得が占める割合が高い。</u>

【特徴】

- ・60 歳未満では範囲内の方が子や孫の育児に問題があると答えた人が多い。これにより、子や孫の育児があるから、時間的余裕がなく範囲内では働けない場合、また、子や孫の育児があつてお金がかかるから範囲内で配偶者と一緒に働く場合がある、と考えられる結果になっている。
- ・60 歳未満の範囲外の方が 60 歳未満の範囲内に比べ、未婚の割合が 2 倍以上多い。
- ・60 歳未満の範囲内の長崎を除いて、本人勤労所得 120 万円の範囲内、範囲外の区切りというのは、はっきり分かれている。
- ・60 歳未満も 60 歳以上の範囲内も家計構造で、配偶者勤労所得が占める割合が高い。
- ・60 歳以上になると範囲外も範囲内も家計構造で、配偶者勤労所得が占める割合が低くなる。一方で、年金の所得が増える。

③ 夫婦就業組み合わせによる働き方

ここでは夫婦の働き方によって、生活のゆとりや、世帯収入などの生活行動は変わるのかを見ていく。

◎問5をアフターコーディングし、夫婦の就業組み合わせを次の8パターンに分類

【表3-4 夫婦の職業組み合わせ】

	愛媛(NA・非=384)	長崎(NA・非=410)
1.共働き（自営勤め&自営勤め）	27.4(226)	27.6(225)
2.パート主婦①（自営勤め&パート範囲超）	3.8(31)	5.1(42)
3.パート主婦②（自営勤め&パート範囲内）	14.5(120)	14.0(114)
4.専業主婦世帯（自営勤め&無職・専業主婦）	18.2(150)	22.2(181)
5.パート&パート	2.2(18)	2.0(16)
6.無職&自営勤めパート	4.2(35)	3.8(31)
7.無職&無職	22.9(189)	18.1(148)
8.その他	6.9(57)	7.2(59)
計	100.0(826)	100.0(816)

【表3-5 夫婦の職業組み合わせ別：日ごろのゆとり・TV視聴時間平均】

			かなりゆとりがある	ある程度ゆとりがある	あまりゆとりがない	ほとんどゆとりがない	計	TV 視聴平均（～分）
愛媛	男性	共働き	11.7	47.6	34.0	6.8	100.0(103)	158.2
		パート主婦①(範囲超)	0.0	72.7	27.3	0.0	100.0(11)	152.7
		パート主婦②(範囲内)	6.7	61.7	25.0	6.7	100.0(60)	119.1
		専業主婦世帯	14.9	59.5	23.0	2.7	100.0(74)	156.4
		その他	42.9	50.4	6.0	0.8	100.0(133)	273.1
		計	22.0	53.8	20.5	3.7	100.0(381)	191.1
	女性	共働き	5.1	45.3	33.3	16.2	100.0(117)	137.2
		パート主婦①(範囲超)	5.0	50.0	35.0	10.0	100.0(20)	142.2
		パート主婦②(範囲内)	11.9	61.0	15.3	11.9	100.0(59)	152.0
		専業主婦世帯	35.1	44.6	17.6	2.7	100.0(74)	193.9
		その他	24.5	54.1	15.1	6.3	100.0(159)	211.8
		計	18.4	50.8	21.4	9.3	100.0(429)	176.8
長崎	男性	共働き	7.8	53.4	24.1	14.7	100.0(116)	151.9
		パート主婦①(範囲超)	5.9	52.9	29.4	11.8	100.0(17)	118.2
		パート主婦②(範囲内)	10.8	56.9	24.6	7.7	100.0(65)	139.5
		専業主婦世帯	7.8	54.5	32.5	5.2	100.0(77)	164.4
		その他	36.6	50.0	10.7	2.7	100.0(112)	240.1
		計	16.5	53.2	22.2	8.0	100.0(387)	176.7
	女性	共働き	4.8	43.8	40.0	11.4	100.0(105)	142.1
		パート主婦①(範囲超)	8.0	32.0	36.0	24.0	100.0(25)	134.4
		パート主婦②(範囲内)	12.2	42.9	38.8	6.1	100.0(49)	136.3
		専業主婦世帯	24.0	54.8	14.4	6.7	100.0(104)	237.8
		その他	36.3	51.9	7.4	4.4	100.0(135)	243.6
		計	20.8	48.3	22.7	8.1	100.0(418)	197.9

【表 3-6 夫婦の職業組み合わせ別（世帯収入平均・男性の勤労所得平均（単位：～万円））】

	愛媛			長崎			計
	世帯収入 平均	男性の勤労所得平均		世帯収入 平均	男性の勤労所得平均		
		本人＝男 性	配偶者＝ 男性		本人＝男 性	配偶者＝ 男性	
共働き	643.5	376.4	349.3	629.6	367.4	386.9	636.5(358)
パート主婦①(範囲超)	592.8	502.2	346.9	519.1	404.8	308.5	550.3(59)
パート主婦②(範囲内)	546.5	457.2	411.4	495.6	397.4	338.3	520.9(197)
専業主婦世帯	565.6	440.7	494.0	535.9	485.4	423.7	549.9(261)
パート&パート	234.2	46.0	60.3	362.1	206.0	165.9	303.1(26)
無職&自営勤めパート	396.6	6.0	30.0	431.9	14.0	50.3	411.4(50)
無職&無職	290.5	13.6	6.8	281.1	1.4	19.0	286.6(252)
その他	437.6	144.7	245.0	410.6	160.5	135.3	423.7(93)
計	501.1	287.9	268.5	496.7	301.9	275.8	498.9(1296)

【特徴】

- ・両県とも共働きやパート主婦（特に範囲超）の世帯になるほどゆとりがない傾向にある。その中でも男性に比べて女性の方が、ゆとりがないと答える割合が高い。
- ・専業主婦世帯では男女別によってゆとりがあると答える割合に大きな差があった。
- ・両県とも専業主婦世帯では男性に比べて女性の方が、TV 視聴時間平均がかなり長いという男女間の差が見られた。逆に、共働き世帯では両県とも女性の方が男性に比べて TV 視聴時間平均が短いという結果になった。
- ・県ごとの比較では愛媛に比べて長崎の方が男性の勤労所得の平均が少し高かった。
- ・世帯単位の収入平均では専業主婦世帯に比べて共働き世帯の方が高く、全体でみても共働き世帯が最も高かった。しかし男性の勤労所得平均で比較すると、全てのパターンにおいて共働き世帯に比べて専業主婦世帯の方が高くなった。
- ・今後の調査でも夫婦の就業組み合わせによって職業の実態、夫婦のかたちが分かってくるのではないかな。

④ 本人の勤労所得

- ・世帯収入だけでは、本当の職業別の年収が分からない。
- ・世帯収入では収入がある人が世帯に何人いるのかもよる。例えば、単身世帯と 5 人世帯で全員に収入があったら、5 人世帯の方が世帯収入は高くなる可能性が高い。
- ・世帯収入という質問文だが、自分の収入と思って回答している人もいる可能性がある。

以上の理由より、世帯年収の設問と家計構造の設問を使って本人の勤労所得を求めてみた。

【表 3-7 世帯収入と本人の平均勤労所得】

	長崎県		愛媛県	
	世帯収入	本人の勤労所得（実数）	世帯収入	本人の勤労所得（実数）
農・林・漁業従事者	386 万円	168 万円	341 万円	151 万円
自営業者	414 万円	213 万円	397 万円	245 万円
会社員	446 万円	305 万円	438 万円	303 万円
教員	<u>704 万円</u>	<u>442 万円</u>	<u>711 万円</u>	430 万円
公務員	617 万円	438 万円	701 万円	<u>476 万円</u>
パート・アルバイト・派遣等(控除や扶養の範囲外)	260 万円	119 万円	300 万円	135 万円

パート・アルバイト・派遣等(控除や扶養の範囲内)	314 万円	112 万円	338 万円	84 万円
無職	197 万円		233 万円	
専業主婦・主夫	373 万円		358 万円	
学生	200 万円		255 万円	
その他	380 万円		311 万円	
計	362 万円	164 万円	368 万円	162 万円

【考察点】

・世帯収入に自分の年収を書いている可能性もあるためこの数字がすべて正しいとは思えないが、世帯収入と家計の構造を書いてもらうだけで、本人の勤労所得も求めることは出来るのではないかな。

・家計の構造も主観が入っていることや、同居人数を考慮していないため、本当に正確な収入はこの調査では求めることが出来ないということも強調しておきたい。

ただ、それ程外れた数値は出ていないと思うので、大まかな目安としてみることは出来ると考えられる。

⑤ 関西ニュータウン比較調査研究と西宮アパート・マンション調査との比較

大谷ゼミで過去に実施された2つの調査と本調査を比較することで、今回の調査の良かった点、改善点を見つけ、次回の調査へつなげたい。

【表 3-8 ニュータウン調査、単純集計表】

あなたおよび配偶者の職業について

あなたの職業についてお聞きます。配偶者がいらっしゃる方は、配偶者の職業についてもお聞かせください。現在と入居当時の状況についてあてはまる番号それぞれに○をつけてください。入居当時、まだ生まれていなかった方や就業前だった方は「現在」の欄のみご記入ください。

Q6. あなたおよび配偶者の職業は次のどちらですか。

	あなた		配偶者	
	現在	入居当時	現在	入居当時
自営	6.9	5.5	6.6	6.6
勤め	36.2	47.7	29.0	42.6
パート・アルバイト	11.2	5.2	9.6	6.0
専業主婦	21.9	25.5	17.9	21.0
学生	2.7	6.3	0.1	0.3
無職	19.6	7.7	17.9	10.4
その他	1.5	2.2	1.0	0.5
配偶者なし			17.9	12.7

【現在のあなた】

	須磨	西神	泉北	千里	和泉	平城	三田	洛西
自営	4.5	5.2	10.4	4.7	6.1	6.2	5.5	12.2
勤め	34.3	40.2	32.2	28.1	44.6	39.0	43.0	35.4
パート・アルバイト	11.6	11.9	12.6	13.7	13.5	5.6	12.0	5.4
専業主婦	20.7	20.6	21.2	23.8	27.0	22.0	22.5	17.7
学生	4.5	3.6	0.9	2.0	1.4	4.0	3.0	3.4
無職	22.2	16.0	21.5	25.4	6.8	21.5	14.0	24.5
その他	2.0	2.6	1.2	2.3	0.7	1.7	0.0	1.4

Q7. あなたおよび配偶者の職業は、入居当時の職業と同じですか。

SQ1. Q7で「2. 異なっている」と答えた方にお聞きます。どのように変化されましたか。

Q8. Q6で、入居当時の職業を「1. 自営」「2. 勤め」と答えた方にお聞きます。あなたが働いていなかった場合には、配偶者のことについてお答えください。

①入居当時のあなた（または配偶者）の職場はどちらにありましたか。

A. 近畿圏内 最寄り駅／路線／市町村

近畿圏外 都道府県

②入居当時、あなたまたは配偶者には転居をとまなう転勤の可能性がありますでしたか。

③入居当時、職場からの退社時間はしいていば次のどちらでしたか。

1. どちらかといえば提示に帰れる方だった 2. どちらかといえば遅い方だった（残業が多かった等）

現在のあなたまたは配偶者の通勤状況について（パート・アルバイトは除く）

あなた自身が通勤をされていない場合は、あなたの配偶者の通勤状況についてお答えください。

Q9.あなた（または配偶者）は通勤に電車を利用していますか。

	須磨	西神	泉北	千里	和泉	平城	三田	洛西	全体
利用している	37.5	47.0	35.0	38.8	48.3	41.9	50.5	18.2	39.7
利用していない	26.1	28.6	35.7	22.8	39.2	31.1	30.2	48.9	32.0
どちらも通勤していない	36.4	24.3	29.3	38.4	12.6	26.9	19.3	32.8	28.2

SQ1. 「2. 利用していない」とお答えの方にお聞きます。通勤の際に主に利用している交通手段は何ですか。

	須磨	西神	泉北	千里	和泉	平城	三田	洛西	全体
徒歩	4.3	8.2	1.9	3.9	1.8	8.0	10.3	3.1	4.8
自転車	2.1	8.2	2.9	11.8	5.3	4.0	1.7	1.6	4.4
バイク・原付	8.5	4.1	6.7	7.8	3.5	2.0	1.7	25.0	7.7
バス	4.3	4.1	1.9	2.0	5.3	0.0	5.2	4.7	3.3
自動車（運転）	74.5	73.5	80.0	68.6	80.7	82.0	77.6	64.1	75.5
自動車（送迎）	0.0	0.0	4.8	2.0	1.8	2.0	0.0	0.0	1.7
その他	6.4	2.0	1.9	3.9	1.8	2.0	3.4	1.6	2.7

Q10. ①現在通勤の際に実際に使っている乗車駅はどちらですか。Q9で「2. 利用していない」「3. どちらも通勤していない」を答えた方は普段よく使っている鉄道の乗車駅をお答えください。

A.最寄り駅／路線／市町村

②その駅はあなたの駅から徒歩圏内ですか。徒歩圏内の場合は徒歩での所要時間をお答えください。

	須磨	西神	泉北	千里	和泉	平城	三田	洛西	全体
徒歩圏内	82.3	75.2	78.9	89.7	96.9	79.5	35.3	7.5	71.2
徒歩圏外	17.7	24.8	21.1	10.3	3.1	20.5	64.7	92.5	28.8
平均時間（分）	14.3	12.8	12.6	9.9	10.2	13.1	11.4	12.9	12.0

③その駅までは、日頃どのような交通手段を主に使われていますか。

	須磨	西神	泉北	千里	和泉	平城	三田	洛西	全体
徒歩	54.8	48.2	56.6	78.6	77.0	59.6	24.2	4.7	52.7
自転車	5.2	14.6	8.3	2.8	9.8	3.8	5.3	1.2	6.8
バイク・原付	2.6	1.5	4.9	1.4	0.8	2.9	6.8	5.8	3.3
バス	28.7	21.9	20.0	11.0	7.4	26.9	42.4	80.2	27.0
自動車（運転）	4.3	5.8	2.4	3.4	1.6	1.0	6.8	3.5	3.6
自動車（送迎）	3.5	6.6	7.8	2.8	3.3	5.8	14.4	3.5	6.2
その他	0.9	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.4

Q11.通勤の際に実際に使っている降車駅はどちらですか。通勤に電車を利用されていない方は、勤務先の最寄り駅をお答えください。あなた・配偶者とも通勤されていない方は、Q13にお進みください。

A.最寄り駅／路線／市町村

Q12.通勤時間：自宅を出発してから勤務先に到着するまでの総所要時間は何分ですか。

	須磨	西神	泉北	千里	和泉	平城	三田	洛西	全体
平均時間（分）	49.4	61.4	54.9	48.6	54.7	55.2	63.9	39.1	54.3

【表 3-9 マンション調査、単純集計表】

Q13.あなたの職業は次のどれにあてはまりますか。

配偶者がおられる場合は、配偶者についてもお答えください。

	あなた (NA=6)	配偶者 (NA・非=189)
自営	8.4 (70)	3.7 (24)
勤め	51.0 (427)	17.0 (111)
パート・アルバイト	6.1 (51)	22.3 (146)
専業主婦・(夫)	5.6 (47)	28.9 (189)
学生	0.1 (1)	0.2 (1)
無職	28.2 (236)	27.2 (178)
その他	0.6 (5)	0.8 (5)
計	100.0 (837)	100.0 (654)

あなたと配偶者の職業パターン

	あなた (NA・非=185)
自営・勤め×自営・勤め	14.6 (96)
自営・勤め×専業主婦・無職	35.9 (236)
自営・勤め×パート	19.8 (130)
パート×専業主婦・無職	3.6 (24)
専業主婦・無職×専業主婦・無職	22.2 (146)
その他	4.0 (26)
計	100.0 (658)

以下の質問は勤務先（もしくは通学先）がある方にのみお聞きします。

Q14. ①あなたの勤務先（もしくは通学先）の最寄り駅はどちらですか。（配偶者がおられる場合は、配偶者の勤務先についてもお答えください。） A.あなた・配偶者 鉄道会社名／路線／駅名

②普段利用している交通手段で自宅を出発してから勤務先（通学先）に到着するまでの所要時間は何分ですか。（NA=54、非 303）

時間	15 分以内	16~30 分	31~45 分	46~60 分	61 分以上	合計	平均
票数 (%)	17.1 (83)	15.2(74)	23.3(113)	31.5(153)	13.0(63)	100.0(486)	43.2 分

③あなたは普段(月曜日から金曜日の間)、大体何時ごろ現住居に帰宅されますか。おおよその帰宅時刻をお答えください。（午後 8 時にご帰宅の場合は 20 時とお答えください）（NA=49、非 302）

帰宅時間	18	19	20	21	22	23	その他	合計	平均
票数 (%)	10.2(50)	16.3(80)	23.2(114)	16.1(79)	13.0(64)	6.7(33)	14.6(72)	100.0(492)	19.23 時間

④（勤めの方のみお聞きします）転居を伴う転勤の可能性はどの程度ありますか。

	あなた (NA・非=185)
1. 可能性は全くない	45.3(231)
2. 可能性はあまりない	20.6(104)
3. 可能性は少しある	15.9(80)
4. 可能性は非常に高い	17.7(89)
計 (NA・非=339)	100.0(504)

【本調査と過去の2つの調査の相違点】

◎職業の分類

- ・自営→農・林・漁業従事者、自営業者
- ・勤め→会社員、公務員、教員
- ・パート・アルバイト→パート・アルバイト・派遣等（範囲外）、範囲内

◎職場の場所

- ・最寄り駅の駅名→都道府県と市区町村、郵便番号

【本調査の良かった点】

- ・本調査は愛媛県・長崎県という比較的的地方部で調査を行ったので、農・林・漁業従事者も一定の割合でいたことから、自営とひとくくりにしなかった点が良かったと考えられる。
 - ・会社員と公務員と教員で分けた本調査の結果を見てみると、それぞれ違った特徴があったことから、「勤め」とひとくくりにするのは、働き方の実態把握に繋がらないのではないかな。
- 例えば、今回の調査で最も発見であった、教員の勤務時間の長さは、項目を分けたからこそ発見できたことであると考える。
- ・パート（範囲外）とパート（範囲内）でもそれぞれ世帯収入の違いや家族構成の違いなど、相違点が多くみられた。

⇒今回の職業の分け方は、愛媛県・長崎県という地方部の職業の実態を把握することに関して、成功したと言えるのではないかな。現時点では、日本で職業を問う場合には、本調査の職業分類で十分な職業実態の把握ができるとうかが得る。

【本調査の考察点】

- ・本調査では自動車を使った通勤が大多数を占めたため、職場の最寄り駅を聞く質問ではなく、郵便番号で答えてもらう形式にして良かったと考えられる。しかし、都会で聞く場合は通勤手段に鉄道を使っている場合が多いため、職業の正確な実態把握の上では、郵便番号で聞くか最寄り駅名で聞くかは議論が必要であるとする。

⑥ まとめ

【本調査の改善点】

- ・今回、出発時間と帰宅時間で聞いたが、勤務時間は聞けなかったため、自分で求めた。
- ただ、出発時間と帰宅時間を分析に使用するのがとても難しい。なぜなら、出発時間といっても全員が朝に出発するわけでもないし、逆に全員が深夜0時までには帰ってくるわけでもないため、出発時間や帰宅時間で職業の特徴をとらえるのは難しい。
- だからこそ、もし出発時間や帰宅時間を聞く必要があるなら、勤務時間も追加して聞く方がいいのではないかな。
- ・今回、時間の調査は、午前、午後に○をして答えてもらったが、24時間換算で書いている人が多かった。それによって、データのクリーニングをすることが多々あった。回答者は24時間換算の方が答えやすいのではないかな。
 - ・「2014年度 外国人市民意識実態調査（川崎市）」より、外国人向けに行われた調査を参考に、調査対象者に外国人がいる場合を想定して、調査票を作る必要性を感じる。

（ www.city.kawasaki.jp/250/cmsfiles/contents/0000066/66982/sannbu.pdf ）

V1. あなたのお仕事についてうかがいます。

Q37 あなたが現在、働いている職場でのあなたの地位（立場）は次のどれにあたりますか。仕事は 2 つ以上ある場合は、主なもの 1 つに○、仕事を持っていない方は「無職」の中から選んでください。大学在学中の方はアルバイト等をしていても、「学生」を選んで下さい。

- (1) 自営業主（経営者） (2) 会社役員 (3) 正社員 (4) 契約社員 (5) 派遣社員
(6) 臨時・パートタイマー・アルバイト (7) 技能実習生 (8) その他（ ）
(9) 無職（仕事をさかしている） (10) 無職（仕事を探していない） (11) 学生

→ (9) ~ (11) の方は Q41 にお進みください。

Q38 現在のお仕事の種類は次のどれにあたりますか。（2 つ以上ある場合は主なもの 1 つに○）

注：在留資格とは関係なく、仕事の内容で選んでください。

- (1) 企業・施設の経営、管理職 (2) 専門・技術職（エンジニア、看護師、保育士、介護福祉士など）
(3) 語学教師 (4) 通訳・翻訳 (5) 事務員（営業等の業務を含む） (6) 工場の工員
(7) 店員（販売） (8) 接客サービス業（ウェ이터・ウェイトレスなど） (9) 家政婦（夫）
(10) 運転手・配達員・清掃員 (11) その他のサービス職（ホームヘルパー、調理人、美容師など）
(12) 建築土木作業員 (13) その他の職業（ ）

Q38-1 あなたの勤め先の規模はどのくらいですか。会社全体の従業員数を答えてください。（1 つに○）

- (1) 1~29 人 (2) 30~99 人 (3) 100~299 人 (4) 300 人以上

Q39 あなたの最近 1 週間の就労日数は何日ぐらいですか。一日の平均労働時間はどのくらいですか。働く日が少ない場合、最近 1 か月の就労日数を書いてください。

注：実際の日数と時間を記入してください。

最近 1 週間に（ ）日、1 日あたり（ ）時間

または

最近 1 か月に（ ）日、1 日あたり（ ）時間

Q40 あなたは現在の仕事について、次のようなことで困ったり不満に感じたりしていますか。（当てはまるものすべてに○）

- (1) 日本語でのコミュニケーションがうまくいかない
(2) 賃金（収入）や労働時間に不満がある
(3) 安全性、衛生面など、職場の環境に不満がある
(4) 職場の人間関係がよくない
(5) 外国籍であるために差別的な扱いを受ける（例：配属・昇進）
(6) その他（ ）
(7) 困っていることや不満はない

【検討資料から見る今後の調査の在り方】

- ・本調査の職業の質問は日本人対象の質問としては、成功だったように思える。

しかし、外国人に向けて職業の質問をするとき、本調査の職業の分類だけでは、足りないように思える。

上記のような川崎市の外国人向けの職業分類のように、職場の地位でも多くあり、また、職業の種類も多岐にわたるため、今後、都会で調査する場合には、外国人の方が対象になる可能性も考えて調査票を作る必要があると考えられる。

- ・上記の調査の Q39 のように、勤務時間や 1 週間の就労日数は今回の調査では聞かなかった。

ただ、週に何回働いているか、何時間働いているかを見ることも働き方に関する実態把握では非常に重要であると考ええる。

参考文献

川崎市,2014,「2014 年度 外国人市民意識実態調査」

(www.city.kawasaki.jp/250/cmsfiles/contents/0000066/66982/sannbu.pdf). (2019 年 2 月 6 日アクセス)

3-2 愛媛県民・長崎県民の生活時間と既存調査

ここでは、過去の国の統計調査や、大谷ゼミの調査と比較しながら愛媛県・長崎県民がどのような生活を送っているのかを見ていく。本調査では、帰宅時間、通勤時間、テレビの視聴時間の3つの生活時間を問うた。

まずは、本調査と一緒に見ていく調査の概要を見た後、それぞれの生活時間を見ていくこととする。

(※本章では通勤時間について扱っているが、グーグルマップを用いた通勤時間の分析も行っている。そちらの詳細は第2章を参照されたい。)

①「国勢調査」

- ・調査機関：総務省統計局（5年ごとに実施）
- ・対象調査事項：通勤手段
- ・調査対象：本邦内（日本国内）に常住している者
- ・調査時期：実施年度の10月1日午前零時現在

※「通勤・通学の交通手段」の項目は、10年に1度の大規模調査にのみ存在する。

②「社会生活基本調査」

- ・調査機関：総務省統計局（5年ごとに実施）
- ・対象調査事項：通勤時間、家事関連、仕事時間、妻と夫の生活時間、高齢者の生活時間、スマホ・パソコンの使用状況、地域別生活時間。
- ・調査対象：全国の指定する調査区（約7300調査区）の10歳以上の住民
- ・サンプル数：約88,000世帯の世帯員約20万人
- ・サンプリング方法：層化2段抽出法
- ・調査時期：平成28年10月20日現在

③NHK 生活時間調査 (2015)

- ・調査機関：NHK 放送文化研究所 世論調査部
- ・対象調査事項：調査対象日(2日間)の「午前0時」から「午後12時」までの、時刻別(15分刻み)の生活行動と在宅状況。付帯質問として、調査相手の個人属性、休日制度など。
- ・調査対象：10歳以上の国民から
- ・サンプリング方法：住民基本台帳から層化無作為2段抽出法
- ・サンプル数：12600人(1800人を7回)
- ・調査時期：2015年10月13日～10月26日(2日ずつ7回に分けて)

④「関西ニュータウン比較調査研究」(第6章参照)

- ・対象調査事項：通勤手段、通勤時間、最寄り駅

⑤「西宮アパート・マンション調査」(第6章参照)

- ・対象調査事項：最寄り駅、最寄り駅までの時間、通勤時間

【表 3-10 各調査と生活時間】

	職業	家事時間	テレビ視聴時間	子育て時間	通勤時間	仕事時間	睡眠時間	起床・就寝時間
国勢調査	○	×	×	○	○	○	×	×
NHK 生活時間調査	○	○	○	○	○	○	○	○
社会生活基本調査	○	○	○	○	○	○	○	×
西宮アパート・マンション調査	○	×	×	×	○	×	×	×
関西ニュータウン比較調査研究	○	×	×	×	○	×	×	×
県民生活実態調査	○	×	○	×	○	△（出発時間と帰宅時間）	×	×

【特徴】

- ・本調査では、生活時間に関して聞いたのは、通勤時間、出発・帰宅時間、テレビの視聴時間だった。
- ・その中で、労働に関する時間を省くと生活時間について聞いているのは、テレビの視聴時間だけである。
- ・NHK 生活時間調査は、生活時間の調査のため、聞いている項目が多い。
- ・社会生活基本調査は生活実態を把握する上で、満遍なく聞いていると考えられるため、生活時間に関する質問を作成するときは社会生活基本調査が妥当ではないか。

① 通勤時間

【表 3-11 過去の調査の通勤時間一覧】

調査年	調査データ	平均時間
2017	愛媛県民生活実態調査	24.2 分
	長崎県民生活実態調査	23.1 分
2015	NHK 生活時間調査	29.0 分
2016	社会生活基本調査報告	34.0 分
2004	西宮アパート・マンション調査	43.2 分
2008	関西ニュータウン比較調査研究	54.3 分

【特徴】

- ・本調査が最も通勤時間が短かった。理由としては、電車通勤者がほとんどおらず、自動車通勤者が大多数を占めているため、また、農・林・漁業従事者や自営業者などの職場が自宅の場合も多くあったためであると考えられる。
- ・最も通勤時間が長かったのが、ニュータウン調査の 54 分で、本調査と倍以上違う結果となっている。理由としては、ニュータウンはオフィス街と呼ばれるところから外れた郊外にあったからではないか。

【表 3-12 年代でみる通勤手段・通勤時間】

(愛媛 NA・非=582 長崎 NA・非=583)

(愛媛)	徒歩	自転車	バイク	自動車	バス・路面	その他	計	通勤時間	通勤距離
20 代以下	8.6	12.1	6.9	63.8	5.2	3.4	100.0(58)	22.1 分	8.17km
30 代	2.8	12.8	14.7	60.6	2.8	6.4	100.0(109)	20.7 分	6.35km
40 代	7.9	12.6	9.9	62.9	1.3	5.3	100.0(151)	18.6 分	5.73km
50 代	6.5	10.8	7.9	67.6	3.6	3.6	100.0(139)	17.5 分	4.30km
60 代	15.2	6.8	8.3	62.9	0.8	6.1	100.0(132)	17.1 分	3.79km
70 代以上	15.4	7.7	12.8	59.0	0.0	5.1	100.0(39)	15.5 分	2.14km
計	8.8	10.7	9.9	63.4	2.2	5.1	100.0(628)	18.6 分	5.05km
(長崎)	徒歩	自転車	バイク	自動車	バス・路面	その他	計	通勤時間	通勤距離
20 代以下	9.6	1.9	1.9	67.3	15.4	3.8	100.0(52)	30.8 分	8.27km
30 代	9.5	2.6	8.6	65.5	11.2	2.6	100.0(116)	25.5 分	6.74km
40 代	5.5	1.6	7.8	72.7	11.7	0.8	100.0(128)	22.2 分	5.61km
50 代	9.0	1.1	2.2	74.7	10.1	2.8	100.0(178)	23.0 分	4.66km
60 代	9.7	3.2	4.0	62.1	14.5	6.5	100.0(124)	25.3 分	4.74km
70 代以上	17.8	2.2	6.7	62.2	2.2	8.9	100.0(45)	14.2 分	1.84km
計	9.2	2.0	5.1	68.7	11.4	3.6	100.0(643)	23.7 分	5.27km

※分析の際、サンプル数が少ない「鉄道」と「フェリー・船」を「その他」にまとめた。

【特徴】

- ・愛媛は、年齢が高くなるにつれて短くなり、徒歩通勤が増える傾向がある。
 - ・長崎は、20代の通勤時間が特に長い。70代になると徒歩通勤が増え、通勤時間が大幅に短くなる。
 - ・両県とも、自動車通勤は年齢が高くなるにつれて少しずつ減るが、それでも6割近い数字であり、車社会といえる。
 - ・両県とも、通勤距離は年齢が高くなるにつれて短くなり、70代を超えると大幅に短くなる。
- これは70代以上の職業は自営の割合が高く、職場が自宅の近くにある人が多いからではないかと考えられる。

【表 3-13 地域区分でみる通勤手段・通勤時間】

(愛媛 NA・非=534 長崎 NA・非=535)

(愛媛)	徒歩	自転車	バイク	自動車	バス・路面	その他	計	通勤時間	通勤距離
松山市	5.9	14.6	16.2	51.8	4.3	7.2	100.0(253)	21.1 分	5.16km
東予地方局	7.6	6.3	6.3	78.5	0.0	1.4	100.0(144)	16.6 分	4.53km
今治支局	10.6	8.2	8.2	68.2	1.2	3.5	100.0(85)	18.4 分	5.22km
中予地方局	10.3	13.2	5.9	58.8	1.5	10.3	100.0(68)	20.1 分	4.75km
南予地方局	15.2	13.0	4.3	63.0	2.2	2.2	100.0(46)	15.0 分	4.17km
八幡浜支局	11.3	3.8	3.8	75.0	1.3	5.0	100.0(80)	16.7 分	6.18km
計	8.6	10.5	9.8	63.8	2.2	5.1	100.0(676)	18.7 分	5.05km
(長崎)	徒歩	自転車	バイク	自動車	バス・路面	その他	計	通勤時間	通勤距離
長崎市	15.8	0.5	9.0	47.5	24.4	2.8	100.0(221)	26.5 分	4.39km
佐世保市	8.8	0.9	6.2	70.8	12.4	0.9	100.0(113)	21.2 分	5.66km
県央地域	5.3	4.4	2.6	76.3	6.1	5.3	100.0(114)	22.9 分	5.84km
県北地域	10.0	1.7	1.7	81.7	0.0	5.0	100.0(60)	23.0 分	6.55km
東彼杵地域	9.5	4.8	4.8	81.0	0.0	0.0	100.0(21)	20.5 分	7.64km
西彼地域	7.1	2.4	2.4	71.4	11.9	4.8	100.0(42)	26.8 分	4.71km
島原地域	5.8	2.9	4.3	82.6	0.0	4.3	100.0(69)	20.1 分	5.37km
五島地域	10.3	6.9	6.9	65.5	3.4	6.9	100.0(290)	15.8 分	1.69km
対馬	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0(11)	28.9 分	7.09km
壱岐	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0(11)	13.5 分	2.51km
計	10.0	2.4	5.5	67.4	11.7	3.3	100.0(691)	23.3 分	5.13km

※地域区分は以下の通りである。

愛媛 東予地方局：新居浜市、西条市、四国中央市 今治支局：今治市、上島町

中予地方局：伊予市、東温市、松前町、砥部町、久万高原町

南予地方局：宇和島市、松野町、鬼北町、愛南町 八幡浜支局：八幡浜市、大洲市、西予市、内子町、伊方町

長崎 県央地域：諫早市、大村市 県北地域：平戸市、松浦市、佐々町、小値賀町、西海市

西彼地域：長与町、時津町 島原地域：島原市、雲仙市、南島原市 五島地域：五島市、新上五島町

【特徴】

- ・県庁所在地は自動車通勤する人が少ない。これは公共交通機関が発達しているからといえる。
- ・県庁所在地と、その周辺の地域（愛媛：伊予市・松前町 長崎：長与町）は通勤時間の平均が少し長い傾向がある。
- ・県庁所在地とその周辺以外の地域では自動車通勤する人が多く、公共交通機関を使った通勤はほとんどない。
- ・愛媛県では、県庁所在地に近接している伊予市や松前町も自動車通勤する人が比較的少ない。
- ・長崎市と西彼地域は、通勤距離が他の地域と比べて短い、通勤時間は長い。
- ・長崎市と佐世保市の公務員の自動車通勤の割合が少し低い。
- ・離島にある市町村のうち、壱岐市と対馬市は自動車通勤の人しかいないが、五島市と新上五島町では自動車通勤の割合は県の平均とほとんど変わらない。

② 帰宅時間

ここでは、帰宅時間の早い、遅いで人々の生活実態について見ていく。働き方改革が進む中で、残業の多さなどが問題になっているが、実際の職業で、帰宅時間が遅いのかまた早いのかを見ていきたい。

【表 3-14 性別別、帰宅時間の比較】

職種	男性			女性		
	17 時以前	17 時台～19 時台	20 時以降	17 時以前	17 時台～19 時台	20 時以降
農林漁業従事者	10.8 (6)	85.4 (47)	3.6 (2)	35.0 (7)	65.0 (13)	0.0 (0)
自営業者	12.0 (14)	63.3 (74)	24.8 (29)	18.6 (11)	61.0 (36)	20.3 (12)
会社員	8.4 (32)	67.5 (260)	24.2 (93)	5.5 (13)	77.5 (183)	16.9 (40)
教員	0.0 (0)	52.0 (13)	48.0 (12)	4.5 (1)	68.2 (15)	27.3 (6)
公務員	4.9 (2)	65.8 (27)	29.2 (12)	8.1 (3)	73.0 (27)	18.9 (7)
パート・アルバイト・派遣等 (控除扶養範囲超)	19.4 (6)	61.3 (19)	19.3 (6)	16.3 (15)	72.8 (67)	10.9 (10)
パート・アルバイト・派遣等 (控除扶養範囲内)	36.4 (11)	57.6 (19)	6.0 (2)	53.3 (88)	38.8 (64)	7.9 (13)

【特徴】

- ・自営業と会社員を比較してみると、17 時以前に帰宅する人々の割合が、自営業のほうが会社員に比べて多かった。これは自営業のほうが、労働時間の融通が効きやすいのではないかと考える。
- ・教員は 20 時以降が男性では 48%、女性でも 27.3%とほかの職種に比べて高く、教員は夜遅くまで働いているという傾向が分かった。
- ・範囲内でのパートを行っている女性労働者のうち、17 時以前の帰宅は 53.3%と半数を超える結果となった。これは子育てをしながらパート等で働いているため、学童保育等を利用している女性が多くいるためではないかと考えられる。

③ テレビ視聴時間

ここでは、労働に関する時間以外で唯一の生活時間について聞いているテレビの視聴時間について見ていく。

◎質問形式

「愛媛・長崎県民生活実態調査」

問 20. あなたの平日の平均的なテレビ視聴時間はどのくらいですか

「NHK 生活時間調査」

Q. 1 日の生活行動時間を記入 (テレビ項目から抜粋)

「社会生活基本調査」

Q. 1 日の生活行動時間を記入 (3 次活動 - テレビ・ラジオ・新聞・雑誌項目から抜粋)

※ ラジオ・新聞・雑誌に用いる時間も含まれているためテレビ視聴時間だけは抜粋できなかった

【表 3-15 過去の調査のテレビ視聴時間一覧】

調査年	調査データ	全体	男性	女性
2017	愛媛県民生活実態調査	185.2 分	187.4 分	183.1 分
	長崎県民生活実態調査	184.2 分	167.3 分	201.2 分
2015	NHK 生活時間調査	220.0 分	217.0 分	223.0 分
2016	社会生活基本調査報告 (※)	135.0 分	139.0 分	131.0 分

【特徴】

- ・本調査の平均テレビ視聴時間は、約3時間である。どの年代、どの職業でも比較的テレビ視聴は行われていた。(表3-5も参照)
- ・NHK生活時間調査では、本調査よりも40分ほどテレビ視聴時間は長かった。
- ・本調査の愛媛県は、男性も女性もそれほどテレビ視聴時間は変わらないが、長崎県は、女性の方がテレビ視聴時間は長くなっている。

④ まとめ

【改善点】

- ・生活時間という部分に着目して分析するのであれば、もう少し質問を増やす必要もあるのではないかと感じる。具体的には、NHK生活時間調査と社会生活基本調査で1日の時間を書き込む質問の欄にあった(家事/子育て)の2項目や、NHK生活時間調査での1日の時間を書き込む欄にある(起床時間/就寝時間)の項目などを追加してみると良いのではないかと考える。これらの質問を増やす事により、より詳細な時間の捉え方と、リアルな生活視点から捉えた生活時間調査が行えると感じる
 - ・帰宅時間でも教師は遅い、つまりよく働いていることは明らかになったが、帰宅時間だけでは職業実態を把握する上では難しい部分もあると考える。
- なぜなら、深夜に出勤し、朝に帰宅する人や、朝に出勤し、夜に帰宅する人もいる。そうした人たちの帰宅時間1つで見るのは難しいのではないかと。

3-3 最後に

この章では、働き方に関する実態把握という事で、職業の分類、夫婦の就業組み合わせ、家計の構造からみる愛媛県民・長崎県民の働き方、生活時間、そしてそれらを過去の調査と比較しながら、今後職業・生活実態を把握するための参考資料となるように進めてきた。

教師が最も勤務時間が長いことや、公務員の収入が多い、パート(範囲外)とパート(範囲内)に違いがみられることなど愛媛県民・長崎県民の実態を把握することが出来た。

本調査の職業の分類は、愛媛県・長崎県という地方部で使える調査、また日本で使用できる調査として網羅出来ていたのではないかと考える。ただ、第1項でも記したように、調査対象者が外国人である場合、また日本と海外で同一の調査がしたい場合が増えてくると考える。そうしたときに、本調査のような分け方では、網羅的に職業の実態を把握することが難しくなってくる。川崎市の外国人市民意識調査などを参考にし、網羅的に職業の実態を把握できるような設問を作成する必要があるのではないだろうか。

また、今回の調査では、生活時間に関する質問が少なかったことは反省すべきだろう。唯一問うていたテレビの視聴時間は、職業や時間的ゆとり(第6章参照)の項目などで掛け合わせることができ、それぞれ有意な差も出た。「県民生活実態調査」と名乗っている以上、生活時間に関する質問がより必要だったのではないかと考える。

第4章 世帯収入・家計構造を問う質問文の妥当性と可能性

本章では、愛媛・長崎県民生活実態調査における Q34 世帯収入と Q33 家計構造を問う質問文の妥当性とその可能性について言及する。世帯収入と家計構造を問う質問文は相互に関連している。理由は、この 2 つの質問文から一世帯当たりの年金収入を導くことができるからだ。

まず、本調査における家計構造を問う質問文の意義や作成の経緯を簡単にまとめるとともに、世帯収入と家計構造を問う質問文の問題点とメリットを述べる(4-1)。次に、年金生活者の実態を整理していく(4-2)。最後に、まとめをおこなう(4-3)。

4-1 愛媛・長崎県民生活実態調査における世帯収入・家計構造を問う質問文の妥当性

① 家計構造を問う質問文の意義と作成の経緯

本調査において、調査票に家計構造を問う質問文を導入したことは大谷ゼミとして新たな試みであり、実験的なものだった。この質問文は、大谷ゼミで一から新しく作成したものである。

家計構造を問う質問は世帯の家計全体を 10 割として、収入別に割合を整数で記入するものである。大谷ゼミ 18 期生のゼミ活動での議論から、限界値が 100 では回答が難しいだろうということから限界値を 10 にすることになった。大谷ゼミ 19 期生がそれを継承して、家計構造を問う質問文の作成に向けた議論を深め、ゼミオリジナルの質問文として完成させたのである。

家計構造について問う Q33 は以下のとおりである。

- 33 現在のあなたの世帯の家計（収入）はどのように構成されていますか。家計全体を 10 とし、それぞれの割合を整数でお答えください。すべて足し合わせて 10 になるようにご記入ください。
(例) あなたの勤労所得 6 割、配偶者の年金所得 2 割、子どもからの援助 2 割の場合

	(例)	あなたの世帯
1. あなたの勤労所得	6	()
2. 配偶者の勤労所得	0	()
3. その他家族の勤労所得	0	()
4. あなたの年金所得	0	()
5. 配偶者の年金所得	2	()
6. あなた及び配偶者の両親からの援助	0	()
7. 子どもからの援助	2	()
8. 財産所得（不動産収入や投資など）、保険など	0	()
9. 行政からの支援（生活保護など）	0	()
10. その他	0	()

11. 答えたくない

世帯収入について問う Q34 は以下のとおりである。

- 34 あなたの世帯の昨年 1 年間の収入（ボーナス・税込み）は、どれくらいですか。

- | | | |
|-----------------|-------------------|----------------------|
| 1. 収入はなかった | 5. 200 万円～ 399 万円 | 9. 1000 万円～ 1199 万円 |
| 2. 100 万円未満 | 6. 400 万円～ 599 万円 | 10. 1200 万円～ 1399 万円 |
| 3. 100 ～ 129 万円 | 7. 600 万円～ 799 万円 | 11. 1400 万円～ 1599 万円 |
| 4. 130 ～ 199 万円 | 8. 800 万円～ 999 万円 | 12. 1600 万円以上 |
| | | 13. 答えたくない |

② 世帯収入・家計構造を問う質問文の問題点

家計構造を問う質問文の問題点として2つ考えられる。1つ目は、家計構造を問う質問のNAの数が多かったことだ。具体的には、NAの数が愛媛で241、長崎で268、「答えたくない」の数は愛媛で120、長崎で123だった。家計構造を問う質問のNA数は、世帯収入を問うプライベートな質問のNA数よりも多い結果となった。回答者にとってわかりにくい質問文であったことが予想される。世帯収入を問う質問はプライベートな質問のため、回答者に答えてもらえないという懸念が調査前からあったが、NAの数が愛媛で55、長崎で69、「答えたくない」の数は、愛媛で231、長崎で231と意外にNA数が少ない結果となった。2つ目は、家計構造を問う質問の選択肢が網羅的でなかったことだ。標準的な夫婦家族世帯だけを想定していたため、「親の勤労所得」や「親の年金」といった項目が入っていなかった。

③ 世帯収入・家計構造を問う質問文のメリットと可能性

世帯収入と家計構造を問う質問文のメリットとして3つ考えられる。1つ目は、共働き夫婦世帯の家計の構造を分析できることだ。本章では扱っていないが、夫と妻がどのような割合で収入を得ているかを分析によって把握できる。2つ目は、年金所得や財産所得、生活保護など、複数の項目を設けたため、収入が勤労所得の1か所ではなく、多様であることがわかる。3つ目は、本調査を実施するまでは年金生活者は65歳以上が受給しているなど、年齢で区切っていたが、本調査の世帯収入と家計構造を問う質問文によって年金生活者の実態が、より明確にわかる。4・2では、とくに年金生活者の実態に着目していく。

4・2 世帯収入・家計構造からわかる年金生活者の実態

① 年金受給開始年齢

表4・1は、愛媛と長崎の年金受給開始年齢を把握するために作成した表である。

【表4・1 年金受給開始年齢(県別：男女別：年齢別：年金受給有無)】(愛媛 $p < 0.000$ 、長崎 $p < 0.000$)

愛媛(NA=64) 男性	年金を受け取っていない	年金を受け取っている			計
		年金収入1～4割	年金収入5～9割	年金収入のみ	
18～59歳	99.1	0.5	0.5	0.0	100.0(212)
60歳	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0(6)
61歳	75.0	25.0	0.0	0.0	100.0(8)
62歳	64.3	35.7	0.0	0.0	100.0(14)
63歳	71.4	0.0	28.6	0.0	100.0(7)
64歳	66.7	8.3	25.0	0.0	100.0(12)
65歳	26.7	46.7	26.7	0.0	100.0(15)
66歳	7.1	35.7	50.0	7.1	100.0(14)
67歳	11.1	33.3	55.6	0.0	100.0(9)
68歳	10.0	60.0	10.0	20.0	100.0(10)
69歳	15.8	31.6	42.1	10.5	100.0(19)
70歳	5.0	25.0	60.0	10.0	100.0(20)
71歳以上	3.5	24.6	66.7	5.3	100.0(57)
計	63.8	13.6	20.1	2.5	100.0(403)
女性					
18～59歳	98.2	1.4	0.4	0.0	100.0(280)
60歳	60.0	40.0	0.0	0.0	100.0(10)
61歳	60.0	40.0	0.0	0.0	100.0(10)
62歳	80.0	20.0	0.0	0.0	100.0(10)
63歳	92.3	7.7	0.0	0.0	100.0(13)
64歳	22.2	77.8	0.0	0.0	100.0(9)
65歳	21.4	64.3	14.3	0.0	100.0(14)
66歳	40.0	40.0	10.0	10.0	100.0(10)

67 歳	23.5	58.8	17.6	0.0	100.0(17)
68 歳	25.0	62.5	12.5	0.0	100.0(16)
69 歳	18.8	56.3	6.3	18.8	100.0(16)
70 歳	0.0	85.7	14.3	0.0	100.0(14)
71 歳以上	8.5	61.0	20.7	9.8	100.0(82)
計	66.7	25.1	5.8	2.4	100.0(501)
長崎(NA=63)	年金を受け取っていない	年金を受け取っている			計
男性		年金収入 1～4 割	年金収入 5～9 割	年金収入のみ	
18～59 歳	97.3	1.8	0.9	0.0	100.0(220)
60 歳	91.7	8.3	0.0	0.0	100.0(12)
61 歳	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0(4)
62 歳	64.3	28.6	7.1	0.0	100.0(14)
63 歳	50.0	37.5	0.0	12.5	100.0(8)
64 歳	53.8	30.8	7.7	7.7	100.0(13)
65 歳	18.8	31.3	18.8	31.3	100.0(16)
66 歳	50.0	21.4	14.3	14.3	100.0(14)
67 歳	7.7	46.2	38.5	7.7	100.0(13)
68 歳	0.0	35.7	64.3	0.0	100.0(14)
69 歳	15.4	53.8	15.4	15.4	100.0(13)
70 歳	13.3	20.0	60.0	6.7	100.0(15)
71 歳以上	14.3	26.8	48.2	10.7	100.0(56)
計	66.0	14.6	14.8	4.6	100.0(412)
女性					
18～59 歳	98.6	0.3	0.0	1.0	100.0(294)
60 歳	90.0	10.0	0.0	0.0	100.0(10)
61 歳	69.2	23.1	0.0	7.7	100.0(13)
62 歳	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0(9)
63 歳	55.6	44.4	0.0	0.0	100.0(9)
64 歳	75.0	25.0	0.0	0.0	100.0(12)
65 歳	23.1	61.5	15.4	0.0	100.0(13)
66 歳	16.7	66.7	8.3	8.3	100.0(12)
67 歳	0.0	71.4	14.3	14.3	100.0(7)
68 歳	36.4	45.5	18.2	0.0	100.0(11)
69 歳	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0(8)
70 歳	7.1	50.0	42.9	0.0	100.0(14)
71 歳以上	12.1	56.1	18.2	13.6	100.0(66)
計	72.4	19.5	5.0	3.1	100.0(478)

表 4-1 より、両県の男女とも 65 歳で約 8 割が年金を受給していることがわかる。また、長崎では男女とも 60 歳で約 1 割が年金を受給している。60 歳未満で年金を受給している回答者は、遺族年金を受給していると考えられる。

年金生活者を年齢で区切って 65 歳以上としているが、分析結果より一概に年齢だけで区切れるものではないことがわかる。

② 年金受給世帯数

表 4-2 は、愛媛と長崎の 60 歳以上の年金受給世帯数を把握するために作成した表である。

【表 4-2 年金受給世帯(県別：年齢別：年金受給有無)】(NA=0)($p < 0.000$)

愛媛	年金を受け取っていない世帯	年金を受け取っている世帯			計
		年金収入 1～4 割	年金収入 5～9 割	年金収入のみ	
60～64 歳	49.5(49)	30.3(30)	13.1(13)	7.1(7)	100.0(99)
65～69 歳	12.1(17)	24.1(34)	30.5(43)	33.3(47)	100.0(141)
70 歳以上	4.5(8)	14.1(25)	35.0(62)	46.3(82)	100.0(177)
計	17.7(74)	21.3(89)	28.3(118)	32.6(136)	100.0(417)
長崎					
60～64 歳	51.9(54)	28.8(30)	11.5(12)	7.7(8)	100.0(104)
65～69 歳	13.9(17)	29.5(36)	23.0(28)	33.6(41)	100.0(122)
70 歳以上	9.2(14)	17.1(26)	29.6(45)	44.1(67)	100.0(152)
計	22.5(85)	24.3(92)	22.5(85)	30.7(116)	100.0(378)

表 4-2 より、年金受給世帯は、愛媛 343 世帯、長崎 293 世帯である。年金受給世帯のうち、年金収入のみの世帯は愛媛 136 世帯、長崎 116 世帯である。60 歳以上で年金を受け取っていない世帯は、愛媛 74 世帯、長崎 85 世帯である。

③ 世帯収入

表 4-3 は、愛媛と長崎の年金受給世帯と年金を受け取っていない世帯の世帯収入を把握するために作成した表である。

【表 4-3 世帯収入(県別：年齢別：年金受給有無：世帯年収)】(愛媛 $p < 0.000$ 、長崎 $p < 0.000$)

愛媛(NA=11)	収入なし	200 万円未満	200～399 万円	400～599 万円	600～799 万円	800～999 万円	1000 万円以上	答えたくない	計
60～64 歳									
年金を受け取っていない世帯	2.0	16.3	24.5	18.4	6.1	8.2	10.2	14.3	100.0(49)
年金を受け取っている世帯									
年金収入 1～4 割	3.3	20.0	26.7	23.3	10.0	10.0	0.0	6.7	100.0(30)
年金収入 5～9 割	7.7	0.0	61.5	15.4	0.0	7.7	0.0	7.7	100.0(13)
年金収入のみ	14.3	14.3	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	100.0(7)
計	4.0	15.2	31.3	18.2	6.1	8.1	5.1	12.1	100.0(99)
65～69 歳									
年金を受け取っていない世帯	0.0	11.8	23.5	5.9	11.8	0.0	5.9	41.2	100.0(17)
年金を受け取っている世帯									
年金収入 1～4 割	0.0	8.8	26.5	23.5	17.6	2.9	0.0	20.6	100.0(34)
年金収入 5～9 割	7.5	17.5	35.0	20.0	5.0	2.5	2.5	10.0	100.0(40)
年金収入のみ	8.5	23.4	53.2	2.1	2.1	0.0	0.0	10.6	100.0(47)
計	5.1	16.7	37.7	13.0	8.0	1.4	1.4	16.7	100.0(138)
70 歳以上									
年金を受け取っていない世帯	0.0	0.0	12.5	37.5	0.0	12.5	25.0	12.5	100.0(8)
年金を受け取っている世帯									
年金収入 1～4 割	0.0	12.5	41.7	25.0	8.3	4.2	4.2	4.2	100.0(24)
年金収入 5～9 割	6.7	23.3	31.7	21.7	6.7	1.7	0.0	8.3	100.0(60)
年金収入のみ	11.7	31.2	39.0	7.8	0.0	0.0	1.3	9.1	100.0(77)
計	7.7	24.3	35.5	16.6	3.6	1.8	2.4	8.3	100.0(169)
長崎(NA=12)									
60～64 歳									
年金を受け取っていない世帯	1.9	11.1	37.0	20.4	5.6	3.7	7.4	13.0	100.0(54)
年金を受け取っている世帯									
年金収入 1～4 割	3.4	20.7	31.0	20.7	10.3	3.4	0.0	10.3	100.0(29)
年金収入 5～9 割	0.0	25.0	33.3	0.0	8.3	0.0	0.0	33.3	100.0(12)
年金収入のみ	0.0	37.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	100.0(8)
計	1.9	17.5	35.0	16.5	6.8	2.9	3.9	15.5	100.0(103)
65～69 歳									
年金を受け取っていない世帯	0.0	5.9	23.5	23.5	11.8	11.8	23.5	0.0	100.0(17)
年金を受け取っている世帯									
年金収入 1～4 割	3.0	18.2	39.4	18.2	6.1	6.1	0.0	9.1	100.0(33)
年金収入 5～9 割	0.0	11.5	50.0	23.1	3.8	0.0	0.0	11.5	100.0(26)
年金収入のみ	4.9	19.5	58.5	4.9	0.0	0.0	0.0	12.2	100.0(41)

計	2.6	15.4	46.2	15.4	4.3	3.4	3.4	9.4	100.0(117)
70 歳以上	0.0	35.7	21.4	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	100.0(14)
年金を受け取っていない世帯									
年金を受け取っている世帯	年金収入 1～4 割	0.0	24.0	32.0	20.0	0.0	4.0	16.0	100.0(25)
年金を受け取っている世帯	年金収入 5～9 割	9.1	27.3	31.8	15.9	6.8	0.0	9.1	100.0(44)
年金を受け取っている世帯	年金収入のみ	11.1	19.0	49.2	6.3	0.0	0.0	12.7	100.0(63)
計		7.5	24.0	38.4	11.0	3.4	0.7	13.7	100.0(146)

表 4-3 より、「年金を受け取っている世帯／受け取っていない世帯」というだけでなく、「年金収入のほうが他の収入より多い世帯／少ない世帯」、「年金収入のみの世帯」が存在し、所得の違いに影響していることがわかる。しかし、両県において年金受給の有無と世帯収入に法則性はなかった。

④ 年金収入

本調査の世帯収入と家計構造を問う質問文から一世帯当たりの年金収入を導く。

まず、世帯収入について問う Q34 の選択肢を、「他の変数への値の再割り当て」機能を使って、世帯収入の値を再割り当てする。以下のとおりである。

1. 収入はなかった→0
2. 100 万円未満→50
3. 100 万円～129 万円→110
4. 130 万円～199 万円→160
5. 200 万円～399 万円→300
6. 400 万円～599 万円→500
7. 600 万円～799 万円→700
8. 800 万円～999 万円→900
9. 1000 万円～1199 万円→1100
10. 1200 万円～1399 万円→1300
11. 1400 万円～1599 万円→1500
12. 1600 万円以上→1600
13. 答えたくない→13

第二に、「変数の計算」機能を使う。

「世帯収入（値の再割り当てによって新しく作られた変数）」×「一世帯当たりの年金所得の割合」×0.1 の計算式から、一世帯当たりの年金収入を導くことができる。たとえば、世帯収入が 200 万円～399 万円に該当し、一世帯当たりの年金所得の割合が 8 割の世帯は、「300×8 割×0.1」となり、一世帯当たりの年金収入は 240 万円となる。

表 4-4 は、愛媛と長崎の年金受給世帯の年金収入を把握するために作成した表である。

【表 4-4 年金収入(県別：年齢別：年金受給の有無：年金収入)】(愛媛 p<0.000、長崎 p<0.000)

愛媛(NA=11)	収入なし	100 万円未満	100～199 万円	200～299 万円	300～399 万円	400 万円以上	計
60～64 歳							
年金を受け取っていない世帯	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0(49)
年金を受け取っている世帯	年金収入 1～4 割	3.3	60.0	30.0	6.7	0.0	100.0(30)
	年金収入 5～9 割	7.7	7.7	7.7	61.5	7.7	100.0(13)
	年金収入のみ	14.3	28.6	14.3	0.0	42.9	100.0(7)
計	52.5	21.2	11.1	10.1	4.0	1.0	100.0(99)
65～69 歳	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0(17)
年金を受け取っていない世帯							
年金を受け取っている世帯	年金収入 1～4 割	0.0	50.0	23.5	26.5	0.0	100.0(34)
	年金収入 5～9 割	7.5	25.0	12.5	30.0	10.0	100.0(40)
	年金収入のみ	8.5	14.9	19.1	0.0	53.2	100.0(47)
計	17.4	24.6	15.9	15.2	21.0	5.8	100.0(138)
70 歳以上	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0(8)
年金を受け取っていない世帯							
年金を受け取っている世帯	年金収入 1～4 割	0.0	37.5	54.2	4.2	4.2	100.0(24)
	年金収入 5～9 割	6.7	21.7	15.0	26.7	11.7	100.0(60)
	年金収入のみ	11.7	15.6	24.7	0.0	39.0	100.0(77)
計	12.4	20.1	24.3	10.1	21.9	11.2	100.0(169)
長崎(NA=12)	収入なし	100 万円未満	100～199 万円	200～299 万円	300～399 万円	400 万円以上	計
60～64 歳							
年金を受け取っていない世帯	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0(54)
年金を受け取っている世帯	年金収入 1～4 割	3.4	58.6	34.5	3.4	0.0	100.0(29)
	年金収入 5～9 割	0.0	58.3	0.0	33.3	8.3	100.0(12)
	年金収入のみ	0.0	25.0	37.5	0.0	37.5	100.0(8)

計		53.4	25.2	12.6	4.9	3.9	0.0	100.0(103)
65～69 歳		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0(17)
年金を受け取っていない世帯								
年金を受け取っている世帯	年金収入 1～4 割	3.0	51.5	33.3	9.1	3.0	0.0	100.0(33)
	年金収入 5～9 割	0.0	23.1	15.4	50.0	7.7	3.8	100.0(26)
	年金収入のみ	4.9	14.6	17.1	0.0	58.5	4.9	100.0(41)
計		17.1	24.8	18.8	13.7	23.1	2.6	100.0(117)
70 歳以上		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0(14)
年金を受け取っていない世帯								
年金を受け取っている世帯	年金収入 1～4 割	0.0	56.0	28.0	12.0	4.0	0.0	100.0(25)
	年金収入 5～9 割	9.1	27.3	15.9	31.8	4.5	11.4	100.0(44)
	年金収入のみ	11.1	19.0	12.7	0.0	49.2	7.9	100.0(63)
計		17.1	26.0	15.1	11.6	23.3	6.8	100.0(146)

表 4-4 より、60～64 歳では、両県とも年金収入 1～4 割の世帯の年金収入は 200 万円未満が多い。年金収入 5～9 割の世帯は、300 万円未満が多い。年金収入のみの世帯は 300～399 万円が多い。65～69 歳では、両県とも年金収入 1～9 割の世帯は 300 万円未満が多い。年金収入のみの世帯は 300～399 万円が多い。70 歳以上では、両県とも年金収入のみの世帯は 300～399 万円が多い。

両県において、年金受給世帯の年金収入は約 300 万円前後であることがわかる。

4-3 まとめ

本調査における世帯収入と家計構造を問う質問文の問題点は、2 つあった。1 つ目は、家計構造を問う質問の NA の数が多かったことだ。2 つ目は、家計構造を問う質問の選択肢が網羅的でなかったことだ。世帯収入と家計構造を問う質問文のメリットの 1 つとしては、年金生活者の実態が測定できたことだ。

年金生活者を年齢で区切って 65 歳以上としているが、分析結果より一概に年齢だけで区切れるものではないことがわかった。そして、年金生活者と一口に言っても所得の多い、少ない等、様々なパターンがあり、年金生活者の暮らしは一律でないことがわかった。

第5章 「県民生活実態調査」における家族の実態

本章では、調査で明らかになった「家族」に関する実態とその過程で用いた独自の分析手法についてまとめる。この調査では配偶者、夫婦、出身地、職業、学歴、単身者、きょうだい、子ども、同居家族と家族に関する質問文を多く取り入れ、家族について幅広く問うている。その中でも今回は同居家族、単身者、子ども、買い物、夫婦、きょうだいについて具体的に述べる。特にきょうだいに関しては過去に質問文を用いてここまで詳しく聞いた例がなく、データもあまり存在しないためここでは詳細にまとめている。さらに、わたしたちは単に調査結果で得た値を整理するのではなく、独自で考え出した分析手法を用いてより詳細な分析をおこなった。その分析手法についても詳しく述べている。

今回はこの5つに絞ってまとめたが、近居等まだ分析をおこなっていない箇所もあり、分析次第では新たな発見も見込める。職業、学歴等に関する実態は別の章で取り扱っており、詳細についてはDVDを参照されたい。

5-1 同居家族の実態

同居家族に関する質問文

⑩ 現在、この住居に一緒にお住まいになっているのはあなたを含めて何人ですか。
() 人

⑪ 現在、この住居に一緒にお住まいになっている方はどなたですか。【すべてに○】

- | | |
|------------------|----------------------|
| 0. あなた | 5. 孫 |
| 1. 配偶者 | 6. あなた（または配偶者）のきょうだい |
| 2. 子ども | 7. あなた（または配偶者）の祖父・祖母 |
| 3. 子どもの配偶者 | 8. その他の親族 |
| 4. あなた（または配偶者）の親 | 9. その他 |

同居家族に関する質問文は、「問 16.一緒に暮らしている人数」と「問 17.一緒に住んでいる人」がある。これらの質問文から同居家族について分析をおこなった。その結果、「誰と一緒に住んでいるのか」また「何人で暮らしているのか」を網羅的に把握することができた。

問.17 に関しては該当する答えすべてに丸を付ける多重回答の質問文になっており、回答結果を整理するためには工夫が必要になった。そこでわたしたちは新たな変数を作り、コード化するというやり方を実施した。その分析方法に関しては以下の通りである。

分析方法に関しては、新たな変数Xを作り、その値から世帯構成を把握するというものである。
まず問 17 の回答番号 0 から 9 に対して以下の通り、それぞれ値を割り当てる。

0. あなた	1	5.孫	100000
1. 配偶者	10	6.きょうだい	1000000
2. 子ども	100	7.祖父・祖母	100000000
3. 子どもの配偶者	1000	8.その他の親族	10000000000
4. 親	10000	9.その他	100000000000

そして、該当する同居者の割り当てられた値を足し合わせた数字がXとなる。

例①0. あなた、2. 子ども に丸がついている場合、

$X=1(\text{あなた})+100(\text{子ども})=101$ となる。

例②0. あなた 1. 配偶者 3. 子どもの配偶者 に丸がついている場合、

$X=1(\text{あなた})+10(\text{配偶者})+1000(\text{子どもの配偶者})=1011$ となる。

以下の表 5-1 は一世代、二世代と世代数別に世帯構成をまとめた表であり、表 5-2 は 1 人、2 人と構成人数別に世帯構成をまとめた表である。

【表 5-1 世代数別：世帯構成】

世代数			世帯構成	愛媛(NA=13)		長崎(NA=30)	
	愛媛 (NA=13)	長崎 (NA=30)		a	b	a	b
単身	12.6(151)	11.1(135)	単身	12.6(151)	(100.0)	11.1(135)	(100.0)
一世代	28.9 (346)	28.7 (343)	夫婦のみ	28.2(338)	(97.7)	27.8(333)	(97.1)
			本人・きょうだい	0.5(6)	(1.7)	0.7(8)	(2.3)
			夫婦・きょうだい	0.2(2)	(0.6)	0.2(2)	(0.6)
二世世代	46.2 (552)	44.9 (537)	本人・子ども（親世代と子世代）	3.6(43)	(7.9)	4.5(54)	(10.1)
			夫婦と子ども（親世代と子世代）	25.8(308)	(55.8)	25.3(302)	(56.2)
			本人・親（親世代と子世代）	6.9(84)	(15.2)	6.8(81)	(15.1)
			夫婦・子ども・きょうだい（親世代と子世代）	0.2(2)	(0.4)	0.3(4)	(0.7)
			本人・親・きょうだい（親世代と子世代）	3.5(42)	(7.6)	2.6(32)	(6.0)
			本人・子ども・子どもの配偶者（親世代と子世代）	0.2(2)	(0.4)	0.2(2)	(0.4)
			夫婦・子ども・子どもの配偶者（親世代と子世代）	0.8(9)	(1.6)	0.4(5)	(0.9)
			夫婦と親世代（親世代と子世代）	3.9(48)	(8.7)	3.6(43)	(8.0)
			夫婦・親・きょうだい（親世代と子世代）	0.2(2)	(0.4)	0.1(1)	(0.2)
			夫婦・子ども・その他の親族（親世代と子世代）	0.1(1)	(0.2)	0.0(0)	(0.0)
			本人・親・その他の親族（親世代と子世代）	0.2(2)	(0.4)	0.2(2)	(0.4)
			本人・親・きょうだい・その他の親族（親世代と子世代）	0.0(0)	(0.0)	0.3(4)	(0.7)
			本人・子ども・その他（親世代と子世代）	0.2(2)	(0.4)	0.0(0)	(0.0)
			本人・親・きょうだい・その他（親世代と子世代）	0.0(0)	(0.0)	0.1(1)	(0.2)
			本人・親・きょうだい・その他の親族・その他（親世代と子世代）	0.0(0)	(0.0)	0.1(1)	(0.2)
			本人・祖父母（一世代とんだ二世世代）	0.1(1)	(0.2)	0.2(2)	(0.4)
			本人・きょうだい・祖父母（一世代とんだ二世世代）	0.1(1)	(0.2)	0.0(0)	(0.0)
			本人・孫（一世代とんだ二世世代）	0.1(1)	(0.2)	0.1(1)	(0.2)
			夫婦・孫（一世代とんだ二世世代）	0.3(4)	(0.2)	0.2(2)	(0.4)
三世世代	11.1 (133)	12.6 (151)	本人・子ども・親（三世世代）	0.6(7)	(5.3)	1.1(13)	(8.6)
			夫婦・子ども・親（三世世代）	5.1(63)	(47.4)	4.5(56)	(37.1)
			夫婦・子ども・子どもの配偶者・親（三世世代）	0.0(0)	(0.0)	0.1(1)	(0.7)
			本人・子ども・孫（三世世代）	0.5(6)	(4.5)	0.3(3)	(2.0)
			夫婦・子ども・孫（三世世代）	1.3(15)	(11.3)	1.7(21)	(13.9)
			本人・子ども・子どもの配偶者・孫（三世世代）	0.3(3)	(2.3)	0.5(6)	(3.9)
			夫婦・子ども・子どもの配偶者・孫（三世世代）	1.6(19)	(14.3)	2.3(28)	(18.5)
			本人・子ども・親・きょうだい（三世世代）	0.2(2)	(1.5)	0.3(3)	(2.0)
			夫婦・子ども・親・きょうだい（三世世代）	0.3(4)	(3.0)	0.2(2)	(1.3)
			本人・親・祖父母（三世世代）	0.7(8)	(6.0)	0.5(6)	(4.0)
			夫婦・親・祖父母（三世世代）	0.0(0)	(0.0)	0.2(2)	(1.3)
			本人・親・きょうだい・祖父母（三世世代）	0.5(6)	(4.5)	0.5(6)	(4.0)
			夫婦・子ども・子どもの配偶者・孫・その他の親族（三世世代）	0.0(0)	(0.0)	0.1(1)	(0.7)
			本人・親・祖父母・その他の親族（三世世代）	0.0(0)	(0.0)	0.1(1)	(0.7)
			夫婦・親・孫（一世代とんだ三世世代）	0.0(0)	(0.0)	0.1(1)	(0.7)
			夫婦・子ども・きょうだい・祖父母（一世代とんだ三世世代）	0.0(0)	(0.0)	0.1(1)	(0.7)
四世代	0.9 (11)	0.7 (8)	夫婦・子ども・親・孫（四世代）	0.3(4)	(36.4)	0.2(2)	(25.0)
			本人・子ども・子どもの配偶者・親・孫（四世代）	0.0(0)	(0.0)	0.1(1)	(12.5)
			夫婦・子ども・子どもの配偶者・親・孫（四世代）	0.3(4)	(36.4)	0.4(5)	(62.5)
			夫婦・子ども・子どもの配偶者・親・孫・きょうだい（四世代）	0.1(1)	(9.1)	0.0(0)	(0.0)
			本人・子ども・親・祖父母（四世代）	0.1(1)	(9.1)	0.0(0)	(0.0)
不明	0.3 (4)	1.8 (22)	夫婦・子ども・親・祖父母（四世代）	0.1(1)	(9.1)	0.0(0)	(0.0)
			本人・その他の親族	0.2(2)	(50.0)	0.4(5)	(22.7)
			夫婦・その他の親族	0.0(0)	(0.0)	0.1(1)	(4.5)
			本人・その他	0.2(2)	(50.0)	1.2(15)	(68.2)
計	100(1197)	100(1196)		100(1197)		100(1196)	

(注 1) a 全体の割合を 100 とした時、それぞれの世帯構成が占める値。 b 世代数ごとに割合を 100 とした時、それぞれの世帯構成が占める値。

【表 5-2 構成人数別：世帯構成】

愛媛県		(NA=13)					
構成人数	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人以上	合計	平均
	12.6(151)	34.7(415)	24.9(297)	15.6(187)	12.2(147)		
世帯構成	単身 100.0 (151)	夫婦のみ 79.5 (330) 親か子 14.7(61) きょうだい 1.4(6) その他 3.6(15) (NA3)	夫婦と子ども 73.7(219) 夫婦と親 11.1(33) 親か子 8.1(24) 三世代 3.4(10) その他 3.7(11)	夫婦と子ども 64.7(121) 三世代 20.3(38) その他 7.0(13) 親子 3.7(7) その他 3.7(7) (NA1)	三世代 51.0(75) 夫婦と子ども 29.3(43) 四世代 18.4(27) (NA2)	100.0 (1197)	2.87 人

長崎県		(NA=30)					
構成人数	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人以上	合計	平均
	11.3(135)	35.3(422)	23.7(283)	15.1(181)	14.7(175)		
世帯構成	単身 100.0 (135)	夫婦のみ 75.6 (319) 親か子 15.9(67) きょうだい 1.4(6) その他 6.6(28) (NA2)	夫婦と子ども 72.4(205) 夫婦と親 9.9(28) 親か子 7.7(22) 三世代 2.5(7) その他 6.7(19) (NA2)	夫婦と子ども 62.4(113) 三世代 21.6(39) その他 14.9(27) 親子 1.1(2)	三世代 52.6 (92) 夫婦と子ども 24.6 (43) その他 22.2 (39) (NA1)	100.0 (1196)	2.98 人

【表 5-3 西宮アパート・マンション調査】

		(NA=31)					
構成人数	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人以上	合計	平均
	12.8(108)	36.9(311)	21.6(182)	23.4(197)	5.3(45)		
世帯構成	単身 100.0 (108)	夫婦のみ 86.0 (265) 親か子 12.7(39) きょうだい 0.3(1) その他 1.0(3) (NA3)	夫婦と子ども 85.7(156) 夫婦と親 2.2(4) 三世代 2.2(4) 親か子 7.1(3) その他 2.7(5)	夫婦と子ども 93.9(185) 三世代 4.1(8) 親子 2.0(4)	夫婦と子ども 80.0(36) 三世代 17.8(8) その他 2.2(1) (NA1)	100.0 (843)	2.72 人

表 5-2、5-3 は構成人数別の世帯構成を整理したものである。構成人数の分布を見ると 2 人が最も多く、愛媛県 34.7%、長崎県 35.3% となり、次いで 3 人、4 人、1 人(単身)となっている。表 5-3 は、以前、大谷研究室で実施した 2008 年『西宮アパート・マンション調査』の結果である。今回の調査と西宮の結果を比較すると西宮では 5 人以上の割合が 5.3%であったことに対して、今回の調査では愛媛県 12.2%、長崎県 14.7%とかなり高いと言える。これは今回の調査が比較的、地方で行われた調査であることが付随しているのではないだろうか。

5-2 単身者の実態

問.16 で 1 人と回答した人を単身者とする。今回、単身者の実態を把握するにあたって「問.2 配偶関係」に基づいて分析をおこなった。その結果、「単身者」とは、学生、社宅住まい、介護等による別居などであった。表 5-4 は、今回の調査において配偶関係別（既婚、離別、死別、未婚）に、単身者の特徴をまとめたものである。表 5-5、5-6 は以前、大谷研究室で実施した 2004 年『関西ニュータウン比較調査研究』の結果と 2008 年『西宮アパート・マンション調査』の結果である。

【表 5-4 配偶関係別；単身者の特徴】

未婚(123)	50 代以下 (77)	職業が学生(27) 学生		
		住居種別が給与住宅(3) 社宅住まい		
		両親が他界しており、移住経験なしまたは持ち家居住(8) 実家暮らしで両親が他界		
		現住所と出身地が違う(17) よそ者		
		現住所と出身地が同じ(22)	親居住地まで 60 分以上(7) 親居住地が遠いため単身 親居住地 45 分以内(15) 親居住地が近いにもかかわらず単身	
60 代以上(22) 生涯未婚者				
NA=(24)				
既婚(23)	単身赴任(13) (記述有、社宅、またはどちらかが働いていて、介護の可能性が低いいため単身赴任と判断。)			
	介護等による別居(10)		配偶者が施設入所(5)	
			配偶者の親の介護(1)	
			不明(4)	
離別(67)	男性(35)	60 代は女性の方が多く 70 代は男性の方が多い。		
	女性(29)			
	NA=(3)			
死別(67)	男性(8)	女性が多く、特に 70 代以上の女性が多い。		
	女性(47)			
	NA=(12)			
合計(280)				

【表 5-5 関西ニュータウン比較調査研究】

未婚(48)	50 代以下(30)	住居種別が社宅・寮(1) 社宅住まい	
		入居時は親と住んでいて一人になった(4) 実家暮らし	
		賃貸マンション住みで駅から徒歩圏内(11) 千里や泉北に多い。」 駅近賃貸マンション暮らし	
		購入マンション住みで駅から徒歩圏内(9) 和泉に多い。 駅近購入マンション暮らし	
		不明 (5)	
	60 代以上(15) 生涯未婚者		
NA=3			
既婚(6)	社宅が一人、残りは入居時に独居でないことから、入居後に家族が何らかの理由で出ていったと考えられる。		
離死別(27)	男性(12)	60 代以上の高齢の女性が多い。	
	女性(14)		
	NA=1		
NA=4			
合計(85)			

※関西ニュータウン比較調査研究では、離別・死別を分けて質問していなかった。

【表 5-6 西宮アパート・マンション調査】

30 代以下(12)	賃貸が多い(8)	通勤を重視している。
40 代(10)	ほとんどが分譲(10)	10 年近く住んでいる。通勤を重視している。
50 代(11)	賃貸が多い(8)	10 年以上住んでいる人が多い。
60 代以上(75)	女性が多い。転居要因にその他が多い。	

※西宮マンション調査では、配偶関係を質問していなかった。

5-3 子どもの実態

子どもに関する質問文

⑧ 現在、あなたには、ご存命のお子さんが何人いらっしゃいますか。いらっしゃる場合は、息子さん・娘さんそれぞれの人数もお書きください。養子・継子も含めてください。

1. 子どもはいない ⇒ p.5 ⑨

2. 子どもがいる 全部で () 人
そのうち息子が () 人・娘が () 人

⑧(1) あなたのお子さん全員について、**年齢の大きい順に**、次の質問にお答えください。
お子さんが5人以上いらっしゃる場合は、いちばん末のお子さんのことを「4番目のお子さん」の欄にお書きください。

	1番 年上のお子さん	2番目に 年上のお子さん	3番目に 年上のお子さん	4番目(いちばん末) のお子さん
①性別	1. 男性 2. 女性	1. 男性 2. 女性	1. 男性 2. 女性	1. 男性 2. 女性
②年齢	() 歳	() 歳	() 歳	() 歳
③あなたと 同居か別居か	1. 同居している 2. 別居している	1. 同居している 2. 別居している	1. 同居している 2. 別居している	1. 同居している 2. 別居している
別居の 場合	④お住まいの場所 【 】 都道府県 【 】 市区町村	【 】 都道府県 【 】 市区町村	【 】 都道府県 【 】 市区町村	【 】 都道府県 【 】 市区町村
	⑤「この1年間」で 会った回数 1. 週に1回以上 2. 3ヶ月に1回以上 3. 年1～2回程度 4. 全く会わなかった	1. 週に1回以上 2. 3ヶ月に1回以上 3. 年1～2回程度 4. 全く会わなかった	1. 週に1回以上 2. 3ヶ月に1回以上 3. 年1～2回程度 4. 全く会わなかった	1. 週に1回以上 2. 3ヶ月に1回以上 3. 年1～2回程度 4. 全く会わなかった

⑧(2) 別居しているお子さんがいらっしゃる方にうかがいます。1番近くに住んでいるお子さんの住居からあなたが現在お住まいの住居まで、**車で行くと仮定した場合**、何分かかりますか。ふだん車を使わない方も、タクシーで行ったり車に乗せてもらったりした場合の所要時間をお答えください。

1. 片道 () 時間 () 分
2. 車では行けない距離である・わからない

子どもに関する質問文は「問.8 子どもの有無、並びに人数」、「問.8(1)子どもの特徴」、「問.8(2)1番近くに住んでいる子どもの住居から自宅までの所要時間」の3つである。その中でも今回は問.8、問.8(1)の2つに絞って分析をおこなった。特に第一子に着目し、ライフステージごとに分けて整理をおこなう。以下の表 5-7 は県別の子どもの総数をまとめたものである。

【表 5-7 県別：子ども総数】

	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	計
愛媛(N=25)	24.8	10.5	40.2	20.8	3.0	0.6	0.5	0.5	100.0(1185)
長崎(N=48)	24.0	12.1	35.5	22.2	5.1	0.8	0.2	0.1	100.0(1178)
全体(N=73)	24.4	11.3	37.3	21.5	2.8	0.7	0.1	0.1	100.0(2363)

両県とも子どもの総数2人の割合が最も高い(愛媛県 40.2%・長崎県 35.5%)。次いで0人、3人となる。しかし、表 5-6 は結婚している人に絞って割合を求めた表ではない。そのため、0人と回答した人の中には、結婚している人で子どもが0人と回答した場合と結婚していないため子どもが0人と回答した場合との二通りが存在する。その点を把握していただきたい。

続いて問.8(1)に関しては、まず以下の表 5-8 で第一子のライフステージごとに分類した。そしてこのライフステージをもとに、表 5-8 では、第一子の同居について、表 5-9 では第一子とどのぐらいの頻度で会うのかをまとめたものである。

【表 5-8 県別；第一子年齢】

	ライフステージ										計
	0-6 歳	7-12 歳	13-15 歳	16-18 歳	19-22 歳	23-29 歳	30 代	40 代	50 代	60 以上	
愛媛(NA=0)	6.7	7.6	3.9	2.8	6.1	11.3	23.5	26.4	9.3	2.4	100.0(891)
長崎(NA=0)	7.9	6.2	4.0	2.8	7.0	13.7	25.5	22.9	8.0	1.9	100.0(897)
全体(NA=0)	7.3	6.9	4.0	2.8	6.5	12.5	24.5	24.6	8.7	2.1	100.0(1788)

愛媛では 40 代、長崎では 30 代が最も多く、50 代、60 代以上の割合が少ないことから親世代は 60 代以上が多いと考えられる。また、子育て世代(0-12 歳)や、10 代の割合がかなり低いことから、子どもの数は徐々に減少しており、少子化の傾向がわかる。

【表 5-9 同別居 第一子】

愛媛	男性			女性			全体		
	同居	別居	計	同居	別居	計	同居	別居	計
0-6 歳	96.8	3.2	100.0(31)	100.0	0.0	100.0(29)	98.3	1.7	100.0(60)
7-12 歳	97.3	2.7	100.0(37)	96.8	3.2	100.0(31)	97.0	3.0	100.0(68)
13-15 歳	100.0	0.0	100.0(16)	100.0	0.0	100.0(17)	100.0	0.0	100.0(33)
16-18 歳	69.2	30.8	100.0(13)	81.8	18.2	100.0(11)	75.0	25.0	100.0(24)
19-22 歳	41.2	58.8	100.0(34)	35.0	65.0	100.0(20)	38.9	61.1	100.0(54)
22-29 歳	27.3	72.7	100.0(55)	40.0	60.0	100.0(45)	33.0	67.0	100.0(100)
30 代	21.8	78.2	100.0(110)	19.4	80.6	100.0(98)	20.7	79.3	100.0(208)
40 代	24.6	75.4	100.0(126)	16.0	84.0	100.0(106)	20.7	79.3	100.0(232)
50 代	18.4	81.6	100.0(38)	22.2	77.8	100.0(45)	20.8	79.2	100.0(83)
60 以上	16.7	83.3	100.0(6)	33.3	66.7	100.0(6)	28.3	71.7	100.0(12)

長崎	男性			女性			全体		
	同居	別居	計	同居	別居	計	同居	別居	計
0-6 歳	97.1	2.9	100.0(35)	100.0	0.0	100.0(34)	98.6	1.4	100.0(69)
7-12 歳	96.8	3.2	100.0(31)	100.0	0.0	100.0(25)	98.2	1.8	100.0(56)
13-15 歳	93.3	6.7	100.0(15)	95.0	5.0	100.0(20)	94.2	5.8	100.0(35)
16-18 歳	76.9	23.1	100.0(13)	75.0	25.0	100.0(12)	76.0	24.0	100.0(25)
19-22 歳	45.2	54.8	100.0(31)	37.5	62.5	100.0(32)	39.7	60.3	100.0(63)
22-29 歳	21.7	78.3	100.0(60)	23.8	76.2	100.0(63)	22.8	77.2	100.0(123)
30 代	27.6	72.4	100.0(123)	8.6	91.4	100.0(105)	8.8	91.2	100.0(228)
40 代	23.3	76.7	100.0(116)	10.0	90.0	100.0(90)	17.5	82.5	100.0(206)
50 代	25.6	74.4	100.0(43)	13.3	86.7	100.0(30)	20.6	79.4	100.0(73)
60 以上	0.0	100.0	100.0(6)	0.0	100.0	100.0(2)	100.0	0.0	100.0(8)

別居は 16-29 歳の間に増加する傾向があり、高校の寮生活や大学・就職等の一人暮らしなどが考えられる。特に、両県とも 19-22 歳の間は男性の別居率が女性の別居率より高く、女性よりも男性の方が実家を離れる傾向にある。子育て世代（0-12 歳）における別居については、子どもを祖父母の家や親戚などに預けている、もしくは離婚などが考えられる。そして、両県ともに 30 代、40 代の別居が最も多い。同居については 23 歳以降、男性の同居割合が増加していることから、就職する際、地元に戻った可能性と考えられ、一方、女性の同居割合は減少していることから、結婚等が考えられる。

【表5-10 別居地 会う頻度 第一子】

		割合 (520)	週1以 上	3か月 に1以 上	年1.2 回	全く	計			割合 (553)	週1以 上	3か月 に1以 上	年1.2 回	全く	計		
愛媛 NA =25	北海道	0.4	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0(2)	長崎 NA =23	北海道	0.4	0.0	0.0	50.0	50.0	100.0(2)		
	東北地方	0.2	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0(1)		東北地方	0.6	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0(3)		
	関東 地方	茨城県	0.2	0.0	100.0	0.0	0.0		100.0(1)	関東 地方	茨城県	0.5	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0(3)
		栃木県	0.4	50.0	0.0	50.0	0.0		100.0(2)		栃木県	0.2	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0(3)
		群馬県	—	—	—	—	—		100.0(—)		群馬県	0.2	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0(3)
		埼玉県	1.2	0.0	16.7	66.7	16.7		100.0(6)		埼玉県	0.9	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0(3)
		千葉県	2.5	7.7	0.0	84.6	7.7		100.0(13)		千葉県	2.4	0.0	7.7	84.6	7.7	100.0(13)
		東京都	7.5	0.0	18.9	67.6	13.5		100.0(37)		東京都	8.1	0.0	22.2	64.4	13.3	100.0(45)
		神奈川県	4.0	0.0	14.3	85.7	0.0		100.0(21)		神奈川県	3.6	0.0	21.1	57.9	21.1	100.0(19)
		中部地方	2.9	0.0	6.7	80.0	13.3		100.0(15)		中部地方	4.9	0.0	11.5	57.7	30.8	100.0(26)
	近畿 地方	三重県	—	—	—	—	—		100.0(—)	近畿 地方	三重県	0.2	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0(1)
		滋賀県	0.6	0.0	0.0	100.0	0.0		100.0(3)		滋賀県	0.5	0.0	0.0	33.3	66.7	100.0(3)
		京都府	1.5	12.5	12.5	75.0	0.0		100.0(8)		京都府	0.5	0.0	0.0	66.7	33.3	100.0(3)
		大阪府	7.1	2.7	21.6	67.6	8.1		100.0(37)		大阪府	3.1	0.0	0.0	81.3	18.7	100.0(16)
		兵庫県	3.8	0.0	16.7	77.8	5.6		100.0(18)		兵庫県	2.7	0.0	0.0	76.9	23.1	100.0(13)
		奈良県	0.2	100.0	0.0	0.0	0.0		100.0(1)		奈良県	0.4	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0(2)
		和歌山県	—	—	—	—	—		100.0(—)		和歌山県	0.4	0.0	0.0	50.0	50.0	100.0(2)
	中国地方	6.3	0.0	51.5	39.4	9.1	100.0(33)		中国地方	2.9	0.0	18.8	56.2	25.0	100.0(16)		
	四国 地方	徳島県	1.5	0.0	75.0	25.0	0.0		100.0(8)	四国地方		0.9	0.0		69.2	30.8	
		香川県	1.9	0.0	70.0	10.0	20.0		100.0(10)								100.0(13)
愛媛県		50.6	45.0	44.3	7.4	3.3	100.0(271)										
高知県		0.6	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0(3)										
九州地方		3.6	5.3	10.5	78.9	5.3	100.0(19)	九州 地方	福岡県	15.2	0.0	47.0	43.4	9.6	100.0(83)		
外国									佐賀県	2.2	16.7	33.3	41.7	8.3	100.0(12)		
									長崎県	42.3	41.4	43.0	13.1	2.5	100.0(244)		
									熊本県	1.4	0.0	50.0	50.0	0.0	100.0(8)		
									大分県	0.4	0.0	50.0	50.0	0.0	100.0(2)		
									宮崎県	0.5	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0(3)		
									鹿児島県	1.3	0.0	14.3	57.1	28.6	100.0(7)		
沖縄県	0.4	0.0	50.0	50.0	0.0	100.0(2)											
外国		0.2	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0(1)	外国	0.4	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0(1)			

(注) 県内の詳細 各県内の市町村別割合

愛媛県 松山市26.4 今治市3.9 宇和島市1.5 八幡浜市1.3 新居浜市4.5 西条市3.6 大洲市0.6 伊予市1.1 四国中央市2.8 西予市1.1 東温市1.1 上島市0.2 久方高原市0.4 松前町0.7 磯部町0.4 内子町0.4 愛南町0.6

長崎県 長崎市15.4 佐世保市6.9 島原市0.7 諫早市5.0 大村市3.9 平戸市1.2 対馬市0.5 壱岐市0.4 五島市1.4 西海市0.5 雲仙市1.8 南島原市0.9 長与市0.7 時津町1.6 波佐見町0.7 新五島町0.7

両県ともに、同県内の別居地割合が圧倒的に多く、中でも県庁所在地に集中している。愛媛に関しては東京、大阪の別居地割合が高い(東京都7.5%、大阪府7.1%)。長崎において、大阪の別居地割合が3.1%という結果から愛媛では特に、大阪の別居地割合が高い。一方、長崎に関しては福岡の別居地割合が15.2%とかなり多く、次いで東京が多い(東京都8.1%)。そして別居地が近いほど会う頻度が高くなる傾向にある。愛媛において、第一子が他県に住んでおり、週に1回以上会っているのは栃木県、千葉県、京都府など複数の県で見受けられるが、長崎では週に1回以上会っているのは佐賀県のみである。

5-4 買い物の実態

買い物に関する質問文

21 日ごろ、あなたの世帯ではどなたが食料品（朝食や夕食の食べ物）を購入していますか。

【1 つだけ○】

1. あなたが主として買い物をしている
2. 配偶者が主として買い物をしている
3. あなたと配偶者が分担して買い物をしている
4. 配偶者以外の同居家族が主として買い物をしている
5. 同居以外の家族に頼んで買い物をしている
6. 同居以外の人（近所の人、介護ヘルパー等）に頼んで買い物をしている
7. その他

買い物に関する質問文は「問.21 主にだれが買い物をしているのか」である。この質問文から買い物主体者についてまとめる。以下の表 5-11 は、年代別の買い物主体者についてまとめたものである。ここでは、問.21 の回答と結婚の有無、性別から買い物主体者を未婚の場合、あなたを本人とし、既婚の場合、「妻」や「夫」とした。

【表 5-11 年代別 買い物主体者】

			あなた(未婚) 妻(既婚)	夫	夫婦 で分 担	配偶者 以外同 居家族	同居以外 の家族	同居以外 の人	その他	計
愛媛	20代	未婚	38.9	—	—	58.3	0.0	0.0	2.8	100.0(72)
		既婚	84.2	0.0	10.5	5.3	0.0	0.0	0.0	100.0(19)
	30代	未婚	43.6	—	—	48.7	2.6	0.0	5.1	100.0(39)
		既婚	79.5	7.3	9.6	3.6	0.0	0.0	0.0	100.0(83)
	40代	未婚	40.0	—	—	53.4	3.3	0.0	3.3	100.0(30)
		既婚	89.5	4.2	4.9	0.7	0.7	0.0	0.0	100.0(144)
	50代	未婚	80.6	—	—	16.7	0.0	0.0	2.7	100.0(36)
		既婚	85.0	3.4	8.2	2.0	0.0	0.0	1.4	100.0(147)
	60代	未婚	78.5	—	—	14.3	0.0	2.4	4.8	100.0(42)
		既婚	82.2	7.3	9.3	0.4	0.0	0.0	0.8	100.0(258)
長崎	20代	未婚	91.3	—	—	4.3	2.2	0.0	2.2	100.0(46)
		既婚	76.1	7.4	11.9	4.0	0.0	0.6	0.0	100.0(176)
	計		77.2	4.8	6.7	9.7	0.3	0.2	1.1	100.0(1092)
	20代	未婚	34.4	—	—	55.8	4.9	0.0	4.9	100.0(61)
		既婚	84.2	5.3	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0(19)
	30代	未婚	36.4	—	—	52.3	4.5	0.0	6.8	100.0(44)
		既婚	78.6	2.1	12.2	7.1	0.0	0.0	0.0	100.0(98)
	40代	未婚	51.5	—	—	42.4	0.0	0.0	6.1	100.0(33)
		既婚	92.7	0.8	5.7	0.0	0.8	0.0	0.0	100.0(124)
	50代	未婚	65.0	—	—	20.0	2.5	5.0	7.5	100.0(40)
		既婚	85.9	3.3	5.9	3.8	0.0	0.0	1.1	100.0(185)
長崎	60代	未婚	82.6	—	—	13.0	0.0	0.0	4.4	100.0(46)
		既婚	79.3	5.1	11.4	3.4	0.0	0.0	0.8	100.0(237)
	70代	未婚	79.2	—	—	14.5	2.1	2.1	2.1	100.0(48)
		既婚	78.3	5.6	9.3	6.2	0.0	0.0	0.6	100.0(161)
	計		76.4	2.8	6.8	11.3	0.7	0.3	1.7	100.0(1096)

買い物行動の実態は、両県ともに年代と配偶関係により異なることが分かった。買い物行動の負担は既婚の場合、妻に大きく、未婚の場合、若い年代ほど同居家族に買い物を頼っており、40代で愛媛 53.4%、長崎 42.4%である。定年後の買い物行動は未婚の場合、あなた(自分)もしくは同居家族に頼り、既婚の場合、妻もしくは夫婦で分担している。

5-5 夫婦の実態

夫婦に関する質問文

④ あなた（および配偶者）の出身地はどちらですか。出身地とは、15歳までに主に過ごされたところとお考えください。合併後の自治体名でお答えください。

あなた			配偶者（あなたの夫や妻）		
1. 【 】 都道	【 】 市区		1. 【 】 都道	【 】 市区	
2. 外国 【国名	府県	町村	2. 外国 【国名	府県	町村
		】			】

夫婦に関する質問文は、「問.4 出身地」である。この質問文から通婚圏についてまとめる。今回、本人と配偶者の関係を「市内同士」、「他の市内同士」、「市内と県内」、「県内同士」、「市内と県外」、「県内と県外」、「県外同士」の8つに分類した。その分け方について以下で述べる。

ここでは、愛媛県で実施した調査結果をもとに解説をしていく。
その中で表 5-12 にある現住所が松山市の人を例に挙げている。

- ・「市内同士」 松山市と松山市のみ
- ・「他の市内同士」 「松山市と松山市」を除く同じ市内同士（今治市と今治市、西宮市と西宮市）
- ・「市内と県内」 松山市と愛媛県内（松山市を除く）
- ・「県内同士」 愛媛県内（松山市を除く）と愛媛県内（松山市を除く）
- ・「市内と県外」 松山市と愛媛県以外の市町村
- ・「県内と県外」 愛媛県内（松山市を除く）と愛媛県以外の市町村
- ・「県外同士」 愛媛県以外の市町村と愛媛県以外の市町村（ただし市町村は異なる）

ここでは松山市を例に挙げたが、ほかの市町村も同じように調査結果と照らし合わせ、上記の8つに分けて整理をおこなった。

以下の表 5-12、表 5-13 では、両県における市町村別の通婚圏について表している。

【表 5-12 愛媛県 市町村別通婚圏】

現住所	市内同士	他の市内同士	市内と県内	県内同士	市内と県外	県内と県外	県外同士	計
松山市	36.0	7.2	21.6	10.3	8.9	8.9	7.2	100.0(296)
今治市	56.4	3.0	20.8	1.0	12.9	2.0	4.0	100.0(101)
宇和島市	63.8	6.4	19.1	2.1	8.5	0.0	0.0	100.0(47)
八幡浜市	61.5	3.8	23.1	3.8	7.7	0.0	0.0	100.0(26)
新居浜市	54.8	4.1	20.5	4.1	9.6	4.1	2.7	100.0(73)
西条市	46.6	5.2	24.1	5.2	15.5	3.4	0.0	100.0(57)
大洲市	56.3	0.0	25.0	0.0	18.8	0.0	0.0	100.0(16)
伊予市	34.8	8.7	26.1	13.0	4.3	13.0	0.0	100.0(23)
四国中央市	60.0	0.0	14.5	0.0	21.8	1.8	1.8	100.0(55)
西予市	78.3	8.7	4.3	0.0	8.7	0.0	0.0	100.0(23)
東温市	13.6	9.1	40.9	22.7	0.0	9.1	4.5	100.0(17)
上島市	33.3	16.7	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0(6)
久万高原町	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0(6)
松前町	9.1	18.2	36.4	22.7	4.5	0.0	9.1	100.0(22)
砥部町	0.0	10.0	50.0	0.0	30.0	10.0	0.0	100.0(10)
内子町	38.5	7.7	23.1	0.0	23.1	0.0	7.7	100.0(13)
伊方町	75.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0(8)
松野町	20.0	0.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0(5)
鬼北町	55.6	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	100.0(9)
愛南町	46.7	0.0	20.0	6.7	26.7	0.0	0.0	100.0(15)
計	45.4	5.9	22.2	6.5	11.3	4.8	3.9	100.0(830)

【表 5-13 長崎県 市町村別通婚圏】

現住所	市内同士	他の市内同士	市内と県内	県内同士	市内と県外	県内と県外	県外同士	計
長崎市	50.4	3.5	22.0	2.0	11.8	5.5	4.7	100.0(254)
佐世保市	44.7	5.0	16.3	0.7	20.6	8.5	4.3	100.0(141)
島原市	54.2	4.2	37.5	0.0	0.0	4.2	0.0	100.0(24)
諫早市	51.2	6.1	22.0	7.3	8.5	2.4	2.4	100.0(82)
大村市	29.5	8.2	14.8	21.3	6.6	14.8	4.9	100.0(61)
平戸市	70.0	0.0	0.0	5.0	20.0	5.0	0.0	100.0(20)
松浦市	70.0	5.0	20.0	0.0	5.0	0.0	0.0	100.0(20)
対馬市	75.0	6.3	6.3	0.0	6.3	6.3	0.0	100.0(16)
壱岐市	71.4	7.1	0.0	0.0	21.4	0.0	0.0	100.0(14)
五島市	76.0	0.0	8.0	4.0	12.0	0.0	0.0	100.0(25)
西海市	60.0	0.0	20.0	6.7	13.3	0.0	0.0	100.0(15)
雲仙市	66.7	0.0	29.2	0.0	4.2	0.0	0.0	100.0(24)
南島原市	61.8	0.0	26.5	2.9	5.9	0.0	2.9	100.0(34)
長与町	20.0	24.0	16.0	20.0	0.0	8.0	12.0	100.0(25)
時津町	26.7	13.3	26.7	20.0	0.0	13.3	0.0	100.0(15)
東彼杵町	0.0	28.6	57.1	0.0	14.3	0.0	0.0	100.0(7)
川棚町	0.0	0.0	42.9	28.6	0.0	14.3	14.3	100.0(7)
波佐見町	11.1	33.3	44.4	0.0	0.0	0.0	11.1	100.0(9)
小値賀町	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0(1)
佐々町	25.0	12.5	12.5	25.0	12.5	12.5	0.0	100.0(8)
新上五島町	70.0	0.0	0.0	10.0	20.0	0.0	0.0	100.0(10)
計	49.1	5.4	19.8	5.2	11.2	5.7	3.6	100.0(815)

両県とも、県外の人と結婚する割合は低く、県外同士の人の割合はかなり低い。サンプル数が少なく、地域によってばらつきがあるが、長崎県のほうが同じ市の出身者同士で結婚する割合が高かった。市内同士の結婚は40%を超えており、次いで市内と県内が20%である。

5-6 きょうだいの実態

きょうだいに関する質問文

- ⑦ あなた（および配偶者）は、ごきょうだいが何人いらっしゃいますか。亡くなった方も含めた人数をお答えください。また、そのうちご存命の方は何人いらっしゃいますか。

あなた	配偶者
1. 一人っ子である	1. 一人っ子である
2. きょうだいがいる	2. きょうだいがいる
兄が（ ）人そのうちご存命は（ ）人	兄が（ ）人そのうちご存命は（ ）人
弟が（ ）人そのうちご存命は（ ）人	弟が（ ）人そのうちご存命は（ ）人
姉が（ ）人そのうちご存命は（ ）人	姉が（ ）人そのうちご存命は（ ）人
妹が（ ）人そのうちご存命は（ ）人	妹が（ ）人そのうちご存命は（ ）人

【表 5-14 きょうだい数】

	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人以上	計
愛媛	5.0(60)	34.3(408)	27.8(331)	14.0(167)	8.1(97)	4.3(51)	3.8(45)	2.7(32)	100.0(1191)
長崎	4.8(57)	24.2(285)	28.3(333)	18.0(212)	9.5(112)	7.5(88)	3.4(40)	4.1(49)	100.0(1176)
計	4.9(117)	29.3(693)	28.1(664)	16.0(379)	8.8(209)	5.9(139)	3.6(85)	3.4(81)	100.0(2367)

【表 5-15 年代別；きょうだい数】

		1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人以上	平均	計
全体	20代以下	10.2	42.6	34.1	11.4	1.1	0.6	0.0	0.0	2.52	(176)
	30代	4.5	42.2	43.3	7.8	1.9	0.0	0.4	0.0	2.62	(268)
	40代	6.9	47.0	32.9	9.9	2.1	0.3	0.3	0.6	2.59	(334)
	50代	4.6	37.7	32.6	13.6	6.8	2.7	0.7	1.2	2.98	(411)
	60代	3.4	20.3	24.4	23.4	13.2	8.5	2.7	4.0	3.81	(585)
	70代以上	3.0	7.0	13.1	20.3	17.3	15.2	13.8	10.3	5.02	(428)
	計	4.8	29.5	28.1	16.1	8.8	5.8	3.6	3.4	3.46	(2202)
愛媛	20代以下	6.2	45.4	33.0	13.4	1.0	1.0	0.0	0.0	2.61	(97)
	30代	4.0	45.2	42.9	5.6	1.6	0.0	0.8	0.0	2.59	(126)
	40代	9.1	53.7	28.6	7.4	0.0	0.6	0.0	0.6	2.41	(175)
	50代	5.4	50.0	31.7	6.5	4.3	1.6	0.0	0.5	2.62	(186)
	60代	4.3	25.2	26.5	20.5	13.6	4.6	2.6	2.7	3.53	(302)
	70代以上	2.2	8.5	15.7	20.2	17.5	12.1	15.2	8.4	4.90	(223)
	計	5.0	34.5	28.0	13.7	8.2	4.1	3.9	2.7	3.29	(1109)
長崎	20代以下	15.2	39.2	35.4	8.9	1.3	0.0	0.0	0.0	2.42	(79)
	30代	4.9	39.4	43.7	9.9	2.1	0.0	0.0	0.0	2.65	(142)
	40代	4.4	39.6	37.7	12.6	4.4	0.0	0.6	0.6	2.79	(159)
	50代	4.0	27.6	33.3	19.6	8.9	3.6	1.3	1.7	3.28	(225)
	60代	2.5	15.2	22.3	26.5	12.7	12.7	2.8	5.4	4.11	(283)
	70代以上	3.9	5.4	10.2	20.5	17.1	18.5	12.2	12.2	5.16	(205)
	計	4.6	24.3	28.3	18.5	9.3	7.5	3.4	4.2	3.63	(1093)

愛媛：NA(101)、 $p<0.000$ 長崎：NA(133)、 $p<0.000$

(注1) きょうだい数1人は一人っ子のことを示す。

(注2) 以下に補足としてきょうだい総数10名以上と回答した方の性別と年齢を記載している。

<愛媛>12人 女性(72)/11人 男性(70)/10人 女性(77) 男性(65) 男性(65) 男性(80) 男性(NA)

<長崎>12人 男性(65)/11人 女性(53) 女性(77) 男性(73) 男性(NA)/10人 男性(61) 男性(70) 男性(75) 男性(76)

きょうだいに関する質問文は「問.7 きょうだい数」である。この質問文からきょうだいの人数、さらに続柄ごとの人数、そして存命の人数まで把握することができ、情報量の多い質問文だと言える。さらにきょうだいに関して概要にもあった通り、過去に質問文を用いてここまで詳しく聞いた例がなく、データもあまり存在しないため、詳細にまとめている。今回は問.7を用いてきょうだい数、年代別のきょうだい数、きょうだいの構成、きょうだいの死亡の経験、きょうだい存命率について整理している。きょうだい構成、きょうだいの存命率に関しては分析するにあたって用いた独自の方法についてわかりやすく記載している。

表 5-15 において、きょうだい数の平均人数は 70 代以上から年齢が若くなるほど減少しており、少子化の傾向がみられる。さらに、高齢になるほど／高齢者の方がきょうだい人数が多い。両県を比較すると、長崎県の方がきょうだい人数が多い(20 代以下を除く)。両県ともにきょうだいの最大総数は 12 人である。

西野らによると(2009)、さらに 20 代から 50 代までのきょうだい人数は「2 人」および「3 人」があわせて全体の 7 割前後と多数を占めている。きょうだい人数の減少は、出生順位からみると、三男・三女以上の激減をもたらし、ひいては誰もが長男・次男か長女・次女という画一化にむすびついている。一方で 60 代以上においては、「3 人」や「4 人」あるいは「8 人以上」とさまざまなきょうだい人数が存在している。

続いて、以下の表 5-16 はきょうだい数別に男女の組み合わせをまとめたものである。

【表 5-16 きょうだい数別 男女の組み合わせ】

きょうだい数	男—女			男—女	
1 人	1-0	45.2(52)	7 人	4-3	29.8(25)
	0-1	54.8(63)		3-4	28.6(24)
2 人	1-1	52.0(358)		2-5	15.5(13)
	0-2	26.5(182)		1-6	9.5(8)
	2-0	21.5(148)		5-2	7.1(6)
3 人	1-2	39.1(258)		6-1	4.8(4)
	2-1	37.0(244)		0-7	3.6(3)
	0-3	14.2(94)		7-0	1.2(1)
	3-0	9.7(64)	8 人	3-5	29.3(12)
4 人	2-2	33.9(124)		4-4	26.8(11)
	1-3	29.5(108)		5-3	24.4(10)
	3-1	21.9(80)		6-2	9.8(4)
	0-4	9.3(34)		2-6	7.3(3)
	4-0	5.5(20)		1-7	2.4(1)
5 人	2-3	27.5(56)	9 人	4-5	36.8(7)
	3-2	25.4(52)		3-6	21.1(4)
	4-1	18.6(38)		6-3	15.8(3)
	1-4	16.2(33)		5-4	15.8(3)
	5-0	6.4(13)		7-2	5.3(1)
	0-5	5.9(12)		2-7	5.3(1)
6 人	3-3	29.7(41)	10 人	5-5	40.0(4)
	2-4	22.5(31)		7-3	20.0(2)
	4-2	17.4(24)		6-4	20.0(2)
	1-5	16.7(23)		9-1	10.0(1)
	5-1	10.9(15)		1-9	10.0(1)
	0-6	2.2(3)	11 人	5-6	40.0(2)
	6-0	0.7(1)		3-8	40.0(2)
			12 人	6-5	20.0(1)
				5-7	50.0(1)
				4-8	50.0(1)

続いて、きょうだいの構成について述べていく。きょうだいの構成に関しては、2～12 人きょうだいすべての分析をおこなった。まず分析方法について以下で説明する。

きょうだい構成を詳しく把握するために新たな変数 X を作り、コード化した。その値からきょうだい構成を見分ける。新たな変数 X は以下の式で求められる。

$$X = \text{兄の人数} \times 10000 + \text{姉の人数} \times 1000 + \text{本人の性別(男:100 女:200)} + \text{弟の人数} \times 10 + \text{妹の人数} \times 1$$

本人に関しては、100 を男性、200 を女性とする。

例① 兄 2 人、本人 男性、妹 2 人の場合

$$X = 2 \times 10000 + 0 \times 1000 + 100 + 0 \times 10 + 2 \times 1 = 20102 \text{ となる。}$$

例② 兄 1 人、姉 2 人、本人 女性、弟 2 人、妹 1 人の場合

$$X = 1 \times 10000 + 2 \times 1000 + 200 + 2 \times 10 + 1 \times 1 = 12221 \text{ となる。}$$

そして、新たな変数 X を用いて割合を計算する。

ここできょうだい構成に関して問題点をあげておく。問.7は、きょうだい数はわかるが、きょうだいの生まれた順番まで把握できないものになっている。

例えば、以下の二つの回答があったと仮定してみる。

①	回答者	女性	②	回答者	男性				
兄が	(0)	人のうちご存命は	(0)	人	兄が	(1)	人のうちご存命は	(0)	人
弟が	(1)	人のうちご存命は	(1)	人	弟が	(0)	人のうちご存命は	(0)	人
姉が	(0)	人のうちご存命は	(0)	人	姉が	(1)	人のうちご存命は	(1)	人
妹が	(1)	人のうちご存命は	(1)	人	妹が	(0)	人のうちご存命は	(0)	人

① は回答者が女性で、弟が一人、妹が一人である。②は回答者が男性で兄が一人、姉が一人である。

① は第1子 女性、第2子 男性もしくは女性、第3子 男性もしくは女性 と考えられる。

② は第1子 男性もしくは女性、第2子 男性もしくは女性、第3子 女性 と考えられる。

① は生まれた順番の可能性として(女性・男性・女性)*もしくは(女性・女性・男性)の二パターンがある。

② は生まれた順番の可能性として(男性・女性・女性)もしくは(女性・男性・女性)の二パターンが挙げられる。

つまり(女性・男性・女性)という組み合わせが①、②に本来いくつか組み合わせがあるが、ここでは生まれた順番が把握できないため(女性・男性・女性)として一つにまとめることができない。

※カッコの中は左から第一子、第二子…と生まれた順番になっている。

ここでは、その中でも特に2～3人きょうだいについて以下の表5-17、5-18で詳しくまとめている。生まれた順番が把握できるものに関しては、**太字**で記載している。5～12人きょうだいの詳細に関してはDVDを参照されたい。

【表5-17 2人きょうだいの構成比】

生まれた順 (第一子・第二子)	割合	男一女	度数
女・男	27.6	1-1	(190)
女・女	26.4	0-2	(182)
男・女	24.4	1-1	(168)
男・男	21.5	2-0	(148)
計	100.0		(688)

【表5-18 3人きょうだいの構成比】

生まれた順 (第一子・第二子・第三子)	割合	男一女	度数
女・女・女	14.2	0-3	(94)
女・弟・妹	10.6	1-2	(70)
女・女・男	10.5	1-2	(69)
男・男・男	9.7	3-0	(64)
男・男・女	7.9	2-1	(52)
兄・姉・女	7.7	1-2	(51)
男・女・女	7.0	1-2	(46)
兄・姉・男	7.0	2-1	(46)
男・弟・妹	6.4	2-1	(42)
兄・女・弟	5.9	2-1	(39)
女・弟・弟	5.0	2-1	(33)
姉・男・弟	4.8	2-1	(32)
姉・男・妹	3.3	1-2	(22)
計	100.0		(660)

<2人きょうだいの特徴>

- ・2人きょうだいの組み合わせで一番割合が高いのは、第一子に女性、第二子に男性である。
- ・次に割合が高いのは第一子に女性、第二子に女性である。

<3人きょうだいの特徴>

- ・3人きょうだいの組み合わせで一番割合が高いのは第一子に女性、第二子に女性、第三子に女性である。
- ・次に割合が高いのは第一子に女性、第二子に弟、第三子に妹である。

福田らによると(2016)、第1子と第2子の性別は第3子の出生リスクに有意な影響を与える。具体的には、第2子までの性別の組み合わせが「女兒・女兒」よりも「男児・男児」の方が第3子を持つ確率が高く、女兒選好が強い。第3に、戦前は男児選好が強かったが、戦後では、女兒選好が強くなり、最近では性別選好自体が弱まる傾向がみられる。

これらの先行研究を踏まえると、今回の調査においても性別選好の傾向はあまり見受けられず、それぞれの性別の子どもを最低1人は持つことを望んでいるように思える。しかし、性別の組み合わせが「男児・男児」よりも「女兒・女兒」の方が第3子を持つ確率が高く、男児選好が高いととらえることもできる。

続いて、きょうだいの死亡の経験について述べていく。きょうだいの死亡の経験に関しては、全国家族調査(NFRJ)が過去におこなった分析に基づいて第2回全国家族調査(NFRJ03)の結果と今回の調査結果の比較を試みた。さらに今回の質問文を利用して、生存率という観点からもきょうだいの死亡の経験についてまとめている。

【表 5-19 きょうだいの死亡の経験率(28歳~77歳対象)】

		28-32(歳)	33-37	38-42	43-47	48-52	53-57	58-62	63-67	68-72	73-77
NFRJ03		3.0	4.3	5.4	7.0	16.2	23.7	37.7	48.2	55.5	64.5
県民生 活実態 調査	愛媛	5.0	5.9	5.7	2.4	10.8	17.3	22.2	32.9	47.0	62.4
	長崎	15.7	14.1	8.3	12.6	24.3	21.8	29.4	42.2	55.2	67.8
	全体	9.9	10.4	7.0	7.6	17.6	19.8	26.2	37.5	50.6	64.9

愛媛：NA(203)、p<0.000 長崎：NA(175)、p<0.000

(注) きょうだい死亡の経験率とは、自身のきょうだいにおいて一人でも死亡した場合、経験ありと判断する。

年長者になるほど、兄弟姉妹の死を経験した人の占める割合は上昇し、50歳前後で1割を、60歳前後で3割を、そして70歳前後で5割を超えている(藤見・西野、2009)。今回、全国家族調査にならって、県民生活実態調査のデータを用いて比較してみた。全国家族調査と比べると若年層のきょうだい死亡の経験率が高かった。そしてきょうだいが亡くなるという経験は50代から集中し、75歳以上で半数が経験するという実態が分かった。

生存率に関しては、問.7の結果を用いて以下の式で求められる。

⑦ あなた（および配偶者）は、ごきょうだいが何人いらっしゃいますか。亡くなった方も含めた人数をお答えください。また、そのうちご存命の方は何人いらっしゃいますか。

あなた	配偶者
1. 一人っ子である	1. 一人っ子である
2. きょうだいがいる	2. きょうだいがいる
兄が（ ）人そのうちご存命は（ ）人	兄が（ ）人そのうちご存命は（ ）人
弟が（ ）人そのうちご存命は（ ）人	弟が（ ）人そのうちご存命は（ ）人
姉が（ ）人そのうちご存命は（ ）人	姉が（ ）人そのうちご存命は（ ）人
妹が（ ）人そのうちご存命は（ ）人	妹が（ ）人そのうちご存命は（ ）人

生存率=生きている人数の総数÷きょうだい総数

例 兄が(4)人のうちご存命は(2)人
弟が(2)人のうちご存命は(1)人
兄が(2)人のうちご存命は(1)人
兄が(2)人のうちご存命は(2)人 の場合、
生存率=(2+1+1+2)÷(4+2+2+2)=0.6=60% となる。

【表 5-20 年代別：きょうだいの生存率】

		0～25%	25～50%	50～75%	75～100%	計
愛媛	18～29 歳	0.0	2.2	1.1	96.7	(90)
	30～39 歳	1.7	1.7	0.8	95.8	(118)
	40～49 歳	1.3	1.9	0.0	96.8	(157)
	50～59 歳	4.6	6.3	3.4	85.6	(174)
	60～64 歳	4.3	7.8	7.8	80.0	(115)
	65～69 歳	11.2	11.8	12.4	64.5	(169)
	70～74 歳	7.0	12.0	23.0	58.0	(100)
	75 歳以上	8.0	28.3	24.8	38.9	(113)
長崎	18～29 歳	0.0	0.0	3.2	96.8	(62)
	30～39 歳	1.6	1.6	2.4	94.4	(124)
	40～49 歳	0.7	2.7	4.1	92.5	(146)
	50～59 歳	3.4	4.9	9.2	82.5	(206)
	60～64 歳	7.3	3.3	12.2	77.2	(123)
	65～69 歳	9.6	10.3	16.2	64.0	(136)
	70～74 歳	8.0	20.5	18.2	53.4	(88)
	75 歳以上	14.3	28.6	23.8	33.3	(84)

愛媛:NA(174)、 $p<0.000$ 長崎:NA(257)、 $p<0.000$

両県とも 65～69 歳で 0～25%、25～50%、50～75%の割合が高くなり、75～100%の割合が低くなる。そして、65 歳～69 歳の前後で、75～100%の割合が 8 割から 6 割に下がる。さらに、75 歳以上で 75～100%は 3、4 割と大きく下がる傾向がみられる。つまり 65 歳から生存率が低くなり、75 歳以上で生存率は一気に低くなる。

参考文献

藤見純子・西野理子編，2009，『現代日本人の家族—NFRJ からみたその姿』有斐閣。

稲葉昭英・保田時男・田淵六郎・田中重人編，2016，『日本の家族 1999-2009』東京大学出版会。

第6章 内閣府「国民生活に関する世論調査」の活用

本章では、今回我々が実施した県民生活実態調査の結果と内閣府のデータを比較し、その違いを検討する。

本調査において問 18, 19, 32 は内閣府が実施している調査の質問と全く同じ質問文を採用し、両調査の比較を行えるようにした。以下が採用した質問文と選択肢である。

【調査票 Q18.】「あなたは全体として、現在の生活にどの程度満足していますか。」

1. 満足している
2. まあ満足している
3. やや不満である
4. 不満である

【調査票 Q19.】「あなたは、日ごろの生活の中で、休んだり、好きなことをしたりする時間のゆとりがありますか。それとも、仕事や家事、学業などに精一杯で時間のゆとりがありませんか。」

1. かなりゆとりがある
2. ある程度ゆとりがある
3. あまりゆとりがない
4. ほとんどゆとりがない

【調査票 Q32.】「あなた(および配偶者)は、日常、仕事・私的利用を問わずホームページ(Web)の閲覧や電子メール送受信など、インターネットをどの程度利用しますか。」

ほぼ毎日利用している

1. ほぼ毎日利用している
2. たまに利用している
3. ほとんど利用していない
4. まったく利用していない

(問 18, 19 は「国民生活に関する世論調査」、問 32 は「インターネットの安全・安心に関する世論調査」から採用)

本調査は言葉通り、県民の生活実態を把握する調査であるため、問 18, 19 のような回答者の考えを問う意識項目は少ない。しかし、意識項目も分析は困難だが回答者が自身の生活に対してどう思っているのか、他の県民と比べてどう思うのか、という生活実態を問うだけでは得ることが出来ない重要なデータになりえる。その中で内閣府のデータとの比較を行うことが出来る「生活満足度」と「時間的ゆとり」を今回は採用した。

インターネット利用に関する質問においては、日々進化を遂げているこの分野の長期的な変化を分析するのは不可能であるため、現在でもあらゆる調査で様々な質問文が採用され、未だに確定された質問文が存在しない。ゼミでも議論を重ね、今回の調査票に組み込む必要はないのではないかという意見も出たが、やはり地方のインターネット利用における現状を分析する必要があるという結論に至り、内閣府のデータと比較が可能である本調査の質問が採用された。この分野における正しい質問文の模索は今後も続けられることが予想されるため、今後の調査においても慎重に検討する必要があるだろう。

比較分析についてだが、内閣府の調査では選択肢が 4 段階に加え、「どちらともいえない」、「わからない」という 2 つの選択肢が存在する。この 2 つの選択肢は「無効」として 1 つのデータに置き換えた。また、本調査は愛媛県・長崎県を対象に実施しているが、内閣府のデータには四国・北九州というエリアごとデータのみが掲載されていたため、愛媛県は四国、長崎県は北九州のデータと比較を行うことにした。では、次項から各分野の比較分析を行っていく。

6-1 生活満足度に影響を与える要因

今回、我々が実施した本調査において、問 18 においては内閣府が実施している「国民生活に関する世論調査」と全く同じ質問文を採用した。生活満足度とは、主観的幸福の測度としてこれまで考えられてきたが、生活満足度に影響する要因は幅広く、定義しがたいものである。先行研究において、浦川邦夫(2011)によれば、主観的幸福に影響を与える要因は健康、学歴、所得、家族・結婚、隣人・地域などが要因として挙げられている。では、

本調査において生活満足度に影響を与える要因は何だったのか。

そこで本調査の結果をもとに内閣府のデータと比較しながら、内閣府のデータとどういった点が異なり、なぜ異なったのか、そして「生活満足度」に影響を与える要因は何であったのかについて考察していく。

① 内閣府のデータとどういった点が異なり、なぜ異なったのか

【表 6-1 「生活満足度」総数】(愛媛：NA=25 長崎：NA=27)

内閣府「国民生活に関する世論調査」(平成 30 年)						
	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満	4. 不満	無効	計 (人)
四国	12.4	62.9	15.7	7.3	1.7	(178)
北九州	14.5	62.0	18.9	3.7	0.9	(408)
総数	12.2	62.5	19.5	4.8	1.0	(5969)
県民生活実態調査						
愛媛	24.2	57.1	14.0	4.6		(1185)
長崎	24.3	55.5	15.1	5.2		(1199)
総数	24.2	56.3	14.6	4.9		(2384)

・本調査の方が満足度は高くなった。が「1. 満足している」を選ぶ割合が非常に高い。(約 2 倍)。しかし、「4. 不満である」の割合が減っているわけではない。面接調査(内閣府)と郵送調査(本調査)の調査モードの違いを反映したものと考えることができる。(面接調査の方が「やや満足」と答える傾向が高い)
この調査モードの違いが結果を変えた一つの要因といえるだろう。

・内閣府のデータの分析と県民生活実態調査との比較分析

内閣府「国民生活に関する世論調査」

2018 年だけ生活満足度が低いわけではなかった。むしろ年を追うごとに生活満足度はよくなっているという傾向がある。しかし、本調査と比べると、結果に大きな違いがある。その原因については上記した調査モードの違い(郵送調査と面接調査)が考えられるが、他の要因も絡んでいるのではないだろうか。

【表 6-2 内閣府経年変化】

		1. 満足	2. やや満足	3. やや不満	4. 不満	無効	計 (人)
四国	2018 年	12.4	62.9	15.7	7.3	1.7	(178)
	2017 年	8.5	67.8	17.1	4.0	2.5	(199)
	2016 年	7.8	58.3	19.9	8.7	4.5	(206)
	2015 年	8.2	61.4	23.4	4.6	1.0	(184)
	2014 年	10.4	57.5	26.4	5.7	-	(212)
	2008 年	4.0	54.0	30.4	10.7	0.9	(224)
北九州	2018 年	14.5	62.0	18.9	3.7	0.9	(408)
	2017 年	11.1	53.5	27.0	6.6	1.8	(396)
	2016 年	11.3	60.5	21.3	5.8	1.1	(380)
	2015 年	9.0	59.2	25.7	5.7	0.4	(424)
	2014 年	9.0	56.2	26.9	7.7	0.2	(454)
	2008 年	7.2	52.7	30.1	9.1	1.5	(429)
総数	2018 年	12.2	62.5	19.5	4.8	1.0	(5969)
	2017 年	12.2	61.0	20.0	5.3	1.0	(6319)
	2016 年	10.7	59.4	22.6	5.9	1.4	(6281)
	2015 年	10.1	60.0	23.0	6.0	0.9	(5839)
	2014 年	9.5	60.8	23.0	5.9	0.8	(6254)
	2008 年	8.0	52.4	28.2	10.2	1.2	(6146)

・内閣府調査「多角的な項目からみた生活満足度」

内閣府の国民生活に関する世論調査では上記した生活の全体から満足度を問う質問の後に生活満足度に影響を与えと考えられる要因を限定して生活満足度を問うている。今回はその中から、所得・収入、資産・貯蓄、食生活、住生活をピックアップして分析を行った。(その他にも「自動車、電気製品、家具などの耐久消費財について」、「自己啓発・能力向上について」、「レジャー・余暇生活について」がある。)

〔実際の質問文と選択肢〕

あなたは、次の生活のそれぞれの面では、どの程度満足していますか。(1) 所得・収入について (2) 資産・貯蓄について (4) 食生活について (5) 住生活について、(ア) から (エ) の中から該当するものをそれぞれ1つお答えください。

(ア)満足している
(イ)まあ満足している
(ウ)やや不満だ
(エ)不満だ
どちらともいえない
わからない

【表 6-3 内閣府生活満足度 (各分野)】

		1.満足	2.やや満足	3.やや不満	4.不満	無効	計 (人)
所得・収入	四国	7.9	39.9	36.5	11.8	3.9	(178)
	北九州	7.8	40.0	36.8	13.5	2.0	(408)
資産・貯蓄	四国	3.9	40.4	34.8	15.7	5.0	(178)
	北九州	5.4	35.8	39.0	15.9	4.0	(408)
食生活	四国	20.8	66.3	7.9	2.8	2.2	(178)
	北九州	24.0	65.2	7.8	2.5	0.5	(408)
住生活	四国	24.2	59.6	10.1	3.9	2.2	(178)
	北九州	28.7	55.9	13.2	1.7	0.4	(408)

(国民生活に関する世論調査 2018 年)

【考察】

・所得や資産などの関連項目はかなり全体の生活満足度と比べ低い傾向になった。

逆に食生活や住生活の面は全体的な生活満足度と比べ、高い値を示した。

・また、内閣府のデータは所得や資産などの経済面とデータが酷似しており、本調査は食生活や住生活などの生活面とデータが酷似していることが分かった。

② 生活満足度に影響を与える要因は何であったのか

・本調査を 2 つのカテゴリに分けて生活満足度の観点から分析する。

〈1〉世帯年収、旅行、時間のゆとり、車の保有台数、学歴→生活における直接的な充実

【世帯収入】(愛媛: NA=302 p<0.000 長崎: NA=316 p<0.030)

【国内旅行】(愛媛: NA=33 p<0.000 長崎: NA=36 p<0.000) ここで「旅行経験」とは、過去一年間に旅行経験があるかどうかを表す。

【時間のゆとり】(愛媛: NA=28 p<0.000 長崎: NA=34 p<0.000)

【車の所有有無】(愛媛: NA=44 p<0.000 長崎: NA=44 p<0.052)

【学歴】(愛媛: NA=58 p<0.178 長崎: NA=77 p<0.509)

〈2〉結婚状況、世帯構成、頼れる人(家族・家族以外)、地域とのかかわり、施設利用

→間接的な充実

【結婚状況】(愛媛: NA=31 p<0.000 長崎: NA=33 p<0.000)

【同居者・家族構成】(愛媛: NA=39 p<0.001 長崎: NA=47 p<0.000)

【頼れる人(家族)】(愛媛: NA=51 p<0.000 長崎: NA=71 p<0.000)

【地域とのかかわり】(%) (愛媛: NA=49 p<0.000 長崎: NA=52 p<0.000)

(1) 【表 6-4 直接的な充実】(世帯年収、旅行、時間のゆとり、車の保有台数、学歴)

			1. 満足	2. やや満足	3. やや不満	4. 不満	計 (人)
世帯 収入	愛媛	収入なし	25.5	47.3	14.5	12.7	(55)
		200 万以下	17.9	52.3	21.2	8.6	(151)
		200～400 万	21.5	58.5	15.3	4.7	(275)
		400～600 万	26.9	57.7	14.3	1.1	(182)
		600 万以上	29.4	60.8	7.8	2.0	(245)
	長崎	収入なし	23.8	50.0	14.3	11.9	(42)
		200 万以下	16.3	58.1	19.8	5.8	(172)
		200～400 万	20.6	59.8	14.1	5.5	(291)
		400～600 万	26.9	51.5	16.4	5.3	(171)
		600 万以上	29.5	55.1	13.2	2.1	(234)
旅行 経験	愛媛	旅行経験なし	19.7	55.7	19.3	5.3	(569)
		旅行経験あり	28.1	58.7	9.0	4.1	(608)
	長崎	旅行経験なし	20.7	54.0	17.6	7.7	(581)
		旅行経験あり	27.8	57.1	12.5	2.6	(609)
時間 のゆ とり	愛媛	かなりゆとりあり	42.4	48.7	4.6	4.2	(238)
		ある程度ゆとりあり	23.6	62.9	10.8	2.6	(618)
		あまりゆとりなし	14.8	53.3	26.6	5.3	(244)
		ほとんどゆとりなし	4.9	48.8	28.0	18.3	(82)
	長崎	かなりゆとりあり	41.2	44.8	10.9	3.2	(221)
		ある程度ゆとりあり	23.7	62.4	11.4	2.5	(604)
		あまりゆとりなし	17.6	54.3	21.3	6.7	(267)
		ほとんどゆとりなし	9.0	43.0	26.0	22.0	(100)
車 所有	愛媛	自家用車あり	24.7	57.4	13.8	4.1	(1061)
		自家用車なし	21.0	52.4	17.1	9.5	(105)
	長崎	自家用車あり	25.6	55.1	15.1	4.1	(1043)
		自家用車なし	15.1	58.3	13.7	12.9	(139)
学歴	愛媛	中学	20.2	60.5	13.7	5.6	(124)
		高校	24.1	55.9	15.9	4.2	(478)
		高専・大・専	25.0	54.3	14.1	6.6	(256)
		大学・大学院	26.2	60.9	10.5	2.4	(294)
	長崎	中学	23.4	52.6	18.2	5.8	(154)
		高校	23.2	56.0	14.2	6.5	(555)
		高専・短・専	24.3	56.6	15.5	3.5	(226)
		大学・大学院	28.0	55.6	13.1	3.3	(214)

(2) 【表 6-5 間接的な充実】(結婚状況、世帯構成、頼れる人(家族・家族以外)、地域とのかかわり)

			1. 満足	2. やや満足	3. やや不満	4. 不満	計 (人)
結婚 状況	愛媛	結婚している	27.7	56.7	12.5	3.1	(838)
		結婚したが離別	11.1	54.3	23.5	11.1	(81)
		結婚したが死別	34.9	52.4	11.1	1.6	(63)
		結婚していない	12.2	61.4	17.3	9.1	(197)
	長崎	結婚している	27.3	55.7	13.3	3.8	(844)
		結婚したが離別	17.3	50.6	17.3	14.8	(81)
		結婚したが死別	29.0	53.2	14.5	3.2	(62)
		結婚していない	13.1	57.3	21.8	7.8	(206)
世帯 構成	愛媛	単身	19.3	54.7	16.0	10.0	(150)
		夫婦のみ	30.3	55.8	9.5	4.3	(346)
		夫婦と子供	24.9	57.5	15.1	2.5	(365)
		夫婦と親	29.5	47.7	18.2	4.5	(44)
		三世代以上	18.8	64.1	13.7	3.4	(117)
		その他	16.1	59.1	18.8	6.0	(149)
	長崎	単身	16.0	55.0	16.0	13.0	(131)
		夫婦のみ	30.4	58.1	9.9	1.5	(332)
		夫婦と子供	25.5	53.6	15.9	4.9	(345)
		夫婦と親	18.9	60.4	18.9	1.9	(53)
		三世代以上	26.2	53.9	15.6	4.3	(141)
		その他	15.8	55.4	22.0	6.8	(177)

頼りにしている人 家族	愛媛	配偶者	30.3	56.5	11.2	2.1	(634)
		息子・娘	19.0	60.1	14.7	6.1	(163)
		父親・母親	15.4	61.5	16.9	6.2	(195)
		きょうだい	12.7	53.2	25.3	8.9	(79)
		その他	27.7	53.2	8.5	10.6	(47)
		いない	17.1	34.1	34.1	14.6	(41)
	長崎	配偶者	31.2	57.1	9.7	2.1	(629)
		息子・娘	17.0	57.4	16.3	9.2	(141)
		父親・母親	15.2	52.7	24.5	7.6	(184)
		きょうだい	12.4	54.9	27.4	5.3	(113)
		その他	25.0	61.5	9.6	3.8	(52)
		いない	16.7	30.6	19.4	33.3	(36)
地域活動	愛媛	とても関わりあり	21.7	63.0	13.0	2.2	(46)
		ある程度関わりあり	28.2	59.6	9.7	2.5	(319)
		あまり関わりなし	25.7	57.9	13.8	2.6	(428)
		全く関わりなし	19.3	53.0	18.5	9.2	(368)
	長崎	とても関わりあり	38.3	51.7	10.0	0.0	(60)
		ある程度関わりあり	26.7	60.0	10.3	3.0	(330)
		あまり関わりなし	22.2	57.8	14.5	5.5	(415)
		全く関わりなし	23.0	50.1	19.8	7.0	(369)

(1) 直接的な充実

学歴を除き、すべての項目で有意な差が見られた。

すべての質問項目において直接的な充実度の高い人の方が生活満足度は高かった。

(2) 間接的な充実

すべての項目で有意な差が見られた。

また、すべての項目で社会的に孤立しやすい人・していると考えられる人は生活満足度が極めて低かった。

【考察】

単身世帯や未婚者、結婚したが離別した人など、普段の生活で孤立しやすい人や周りに頼れる家族や親族がいない人が特に生活満足度が低いことが分かる。このことから生活や周りの環境など間接的な生活の充実度も生活満足度との関連性が高いと言える。

今回、いくつかの質問を2つのカテゴリに分けて分析を行った。どちらのカテゴリにも有意な差はみられ、生活に不満を抱いている人の特徴を捉えることが出来たが、実際にこの質問から生活満足度とは生活のどの部分を定義するのかを測定することは難しいのではないだろうか。「生活満足度」という言葉に広義の意味が含まれていることも問題の1つだが、これでは生活満足度の質問項目から何を測定できるのかがあいまいすぎると考える。

③ 結論

違いの可能性の1つとして調査方法の違いが挙げられる（郵送調査と面接調査の違い）。内閣府の調査では、生活満足度を問うた後、「所得面」「貯蓄面」「住生活」「食生活」などいろいろな項目に特化して生活満足度の定義を限定しており、内閣府のデータは所得や資産などの経済面とデータが酷似しており、本調査は食生活や住生活などの生活面とデータが酷似していることが分かった。

これは仮説にすぎないが、内閣府のデータと違い、本調査では家族構成や子供、住居など生活の面における質問を繰り返したのち、この質問を問うている。以前までの質問に影響され県民の方々は「生活満足度」という言葉を実際の生活面で考えてしまったことが内閣府のデータと本調査のデータが大きく異なった原因の1つと言えるのではないかと。（内閣府では調査の序盤にこの質問を置いている。）しかし、やはり本調査の全体的な生活満足度だけを聞くのでは定義があいまいで分析を行うことが困難であったと思われる。次回からはいくつかの定義に限定して問うた方がより正確な生活実態が把握できるのではないだろうか。また、意識調査の質問は調査票の冒頭部分に配置し、他の質問の影響を受けないようにすべきではないだろうか。

また、本調査の分析においては普段の生活で孤立しやすい人が特に生活満足度が低いことが分かる。よって生活や周りの環境など間接的な生活の充実度も生活満足度との関連性が高いと言える。今回は本調査のいくつかの質問を2つのカテゴリに分けて分析を行った。しかし、ともに有意な差はみられ、生活に不満を抱いている人の特徴を捉えることが出来たが、実際にこの質問で生活満足度の定義を測定することは難しいのではないだろうか。

6-2 時間的ゆとりに関する分析

① 内閣府「国民生活に関する世論調査」と愛媛県・長崎県の県民生活実態調査との比較

【表 6-6 ゆとり経年変化】

総数の経年変化						
年	1. かなりゆとりがある	2. ある程度ゆとりがある	3. あまりゆとりがない	4. ほとんどゆとりがない	無効	計（人）
2010 年	21.7	44.5	24.6	8.7	0.5	(6357)
2011 年	22.0	46.0	23.1	8.7	0.2	(6212)
2012 年	19.0	46.6	25.4	8.8	0.3	(6351)
2013 年	20.9	47.0	23.3	8.4	0.3	(6075)
2014 年	19.5	47.1	24.8	8.4	0.2	(6254)
2015 年	18.9	47.7	24.5	8.8	0.1	(5839)
2016 年	21.1	45.9	23.3	9.2	0.4	(6281)
2017 年	21.9	46.7	23.0	8.2	0.2	(6319)
2018 年	21.2	47.0	23.6	7.9	0.2	(5969)
四国の経年変化						
2010 年	30.5	40.8	20.2	8.1	0.4	(223)
2011 年	26.3	47.0	18.5	8.2	—	(232)
2012 年	15.0	47.2	26.6	11.2	—	(214)
2013 年	23.0	49.7	16.9	10.4	—	(183)
2014 年	19.8	48.6	25.9	5.2	0.5	(212)
2015 年	17.4	46.2	21.7	14.7	—	(184)
2016 年	29.6	41.7	21.4	7.3	—	(206)
2017 年	20.6	47.7	22.6	8.5	0.5	(199)
2018 年	27.0	38.2	23.0	9.6	2.2	(178)
北九州の経年変化						
2010 年	22.0	42.5	26.9	7.9	0.7	(408)
2011 年	22.9	43.0	24.8	9.1	0.2	(396)
2012 年	20.1	45.2	24.6	9.6	0.4	(380)
2013 年	19.0	48.3	23.7	8.8	0.2	(424)
2014 年	17.2	49.1	25.3	8.1	0.2	(454)
2015 年	16.3	51.7	25.7	6.4	—	(443)
2016 年	26.6	44.2	20.5	8.7	—	(447)
2017 年	19.7	46.0	25.5	8.8	—	(428)
2018 年	25.0	46.1	21.6	7.4	—	(431)
県民生活実態調査						
愛媛	20.2	52.3	20.6	7.0		(1200)
長崎	18.4	50.6	22.5	8.5		(1204)

総数の割合にあまり変化は見られなかったが、四国、北九州共に割合にばらつきが見られる。また、内閣府「国民生活に関する世論調査」と本調査で時間的ゆとりがあると回答した人の割合に差が見られる。特に本調査の方が「2. ある程度ゆとりがある」を選ぶ割合が非常に高い。

【表 6-7 男女別】（愛媛：NA=32 p<0.150 長崎：NA=39 p<0.750）

内閣府「国民生活に関する世論調査」						
	1. かなりゆとりがある	2. ある程度ゆとりがある	3. あまりゆとりがない	4. ほとんどゆとりがない	無効	計（人）
男性	17.6	48.4	25.6	8.0	0.3	(2901)
女性	21.1	46.0	24.1	8.7	0.1	(3353)
県民生活実態調査						
愛媛	男性	21.2	53.1	21.4	4.3	(528)
	女性	19.1	52.2	19.7	9.0	(659)
長崎	男性	17.2	52.3	22.0	8.5	(533)
	女性	19.4	49.9	22.6	8.0	(645)
総数	男性	19.2	52.7	21.7	6.4	(1061)
	女性	19.2	51.1	21.2	8.5	(1304)

男女別の比較では「世論調査」、本調査の「1. かなりゆとりがある」を選ぶ割合は、「世論調査」と本調査の長崎県では女性の方が割合は高いが、本調査の愛媛県は、男性の方が割合は高くなっていることが分かる。

【表 6-8 年代別】（愛媛：NA=96 p<0.000 長崎：NA=109 p<0.000）

内閣府「国民生活に関する世論調査」						
	1. かなりゆとりがある	2. ある程度ゆとりがある	3. あまりゆとりがない	4. ほとんどゆとりがない	無効	計（人）
20 代以下	14.0	58.0	22.6	6.0	0	(436)
30 代	7.4	48.0	34.0	10.6	0	(827)
40 代	6.5	45.8	36.5	10.9	0.2	(1128)
50 代	8.1	49.2	31.7	10.8	0.2	(1073)
60 代	23.0	49.6	21.2	6.1	0.1	(1429)
70 代以上	41.5	42.4	11.2	4.2	0.1	(1361)
20 代以下	14.0	58.0	22.6	6.0	0	(436)
県民生活実態調査						
愛媛	20 代以下	15.3	61.2	17.3	6.1	(98)
	30 代	7.1	47.6	30.2	15.1	(126)
	40 代	7.6	52.9	30.8	8.7	(172)
	50 代	13.4	56.5	21.5	8.6	(186)
	60 代	26.5	51.7	17.5	4.3	(302)
	70 代以上	37.0	49.1	10.9	3.0	(230)
長崎	20 代以下	8.5	58.5	26.8	6.1	(82)
	30 代	6.8	48.6	28.8	15.8	(146)
	40 代	8.2	43.4	34.6	13.8	(159)
	50 代	16.1	46.5	28.3	9.1	(230)
	60 代	24.3	55.2	13.9	6.6	(288)
	70 代以上	32.5	50.0	14.6	2.8	(212)

年代別の比較では両調査で時間的ゆとりが大きく異なるのは、30～40 代と 70 代以上である。また、「1.かなりゆとりがある」を選ぶ割合が「世論調査」と本調査で大きく異なるのは長崎県の 20 代以下であることが分かる。

表 6-6～6-8 の結果として「世論調査」と本調査では、本調査の方が「1.かなりゆとりがある」、「2. ある程度ゆとりがある」と回答する人の割合は高くなり、両調査で最も差が見られたのは 30～40 代と 70 代以上であることが明らかになった。

② 時間的ゆとり（県民生活実態調査）に関するデータ、分析

- ・仮説…働いていない人は時間的ゆとりがあるのではないか。
- ・仮説…TV 視聴時間が多い人は時間的ゆとりがあるのではないか。

【表 6-9 職業別】両県とも、無職・専業主婦・主夫は「1. かなりゆとりがある」、「2. ある程度ゆとりがある」を選ぶ割合が高い。また、愛媛県の学生で「1. かなりゆとりがある」を選んだ人が 25.0%に対し、長崎県の学生は 2.9%と大きな差がみられる。このことから働いていない人は時間的ゆとりがあることが分かる。

【表 6-10 TV 視聴時間】を見てみると、両県とも「1. かなりゆとりがある」、「2. ある程度ゆとりがある」と回答した人は TV 視聴時間が多い。また、「1. かなりゆとりがある」と回答した人で 300 分以上 TV を視聴している人は 20%を超えていることから TV 視聴時間が多い人は時間的ゆとりがあることが明らかになった。しかし、

【表 6-11 平均 TV 視聴時間】を見ても分かるように、「3. あまりゆとりがない」、「4. ほとんどゆとりがない」と回答した人でも平均で一、二時間以上 TV を視聴していることが分かる。

【表 6-9 職業別】（愛媛：NA=27 p<0.000 長崎：NA=42 p<0.000）

		1.かなりゆとりがある	2.ある程度ゆとりがある	3.あまりゆとりがない	4.ほとんどゆとりがない	計（人）
愛媛	農林漁業	16.1	55.4	19.6	8.9	(56)
	自営業者	6.9	56.9	24.5	11.8	(102)
	会社員	6.6	55.9	30.2	7.3	(331)
	教員	12.5	25.0	37.5	25.0	(24)
	公務員	5.3	47.4	28.9	18.4	(38)
	パート・派遣等 (扶養範囲外)	7.3	60.0	27.3	5.5	(55)
	パート・派遣等 (扶養範囲内)	12.5	63.5	14.4	9.6	(104)
	無職・専業	39.3	45.2	12.8	2.7	(407)
	学生	25.0	46.9	21.9	6.3	(32)
	その他	26.5	61.8	2.9	8.8	(34)
長崎	農林漁業	11.7	48.3	25.0	15.0	(60)
	自営業者	12.6	55.3	21.4	10.7	(103)
	会社員	5.6	54.5	30.8	9.0	(321)
	教員	4.3	30.4	43.5	21.7	(23)
	公務員	12.2	41.5	39.0	7.3	(41)
	パート・派遣等 (扶養範囲外)	11.7	46.8	24.7	16.9	(77)
	パート・派遣等 (扶養範囲内)	16.7	48.0	26.5	8.8	(102)
	無職・専業	37.1	49.2	9.5	4.1	(388)
	学生	2.9	55.9	35.3	5.9	(34)
	その他	17.1	51.4	20.0	11.4	(35)

【表 6-10 TV 視聴時間】(愛媛 : NA=10 p<0.000 長崎 : NA=22 p<0.000)

		視聴なし	1~60 分	61~120 分	121~180 分	181~300 分	300 分以上	計 (人)	平均
愛媛	1. かなりゆとりがある	1.7	9.9	14.0	17.8	28.1	28.5	(242)	263.70
	2. ある程度ゆとりがある	2.2	14.5	25.4	21.4	25.2	11.3	(627)	190.33
	3. あまりゆとりがない	3.6	30.0	27.5	17.8	15.0	6.1	(247)	134.41
	4. ほとんどゆとりがない	16.7	41.7	22.6	7.1	8.3	3.6	(84)	95.50
長崎	1. かなりゆとりがある	3.2	8.1	15.8	16.7	33.3	23.0	(222)	263.40
	2. ある程度ゆとりがある	3.6	13.3	20.4	24.5	25.6	12.6	(609)	195.72
	3. あまりゆとりがない	5.2	34.3	28.4	14.0	13.3	4.8	(271)	127.38
	4. ほとんどゆとりがない	10.8	40.2	28.4	9.8	6.9	3.9	(102)	97.91

【表 6-11 平均TV 視聴時間(分)】

愛媛	1. かなりゆとりがある	263.70	長崎	1. かなりゆとりがある	263.40
	2. ある程度ゆとりがある	190.33		2. ある程度ゆとりがある	195.72
	3. あまりゆとりがない	134.41		3. あまりゆとりがない	127.38
	4. ほとんどゆとりがない	95.50		4. ほとんどゆとりがない	97.91

【表 6-12 帰宅時間】(愛媛 : NA=529 p<0.034 長崎 : NA=520 p<0.295)

・仮説…帰宅時間が遅いことが時間的ゆとりに大きく関係しているのではないかと。

		0~6 時	7~12 時	13~16 時	17~20 時	21~24 時	計 (人)	平均
愛媛	1. かなりゆとりがある	3.5	5.3	12.3	73.7	5.3	(57)	16.82
	2. ある程度ゆとりがある	1.6	2.9	14.5	75.3	5.8	(380)	17.40
	3. あまりゆとりがない	0.5	3.8	7.7	75.3	12.6	(182)	18.27
	4. ほとんどゆとりがない	3.2	4.8	9.7	66.1	16.1	(62)	17.55
長崎	1. かなりゆとりがある	1.7	6.7	15.0	71.7	5.0	(60)	16.92
	2. ある程度ゆとりがある	2.5	3.3	9.7	76.4	8.1	(360)	17.61
	3. あまりゆとりがない	2.4	0.5	11.1	77.8	8.2	(207)	17.86
	4. ほとんどゆとりがない	2.5	2.5	7.6	73.4	13.9	(79)	18.18

【表 6-13 平均帰宅時間】(時)

愛媛	1. かなりゆとりがある	16.82	長崎	1. かなりゆとりがある	16.92
	2. ある程度ゆとりがある	17.40		2. ある程度ゆとりがある	17.61
	3. あまりゆとりがない	18.27		3. あまりゆとりがない	17.86
	4. ほとんどゆとりがない	17.55		4. ほとんどゆとりがない	18.18

【表 6-12 帰宅時間】を見てみると、時間的ゆとりがない人は帰宅時間が遅く、時間的ゆとりがある人は帰宅時間が早いことが分かる。しかし、【表 6-13 平均帰宅時間】を見て分かるように時間的ゆとりの有無で帰宅時間が大幅に変わるわけではなかった。

6-3 内閣府「インターネットの安全・安心に関する世論調査」等他の調査の実態

本調査の結果は内閣府の世論調査と同質問文であったため、両調査の比較分析を行った。更に他のインターネットに関する質問文を参照し、インターネット利用に関する質問文について考察する。

① 分析

【表 6-14 総数】(愛媛:NA=36 長崎:NA=46)

内閣府「インターネット上の安全・安心に関する世論調査」					
	1. ほぼ毎日利用	2. たまに利用	3. 殆ど利用なし	4. 全く利用なし	計(人)
四国	35.7	8.9	10.7	41.1	(56)
九州	48.1	14.6	9.2	28.2	(206)
総数	49.3	13.0	7.4	30.4	(1722)
県民生活実態調査					
愛媛	53.7	11.2	6.3	28.8	(1174)
長崎	51.5	12.1	6.2	30.2	(1180)
総数	52.6	11.6	6.2	29.5	(2436)

【表 6-15 年代別】(愛媛:NA=114 長崎:NA=130)

内閣府「インターネット上の安全・安心に関する世論調査」					
	1. ほぼ毎日利用	2. たまに利用	3. ほとんど利用なし	4. 全く利用なし	計(人)
20代	87.4	7.2	2.7	2.7	(111)
30代	80.2	9.4	7.8	2.5	(243)
40代	79.5	10.4	4.5	5.5	(308)
50代	52.9	16.9	13.9	16.2	(308)
60代	26.9	12.1	13.4	47.7	(405)
70代以上	11.5	5.2	10.1	73.2	(347)
県民生活実態調査					
20代	87.4	7.2	2.7	2.7	(111)
30代	80.2	9.4	7.8	2.5	(243)
40代	79.5	10.4	4.5	5.5	(308)
50代	52.9	16.9	13.9	16.2	(308)
60代	26.9	12.1	13.4	47.7	(405)
70代以上	11.5	5.2	10.1	73.2	(347)

【表 6-16 職業別】(愛媛:NA=52 長崎:NA=67)

内閣府「インターネット上の安全・安心に関する世論調査」						
	1. ほぼ毎日利用	2. たまに利用	3. ほとんど利用なし	4. 全く利用なし	計(人)	
農林漁業(自営)	19.0	0.0	9.6	71.4	(21)	
雇用者(小計)	67.8	10.9	7.7	13.6	(876)	
無職(小計)(主婦・無職)	26.0	9.6	12.2	52.2	(673)	
県民生活実態調査						
愛媛	農林漁業	39.6	15.1	5.7	39.6	(53)
	自営業者	61.2	10.2	5.1	23.5	(98)
	勤め	77.9	9.7	4.8	7.6	(393)
	パート・派遣等	59.5	12.0	5.11	23.4	(158)
	無職・専業	26.7	10.8	8.7	53.8	(390)
	学生	83.9	16.1	0.0	0.0	(31)
	その他	40.0	22.9	8.6	28.6	(35)
長崎	農林漁業	12.5	10.7	12.5	64.3	(56)
	自営業者	52.5	13.1	7.1	27.3	(99)
	勤め	74.8	11.8	3.7	9.7	(381)
	パート・派遣等	54.5	14.2	6.3	25.0	(176)
	無職・専業	29.9	12.3	7.3	50.4	(381)
	学生	88.2	8.8	2.9	0.0	(34)
	その他	46.9	6.3	9.4	37.5	(32)

考察

- ・【表 6-14 総数】より、四国と愛媛を比べると愛媛の方が「1. ほぼ毎日利用する」の回答割合が高く、「4. 全く利用なし」の回答割合が低いため有意な差があった。
- ・【表 6-15 年代別】より、両調査ともに年代が上がるにつれてインターネット利用率が低くなる。
- ・愛媛の「1. ほぼ毎日利用する」と回答した 60 代 30 代の回答割合が内閣府調査より約 14%高い。
- ・【表 6-16 職業別】より、農林漁業者、無職・専業主婦・主夫はインターネットの利用率がかなり低い。
- ・愛媛の農林漁業者のインターネット利用割合のみ内閣府の割合より約 30%高いため有意な差があった。

② 他の調査の参照

国が行っている調査では、インターネット利用に関する不満を問う問題が多く見られた。今後の調査に採用できそうな質問文をいくつか引用する。

【内閣府「インターネットの安全・安心に関する世論調査（平成 30 年 9 月調査）」より

調査概要インターネットの安全・安心に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とするために行われた調査。調査対象は全国 18 歳以上、標本数 3000 人。

(1) インターネットの利用に関連するトラブルへの不安感

問1 あなたは、インターネットの利用に関連するトラブルについて、不安はありますか。この中から 1 つだけお答えください。

インターネットを利用されない方も、インターネットを利用した場合を想定してお答えください。

- ・不安がある（小計） **67.6%** ・不安がある **34.7%** ・どちらかといえば不安がある **33.0%**
- ・不安はない（小計） **21.7%** ・どちらかといえば不安はない **9.6%** ・不安はない **12.1%** ・わからない **10.6%**

(ア) インターネットの利用に関連するトラブルで不安があること

更問 「不安がある」、「どちらかといえば不安がある」、「どちらかといえば不安はない」と答えた方(1,287 人)に 具体的に、どのようなことに不安がありますか。この中からいくつでもあげてください。（複数回答）

- ・個人情報が流出すること **79.6%** ・詐欺などにあって、金品などを取られること **51.7%**
- ・子供や家族が危険な目に遭うこと **45.2%** ・SNS やブログなどで誹謗中傷を受けること **36.6%**
- ・自分が加害者になる可能性があること **22.5%** ・なんとなく不安がある **20.1%** ・その他 **0.7%** ・わからない **0.9%**

(2) インターネットの安全・安心に関する国や地方公共団体の情報発信の方法

問 5 あなたは、インターネットの安全・安心に関する国や地方公共団体による情報発信について、どのような方法で行ってほしいと思いますか。この中からいくつでもあげてください。（複数回答）

- ・テレビやラジオ番組での発信 **54.5%**・学校や地域でのセミナー、教室の開催 **38.5%**
- ・インターネットの危険に関する情報のホームページでの発信 **32.5%**・新聞や雑誌・書籍での発信 **32.4%**
- ・インターネットを安全・安心に使うための知識を解説したホームページでの発信 **31.6%**
- ・街頭イベントなどの開催 **10.5%**・特になし **10.9%**

【総務省「平成 28 年通信利用動向調査」（平成 28 年 9 月調査）より

調査概要 世帯及び企業を対象。統計法（平成 19 年法律第 53 号）に基づく一般統計調査として毎年実施。利用者視点の情報通信の利用動向、世帯の情報通信機器の保有・利用状況、個人のモバイル端末の保有状況、企業のテレワークの導入状況などの結果を提供している。

問 1 (1)情報通信機器の保有状況（M）

- ・固定電話 **72.2%**・FAX 38.1%・携帯電話（スマートフォン、PHS を含む） **94.7%**・携帯電話（PHS を含む） **56.7%**
- ・スマートフォン **71.8%**・タブレット型端末 **34.4%**・パソコン **73.0%**・ウェアラブル端末 **1.1%**・インターネットに接続できる家庭用ゲーム機 **31.4%**・インターネットに接続できる家庭用ゲーム機のうちテレビ等に映像を表示するもの **25.9%**
- ・インターネットに接続できる家庭用ゲーム機のうちディスプレイが付いているもの **21.0%**・インターネットに接続できる携帯型音楽プレイヤー **15.3%**・その他インターネットに接続できる家電（情報家電）等 **9.0%**・無回答 **0.7%**

問 3 (1)インターネット利用の際に受けた被害（対象：自宅パソコン、携帯電話（PHS を含む）、スマートフォン及びその他の機器でインターネット利用をしたことのある世帯）

- ・何らかの被害を受けた **65.3%**・ウイルスを発見または感染 **21%**・ウイルス発見したが感染なし **16.6%**
- ・ウイルスに一度以上感染 **4.4%**・迷惑メール／架空請求メールを受信 **60.3%**・フィッシング **4.4%**
- ・不正アクセス **2.7%**・その他（個人情報の漏洩、誹謗中傷等） **1.4%**・特に被害はない **21%**・無回答 **13.8%**

(2) 過去 1 年間にインターネットで利用した機能・サービスと目的・用途（M）

- ・電子メールの送受信 **76.3%**・ホームページ・ブログの開設・更新又は閲覧・書き込み **40.0%**・ソーシャルネットワーキングサービスの利用 **48.9%**・無料通話アプリやボイスチャットの利用 **47.1%**・動画投稿・共有サイトの利用 **48.8%**・ラジオ、テレビ番組、映画などのオンデマンド配信サービスの利用 **19.3%**・オンラインゲームの利用 **27.0%**・クイズ・懸賞応募、アンケート回答 **19.1%**・地図・交通情報の提供サービス（無料のもの）**59.3%**・天気予報の利用（無料のもの）**59.4%**・ニュースサイトの利用 **53.6%**・辞書・事典サイトの利用 **32.9%**・e ラーニングの利用 **8.7%**・商品・サービスの購入・取引（計） **48.6%**
- ・商品・サービスの購入・取引（金融取引及びデジタルコンテンツ購入を含む）**46.5%**・金融取引 **14.1%**・商品・サービスの購入・取引（デジタルコンテンツ購入を含む金融取引を除く）**43.7%**・デジタルコンテンツの購入・取引 **21.2%**・商品・サービスの購入・取引（金融取引及びデジタルコンテンツ購入を除く）**36.6%**・インターネットオークション **11.5%**・電子政府・電子自治体の利用 **6.6%**・その他（電子掲示板やウェブアルバムの利用、電子ファイルの交換など） **5.7%**・無回答 **4.2%**

③ まとめ

内閣府「インターネットの安全・安心に関する世論調査」と県民生活実態調査の結果より

- ・インターネット利用率は年齢、学歴に比例する。
- ・農林漁業者のインターネット利用率が著しく低い。
- ・全体において愛媛県のインターネット利用率が高い。

今後のインターネット利用に関する質問文について

- ・今後の調査ではインターネット利用に関しての意見を問うことができる質問を付け加えると、政策提言に関しても分析が行いやすいのではないかと。
- ・インターネットの保有状況、利用用途を問う質問文を追加してもよいのではないかと。総務省と同質問文を用いることで、結果を比較分析することができるので有効だと言える。

6-4 おわりに

この章では生活満足度、時間的ゆとり、インターネット利用について内閣府のデータと比較をしながら分析を進めてきた。それぞれに特徴が見られ、内閣府のデータと比較をすることで、相対的に本調査の結果を分析し、質問文の検討と県民の実態を明らかにすることが出来た。

時間的なゆとりに関してはTV視聴時間と比例関係にあるという仮定のもと分析を進めたが、時間的ゆとりのない人でもテレビを見ている時間が長いということが分かった。これは現在問題視されているテレビ離れという社会問題に対しても有効なデータといえるだろう。インターネット利用に関しては本調査でも属性的特徴を見出すことが出来たが、メディア業界は目まぐるしい速度で進化を遂げているため、今後も調査で用いる際には、インターネットについてどのようなデータが必要なのか慎重に検討し、質問文を作成する必要がある。また特に検討すべき結果となったのは生活満足度についてである。定義があいまいであることも分析を難しくする要因の1つではあるが、調査票の後半に設置することで他の質問の影響を受け、結果が変わってしまうという可能性を見出すことが出来た。意識項目に関しても質問文の慎重な検討と分析が必要であろう。

参考文献

内閣府,2018,「国民生活に関する世論調査」

(<https://survey.gov-online.go.jp/index-ko.html>, 2018年10月24日にアクセス)。

浦川邦夫,2011「幸福度研究の現状」『日本労働研究雑誌』612:4-15.

内閣府,2018,「インターネット上の安全・安心に関する世論調査」

(<https://survey.gov-online.go.jp/h27/h27-net/index.html>, 2019年1月9日にアクセス).

e-Stat 政府統計の総合窓口,2019,「平成28年通信利用動向調査」(<https://www.e-stat.go.jp/>,2019年1月9日にアクセス).

第7章 過去の研究室調査との比較分析

7-1 研究室調査の変遷

この章では、県民生活実態調査と研究室調査とを比較することで、今後の調査への提言を行う。言及する質問文は、Q12<家族親族で頼りにする人>・Q13<家族以外で親しい・頼りにする人>・Q30<車所有>・Q31<運転状況>である。また、関連分析を行った調査は、「松山調査」「四国調査」「中四国調査」「4都市居住類型調査」「関西ニュータウン調査」「西宮マンション調査」である。まず、調査概要と調査の特徴を比較し一覧にした。

【表 7-1 研究室調査の調査概要と特徴】

①調査年②調査対象③調査方法④サンプル抽出法⑤標本数⑥有効標本数（回収率）

	調査概要	調査の特徴
松山調査	①1987年 ②松山市に居住する20歳以上の男女 ③個別訪問面接聴取法④選挙人名簿による確率比例抽出法 ⑤396（22地点18標本）⑥269（67.9）	・アメリカの都市社会学者であるフィッシャーの分析を参考に、松山市民のパーソナル・ネットワークについて問う ・パーソナル・ネットワーク関連の4問からなる
四国調査	①1988年 ②松山市、高松市、徳島市、高知市に居住する20歳以上の男女 ③郵送法による質問紙調査 ④選挙人名簿による層化二段抽出法 ⑤2000（各市500ずつ）⑥890（43.4）	・アメリカの都市社会学者であるフィッシャーの分析を参考に、日本の土着型地方都市と言われる四国市民のパーソナル・ネットワークについて問う
中四国調査	①1989年 ②広島市、岡山市、松山市、宇和島市、西条市に居住する20歳以上の男女 ③郵送法による質問紙調査 ④選挙人名簿による統計抽出法 ⑤2500（各市500ずつ）⑥1089（43.4）	・人口規模が異なる都市を対象とした ・都市化とパーソナル・ネットワークの関連を明らかにすることが目的
4都市居住類型調査	①1999年 ②西宮市、松山市、八王子市、武蔵野市に居住する20歳以上の男女（明治生まれを除く）③郵送法による質問紙調査 ④居住特性別地域カテゴリー別に選挙人名簿で抽出 ⑤2520 ⑥954（37.9）	・居住地域特性別にパーソナル・ネットワークの特徴を捉えるため、全市ランダムサンプリングを行わず、居住特性別にサンプルを割り当てた ・主な調査項目は、地域活動参加度、近隣ネットワーク、居住地特性、友人ネットワーク、ライフスタイルである
関西ニュータウン調査	①2004年 ②8つのニュータウン（西神、須磨、三田、洛西、千里、平城、泉北、トリヴェール和泉）に居住する20～92歳の有権者（明治生まれを除く） ③郵送法による質問紙調査 ④選挙人名簿による統計抽出法 ⑤4800⑥1685（35.1）	・関西の8つの大規模ニュータウンを対象として、住宅選択行動、生活行動、人間関係の実態把握し、関西都市圏の形成過程や都市構造を明らかにすることが目的 ・ニュータウンを調査対象にしたのは、その居住者のほとんどが住居選択をして移り住んでいるため、土着を想定する人ようがないからである
西宮マンション調査	①2008年 ②西宮市の共同住宅に住む世帯 ③郵送法、訪問法、ポスティング法 ④マンションデータベースより抽出 ⑤4000 ⑥844（21.1）	・新しい調査方法の開発、共同住宅居住者の実態把握が目的 ・住宅地図と国勢調査を重ね合わせたサンプリング台帳を作成した
県民生活実態調査	①2017年 ②愛媛県、長崎県に居住する18～80歳の男女 ③郵送法による質問紙調査 ④選挙人名簿による層化無作為抽出法（愛媛）、住民基本台帳による確率比例抽出法（長崎） ⑤4000（各市2000ずつ）	・政策形成に貢献し調査困難状況に対応可能な社会調査方法の開発を目指す ・住む、働く、生活する、家族生活、生活課題・時間について、「事実を問う質問」を用いて調査した ・県民の生活行動を空間的に分析（Google drive）

7-2、7-3では、Q12〈家族親族で頼りにしている人〉、Q13〈家族以外で親しい・頼りにする人〉について言及する。まず、松山調査から4都市居住類型別調査において、質問文の変遷を整理した。次に、本調査の分析結果を踏まえ質問文の考察を行う。7-4では、Q30〈車所有〉、Q31〈運転状況〉について言及する。関西ニュータウン調査、西宮マンション調査と同じ質問文を用いて分析を行う。7-5では、団塊世代について言及する。関西ニュータウン調査の分析で用いた定義を改め、より信頼性の高い分析を目指す。

7-2 〈頼りにしている人・親しくしている人〉から読み取るパーソナル・ネットワーク

① Q12、Q13 の質問文と単純集計表

Q12 あなたの家族や親族の中で、あなたが日ごろ最も頼りにしている人はどなたですか。
別居しているご家族・親族も含めてお答えください。【1つだけ○】

- | | | |
|-----------|--------------|----------------------|
| 1. 配偶者 | 6. あなたのきょうだい | 11. あなたの孫 |
| 2. あなたの息子 | 7. 子どもの配偶者 | 12. きょうだいの配偶者 |
| 3. あなたの娘 | 8. 配偶者の父親 | 13. 上記以外の親族 |
| 4. あなたの父親 | 9. 配偶者の母親 | 14. 頼りにしている家族・親族はいない |
| 5. あなたの母親 | 10. あなたの祖父母 | |

Q13 ご家族・親族以外の人との関係についてうかがいます。【1つだけ○】

- ① あなたが、日ごろ最も親しくしている人は、どなたですか。
② あなたが、日ごろ最も頼りにしている人は、どなたですか。

① 日ごろ最も親しくしている人	② 日ごろ最も頼りにしている人
1. 近所の人	1. 近所の人
2. 職場の人（元職場の同僚や仕事上の知人も含む）	2. 職場の人（元職場の同僚や仕事上の知人も含む）
3. 子どもの養育過程で知り合った人	3. 子どもの養育過程で知り合った人
4. 学生時代に知り合った人	4. 学生時代に知り合った人
5. 趣味やサークルなどで知り合った人	5. 趣味やサークルなどで知り合った人
6. 民生委員やケアマネージャーや行政の人	6. 民生委員やケアマネージャーや行政の人
7. 上記以外の人	7. 上記以外の人
8. 親しくしている人はいない	8. 頼りにしている人はいない

【表 7-2 単純集計表〈頼りにしている家族・親族〉】

	全体 (2359)	愛媛 (1180)	長崎 (1179)
1. 配偶者	54.2(1279)	54.6(644)	53.9(635)
2. あなたの息子	6.8(161)	7.3(86)	6.4(75)
3. あなたの娘	6.7(157)	7.3(86)	6.0(71)
4. あなたの父親	3.9(91)	4.2(50)	3.5(41)
5. あなたの母親	12.3(291)	12.4(146)	12.3(145)
6. あなたのきょうだい	8.3(195)	6.8(80)	9.8(115)
7. 子どもの配偶者	0.1(3)	0.0(0)	0.3(3)
8. 配偶者の父親	0.5(11)	0.3(4)	0.6(7)
9. 配偶者の母親	2.7(63)	1.9(23)	3.4(40)
10. あなたの祖父母	0.2(5)	0.3(4)	0.1(1)
11. あなたの孫	0.0(1)	0.0(0)	0.1(1)
12. きょうだいの配偶者	0.3(6)	0.3(4)	0.2(2)
13. 上記以外の親族	0.7(17)	0.9(11)	0.5(6)
14. 頼りにしている家族・親族はいない	3.3(79)	3.6(42)	3.1(37)

(NA=77 p<0.41)

【表 7-3 単純集計表〈親しくしている人〉】

	全体 (2316)	愛媛 (1165)	長崎 (1151)
1. 近所の人	20.3(471)	21.5(250)	19.2(221)
2. 職場の人（元職場の同僚や仕事上の知人も含む）	28.2(652)	26.8(312)	29.5(340)

3. 子供の養育過程で知り合った人	5.7(131)	5.7(66)	5.6(65)
4. 学生時代に知り合った人	16.8(390)	16.6(193)	17.1(197)
5. 趣味やサークルで知り合った人	8.3(193)	8.2(95)	8.5(98)
6. 民生委員やケアマネージャーや行政の人	0.4(9)	0.2(2)	0.6(7)
7. 上記以外の人	9.3(216)	9.2(107)	9.5(109)
8. 親しくしている人はいない	11.0(254)	12.0(140)	9.9(114)

(NA=120 p<0.294)

【表 7-4 単純集計表〈頼りにしている人〉】

	全体 (2170)	愛媛 (1099)	長崎 (1071)
1. 近所の人	17.5(380)	18.3(201)	16.7(179)
2. 職場の人（元職場の同僚や仕事上の知人も含む）	20.5(444)	18.8(207)	22.1(237)
3. 子供の養育過程で知り合った人	5.3(114)	5.7(63)	4.8(51)
4. 学生時代に知り合った人	12.8(278)	12.8(141)	12.8(137)
5. 趣味やサークルで知り合った人	4.3(94)	4.3(47)	4.4(47)
6. 民生委員やケアマネージャーや行政の人	1.5(32)	1.2(13)	1.8(19)
7. 上記以外の人	15.2(329)	13.7(151)	16.6(178)
8. 頼りにしている人はいない	23.0(499)	25.1(276)	20.8(223)

(NA=266 p<0.067)

② 〈頼りにしている人・親しくしている人〉からパーソナル・ネットワークは読み取れたか

本調査 Q12、Q13 の設問で〈パーソナル・ネットワーク〉の分析は可能だったのか。研究室調査から変更した点を中心に、3 つの視点から質問文を検証する。

・検証 1：家族で頼りにしている人は誰かを測定できたか

→ 家族・親族のうち頼りにしている人は誰か、という設問は成功したと言える。結果として、「既婚者は配偶者を選び、60 代以上になると子供を選ぶ割合が増えること」、「未婚者は親を選び、親が他界している場合など年代が上がるときょうだいを選ぶ傾向にあること」が分かった。一方で、選択肢は改善する余地がある。単純集計表より、選択肢を減らすことが可能だと判断できるからだ（配偶者、あなたの息子、あなたの娘、あなたの父親、あなたの母親、あなたのきょうだい、上記以外の親族、頼りにしている家族・親族はいない）。

・検証 2：ネットワークが希薄な人の測定はできたか

→ ネットワークが希薄な人の測定は可能。選択肢に「民生委員やケアマネージャーや行政の人」、「頼りにしている人（親しくしている人）はいない」を加えたことで、どんな人が社会から孤立しやすいのか、属性的特徴が明らかになった。特に、3 問の「頼りにしている人（親しくしている人）はいない」という選択肢を組み合わせることで、ネットワークが希薄な人がなぜ孤立しているのか（つながりが弱いのはどこか）を判別することが可能である。

・検証 3：「親しくしている人」、「頼りにしている人」に設問を分けた意味はあったか

→ 〈親しくしている人〉、〈頼りにしている人〉で問いを分けたことで、回答に変化はあったが、それが何を意味するかは分析上では曖昧である。〈親しくしている人〉と〈頼りにしている人〉とをクロス表分析した結果、有意な差が見られた。一方で、本調査のワーディングでは、具体的な状況設定がなされていないことから、正確な分析ができたとは断言し辛い。〈親しくしている人〉と〈頼りにしている人〉とを分ける判断基準が名言されず、具体的な状況設定もなされていないため、回答者によって捉え方が異なる可能性があるからだ。また、Q13 (1) 〈親しくしている人〉と Q13(2) 〈頼りにしている人〉では、NA 数に大きな差が見られたこと（後者が倍ほど多い）からも、質問文についての説明不足が少なからず影響しているのではないかと。

③ 検証1 家族で頼りにしている人は誰か測定できたか

本調査では、初めての試みとして、「家族の中で頼りにしている人は誰か」を計る問いを用意した。Q12では、同別居に関わらず、日ごろ最も頼りにしている家族・親族を問うた。この問いでは回答者によって、選択肢の数が異なることから、以下のように整理し分析を行う。

目的：Q12では、主な選択肢として「配偶者」、「息子」、「娘」、「父親」、「母親」、「きょうだい」がある（表7-2より判断）。これらは、配偶関係や親の有無によって選択肢が限られることがある（例えば、未婚の場合「配偶者」を、父親と死別した場合「父親」は選ばない、など）。本調査の特徴として、回答者の家族関係について詳しく問うている。したがって、回答者の家族構成員を明確にできるため、家族構成別に『頼りにしている家族・親族』を整理することができると考えた。この分析方法では、同じ家族構成を持つ人をグループ化することで、非該当となる選択肢を除外し、より正確な分析を行うことを目的とする。

分析手順：Q12の選択肢である、「配偶者」、「父親」、「母親」、「子供（息子・娘）」、「きょうだい」、以上5項目の有無をそれぞれ組み合わせると、32のグループに分けられる（2⁵）。5項目の有無をもとに、ケースの選択を行った。組み合わせに用いた質問文は、Q2〈配偶関係〉、Q7〈きょうだい有無と人数〉、Q8〈子供有無と人数〉、Q9〈親存命・他界〉である。（Q2では「結婚している」を配偶者あり、「離別」「死別」「未婚」を配偶者なし、とみなす。）32のグループに簡略化のため通し番号(AA~BP)をつけ、以下一覧にまとめた（表7-5）。また、各グループを独立した変数とし、それぞれでQ12の割合を出した（表7-6）。

【表7-5 家族構成の組み合わせパターン】 ※「あり」を○、「なし」を×で表している。

配偶者	父親	母親	子供	きょうだい	総数	記号
○	○	○	○	○	(401)	AA
				×	(13)	AB
			×	○	(67)	AC
				×	(0)	AD
		×	○	○	(62)	AE
				×	(4)	AF
			×	○	(4)	AG
				×	(0)	AH
	×	○	○	○	(309)	AI
				×	(9)	AJ
			×	○	(26)	AK
				×	(2)	AL
		×	○	○	(640)	AM
				×	(24)	AN
			×	○	(36)	AO
				×	(2)	AP
×	○	○	○	○	(39)	BA
				×	(2)	BB
			×	○	(216)	BC
				×	(29)	BD
		×	○	○	(3)	BE
				×	(1)	BF
			×	○	(8)	BG
				×	(2)	BH
	×	○	○	○	(45)	BI
				×	(4)	BJ
			×	○	(55)	BK
				×	(3)	BL
		×	○	○	(126)	BM
				×	(4)	BN
			×	○	(60)	BO
				×	(2)	BP

表7-5より、組み合わせパターンは32通りである。その中で割合が多いのは、以下5パターンである。

- ・AM〈配偶者・子供・きょうだいがいる〉：30.7（640）
- ・AA〈配偶者・父親・母親・子供・きょうだいがいる〉：19.3（401）
- ・AI〈配偶者・母親・子供・きょうだいがいる〉：14.8（309）
- ・BC〈両親・きょうだいがいる〉：10.0（209）
- ・BM〈子供・きょうだいがいる〉：6.0（125）

【表 7-6 家族構成の組み合わせ別〈頼りにしている家族・親族〉】

	配偶者	息子	娘	父親	母親	きょうだい	その他	いない	合計
AA	75.1	1.3	0.5	4.1	12.2	1.8	3.1	1.8	(393)
AB	76.9	0.0	0.0	7.7	15.4	—	0.0	0.0	(13)
AC	88.1	—	—	0.0	9.0	0.0	3.0	0.0	(67)
AD	0.0	—	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	(0)
AE	83.6	1.6	3.3	3.3	—	4.9	3.2	0.0	(61)
AF	100.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	(4)
AG	75.0	—	—	25.0	—	0.0	0.0	0.0	(4)
AH	0.0	—	—	0.0	—	—	0.0	0.0	(0)
AI	78.5	4.0	5.6	—	4.0	4.0	2.7	1.3	(303)
AJ	100.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	0.0	(9)
AK	80.8	—	—	—	7.7	3.8	3.8	3.8	(26)
AL	50.0	—	—	—	50.0	—	0.0	0.0	(2)
AM	77.4	8.7	7.7	—	—	2.9	1.9	1.5	(620)
AN	54.2	12.5	20.8	—	—	—	4.2	8.3	(24)
AO	70.3	—	—	—	—	21.6	5.4	2.7	(37)
AP	100.0	—	—	—	—	—	0.0	0.0	(2)
BA	—	13.2	13.2	7.9	42.1	15.8	0.0	7.9	(38)
BB	—	0.0	0.0	0.0	50.0	—	50.0	0.0	(2)
BC	—	—	—	23.7	54.6	10.1	6.7	4.8	(207)
BD	—	—	—	22.2	66.7	—	0.0	11.1	(26)
BE	—	0.0	0.0	0.0	—	66.7	0.0	33.3	(3)
BF	—	0.0	0.0	0.0	—	—	100.0	0.0	(1)
BG	—	—	—	12.5	—	37.5	12.5	37.5	(8)
BH	—	—	—	50.0	—	—	0.0	50.0	(2)
BI	—	17.1	24.4	—	24.4	29.3	2.4	2.4	(41)
BJ	—	66.4	0.0	—	33.3	—	0.0	0.0	(3)
BK	—	—	—	—	48.1	31.5	7.4	13.0	(54)
BL	—	—	—	—	100.0	—	0.0	0.0	(3)
BM	—	41.5	39.8	—	—	12.7	4.2	1.7	(118)
BN	—	25.0	25.0	—	—	—	25.0	25.0	(4)
BO	—	—	—	—	—	71.2	8.5	20.3	(59)
BP	—	—	—	—	—	—	50.0	50.0	(2)

表 7-6 より、家族構成別に『頼りにしている家族・親族』を分析すると以下の特徴がみられる。

- ・配偶者がいる場合といない場合を比較すると、後者の方が「頼りにしている家族・親族はいない」と回答する割合が高い。
- ・配偶者がいる場合、7割以上が配偶者を選ぶ傾向にある。
- ・配偶者がいる場合、かつ親、子、ともにいる場合では、配偶者の次に親を選ぶ人が多い（AA、AB）。
- ・配偶者がいる場合、かつ親が他界している場合、子供を選ぶ割合が増える（AM）。
- ・配偶者がいない場合、かつ親が存命ならば子の有無にかかわらず、親を選ぶ（BA、BC、BD）。
- ・配偶者がいない場合、かつ親が他界している場合、子供がいれば子を、いなければきょうだいを選ぶ（BI、BK、BM）。
- ・配偶者、子供がいない場合、約8割が親を頼りにしている（BC、BD）。

④ 検証2 ネットワークが希薄な人の測定はできたか

- ・「行政の人」の分析

Q13 (1)、(2) で、「民生委員やケアマネージャーや行政の人」を選択した人の特徴を、以下のようにパターン分けを行い分析した。A、Bの詳細についてはDVDを参照されたい。

- Q13 (1) 〈親しくしている人は行政の人〉計9人
- Q13 (2) 〈頼りにしている人は行政の人〉計32人
- Q13 (1)、(2) 〈親しくしている人は行政の人〉かつ〈頼りにしている人は行政の人〉計5人

C. 内訳

- ・48 歳男性未婚（対馬市）：無職、子供なし、父親他界、母親 71 歳
- ・79 歳男性既婚（長崎市）：自営業、末子 52 歳、近居子 3 か月に 1 度会う（56 歳）、両親他界
- ・70 歳男性既婚（松浦市）：会社員、末子 24 歳、同居（30 歳）、両親他界
- ・66 歳女性既婚（平戸市）：専業主婦、末子 35 歳、近居子週 1 回会う（年齢 NA）、両親他界
- ・75 歳男性既婚（今治市）：無職、末子 44 歳、近居子週 1 回会う（52 歳）、両親他界

・「いない」の分析

ネットワークが希薄な人を分析するため、〈頼りにしている人・親しくしている人〉が「いるか/いないか」、に着目して分析を行う。分析の方法は以下のとおりである。

目的：誰も頼りにしていない人、誰とも親しくしていない人を測定するため。

分析方法：Q12 では「配偶者」から「上記以外の親族」までを、Q13 では「近所の人」から「上記以外の人」までを、「誰かを頼りにしている人」、「誰かと親しくしている人」と定義づける（表 7-7 では○で表記）。Q12、Q13 で「頼りにしている人・親しくしている人はいない」を選択した人は孤立した人とみなし、表 7-7 では×で表記する。次に、それら 3 問 2 項目の組み合わせを行うと、8 パターンに分けられる（CA~CH）。分析を簡略化するため、家族とそれ以外という視点から、グループ編成を行う（CI、CJ）。この 4 つのパターンにおいて、関連する項目の分析を行った。

【表 7-7 〈頼りにしている人・親しくしている人〉の有無によるグループ分け】

頼りにしている家族・ 親族	親しくしている 人	頼りにしている人	合計	記号	
○	○	○	(1562)	CA	CI
		×	(276)	CB	
	×	○	(35)	CC	CD
		×	(167)	CD	
×	○	○	(21)	CE	CJ
		×	(15)	CF	
	×	○	(1)	CG	CH
		×	(27)	CH	

Q12、Q13 (1)、(2) の 3 問を組み合わせると、上記の 8 パターンに分けられる。そこで、家族と家族以外という視点から編成を行い、以下の 4 つのグループに分けた。

CI 〈頼りにしている家族がいて、親しくしている人・頼りにしている人の少なくともどちらかがいる（CA、CB、CC）〉：89.0（1873）

CD 〈頼りにしている家族はいるが、親しくしている人・頼りにしている人はいない〉：7.9（167）

CJ 〈頼りにしている家族はいないが、親しくしている人・頼りにしている人はいる（CE、CF、CG）〉：1.7（36）

CH 〈頼りにしている家族・親しくしている人・頼りにしている人、すべていない〉：1.3（27）

また、CJ、CH ではケース数が少ないため、全ケースの特徴を書き出した。

CJ 〈頼りにしている家族はいないが、親しくしている人・頼りにしている人はいる〉内訳

- ・男性 20 人、女性 16 人
- ・20 代以下 24.0(6)、30 代 32.0(8)、40 代、50 代 5.4(2)、60 代 16.2(6)、70 代以上(1)
- ・既婚 27.8(10)、離別 19.4(7)、死別 2.8(1)、未婚 50.0(18)
- ・自営業 14.3(5)、勤め 37.1(13)、パート 5.4(2)、無職 28.6(10)、学生 2.9(1)、その他 11.4(4)
- ・単身 36.1(13)、夫婦のみ 8.3(3)、夫婦と子供世代 19.4(7)、3 世代以上 11.1(4)、その他 25.0(9)
- ・〈地域活動とのかかわり〉とてもかかわりを持っている.8(1)、ある程度かかわりを持っている 13.9(5)、あまりかかわりを持っていない 36.1(13)、全くかかわりを持っていない 47.2(17)
- ・〈生活満足度〉満足している 24.3(9)、まあ満足している 35.1(13)、やや満足である 24.3(9)、不満である 16.2(6)

CH〈頼りにしている家族・親しくしている人・頼りにしている人、すべていない〉内訳
・男性 18 人、女性 9 人
・30 代 12.5(3)、40 代 16.7(4)、50 代 8.3(2)、60 代 29.2(7)、70 代以上 33.3(8)
・既婚 48.1(13)、離別 14.8(4)、死別 3.7(1)、未婚 33.3(9)
・自営業 3.7(1)、勤め 37.0(10)、パート 11.1(3)、無職 48.1(13)
・単身 33.3(9)、夫婦のみ 22.2(6)、夫婦と子供世代 22.2(6)、3 世代以上 3.7(1)、その他 18.5(5)
・〈地域活動とのかかわり〉ある程度かかわりを持っている 3.8(1)、あまりかかわりを持っていない 34.6(9)、全くかかわりを持っていない 61.5(16)
・〈生活満足度〉満足している 7.4(2)、まあ満足している 29.6(8)、やや不満である 33.3(9)、不満である 29.6(8)

⑤ 検証3 「親しくしている人」、「頼りにしている人」で質問を分けた意味はあったか
ワーディングの違いによって、それらに変化は見られたのか。Q13 のクロス表分析を行い、質問文の関係性を明らかにした。

【表 7-8 親しくしている人・頼りにしている人のクロス集計】(NA=290 p<0.000)

頼りにしている人		近所	職場	子供	学生	趣味	行政	その他	いない	計
親しくしている人	近所	67.1	5.5	1.0	1.7	1.7	1.7	9.4	12.0	100.0(417)
	職場	6.6	51.7	2.6	8.6	1.5	0.5	9.4	19.1	100.0(617)
	子供	4.0	7.2	59.2	5.6	1.6	1.6	6.4	14.4	100.0(125)
	学生	3.6	15.3	3.0	54.0	1.9	0.5	9.0	12.6	100.0(365)
	趣味	11.4	9.7	2.2	4.9	35.7	2.7	12.4	21.1	100.0(185)
	行政	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	62.5	12.5	25.0	100.0(8)
	その他	3.1	2.1	0.5	1.0	0.5	2.1	79.0	11.8	100.0(195)
	いない	3.0	4.7	0.9	0.4	0.4	1.3	5.1	84.2	100.0(234)
	計	17.4	20.5	5.2	12.9	4.3	1.4	15.3	23.0	100.0(2146)

※太字は「親しくしている人」、「頼りにしている人」のどちらも同じ回答をした人の割合である。

- ・「親しくしている人」、「頼りにしている人」間には、両県とも有意な関連が見られる(p<0.000)。
- ・「いない」、「その他」、「近所」では、2 つの質問で同じ項目を選ぶ人が多いが(6~8 割)、「趣味」では少なく(3~4 割)、6 割以上が異なる項目を選んでいる。
- ・〈親しくしている人〉で「近所」、「職場」、「子供」、「趣味」を選ぶ人は、〈頼りにしている人〉でも同じ選択肢を選ぶ人が最も多い。それに続き割合が多いのは、〈頼りにしている人〉では「いない」を選ぶケースである(=親しくしている人はいるが、頼りにしている人はいない層)。

以上のように、回答に有意な差が見られたことから、「親しくしている人」と「頼りにしている人」を別々に質問した意味はあったといえる。しかし、NA 数が大きく異なることから、レイアウトも含め、ワーディングの改善が必要だと考えられる(「親しくしている人」NA=120、「頼りにしている人」NA=266)。

7-3 研究室調査との比較

① 研究室調査におけるパーソナル・ネットワークの分析方法

過去 30 年にわたる研究室調査の中で、パーソナル・ネットワークを問うた調査は 5 つある。松山調査 (1987) から本調査 (2017) まで、質問文の変遷を明らかにしていく。それぞれの調査で、パーソナル・ネットワーク関連の問いがどのように位置付けられていたか、また、ワーディングや定義はどう変わっていったのか、以下の変遷表 (表 7-9) と単純集計表をもとに考察する。

パーソナル・ネットワークの問い方は 3 つに分けられる。〈インティメイト・ネットワーク〉、〈ネットワークサイズ〉、〈つきあい状況〉である。

〈インティメイト・ネットワーク〉では、回答者にとって最も身近な存在は誰かを明らかにする。対象を 1 人に絞ることで、他の項目との関連分析が容易になる。一方で、つきあい方の様子や頻度をうかがい知ることができず、表面的な分析に終わってしまう可能性がある。〈ネットワークサイズ〉では、条件に当てはまる人物が、それぞれ何人いるかを明らかにする。交友関係の広さを数値的に把握することができる。一方で、数値上の違いがあったとしても、『交友関係が広い人・狭い人』を定義し辛く、分析を展開するのが難しい。〈つきあい状況〉で

は、身近な人との具体的なつきあい方を明らかにする。状況設定を複数用意することで、具体的なつきあい方の様子や頻度を計ることができる。一方で、項目の組み合わせが無数にあるため、結果を整理しカテゴライズするのが難しい。

以上3つの問い方には、それぞれ長所と短所があり、組み合わせを工夫し体系的に質問文を構築していく必要がある。

② 研究室調査と本調査との比較

本調査では、インティメイト・ネットワーク関連の3問からパーソナル・ネットワークの分析を行った。過去の調査から変更した点を、1. 質問文の構成、2. ワーディング、選択肢の工夫、以上の視点から考察する。

・質問文の構成

本調査では、インティメイト・ネットワークの問いに限定し、『頼りにしている家族・親族』、『親しくしている人』、『頼りにしている人』、以上3つの独立した問いを設けた。過去の調査と大きく異なる点は、身内とそれ以外で設問を分け、それぞれで最も身近な人を計ろうとした点である。今までは、家族以外の親戚や友人を同列に並べた中から、最も親しくしている人を問うてきた。しかし、それでは日常的に接する機会の多い家族との関係を知ることができなかった。また、本調査では『親しくしている人』に加え、『頼りにしている人』という問いを設け、それぞれに違いが見られるのか、比較分析を行った。

一方、本調査ではスペースの関係上〈ネットワークサイズ〉、〈つきあい状況〉についての問いを設けなかった。その結果、回答者の人づきあいの様子や交友関係の広さを計ることができなかった。

・ワーディング、選択肢の工夫

Q12『頼りにしている家族・親族』では、別居している家族・親族を含めて答える形をとった。そのため、同居・別居、自宅との距離、会う頻度との関係を調査することができた。また、Q13では、『友人』という定義は行わず、本人との関係をもとに選択肢を用意した。

パーソナル・ネットワークが希薄な人を明らかにするために、Q12「頼りにしている家族・親族はいない」、Q13「民生委員やケアマネージャーや行政の人」、「親しくしている人はいない」、「頼りにしている人はいない」という選択肢を加えた。

③ 質問文の考察

研究室調査との比較から、パーソナル・ネットワーク関連の質問文を振り返ると、〈ネットワークサイズ〉、〈つきあい状況〉について言及しなかった本調査の形式は不十分だったと言える。一方で、〈インティメイト・ネットワーク〉に関しては、『頼りにしている家族』を問うたこと、「親しくしている人・頼りにしている人はいない」という選択肢を設けたことは、7・2本調査の分析結果から、有効だったと言えるだろう。

【表 7-9 ネットワーク関連の質問文変遷表】

	松山調査(1987)	四国調査(1988)	中四国調査(1989)	4 都市居住類型別調査(2008)	県民生活実態調査(2017)
特徴	状況に応じた親しい人を計る 4 間で構成される	インテイメイト・ネットワークとネットワークサイズ、2つの形式を用いた設問	インテイメイト・ネットワークとネットワークサイズ、2つの形式を用いた設問	隣人づきあい、ご近所づきあい、友人づきあい、3つの観点からインテイメイト・ネットワーク、ネットワークサイズ、つきあい状況を問う。	インテイメイト・ネットワークを、家族、友人別々に問う。加えて、親しくしている人と頼りにしている人で問いを分けた
インテイメイト・ネットワーク	○親しい人 ○おしゃべりをする人 ○一緒に遊びに行く人 ○家に訪問してくる人 【親族・友人・職場の人、近所の人】※家族以外で	○親しくしている人 【親戚の人、職場の人、近所の人、それ以外の友人】 ※家族以外で ○親しい人という頻度 ○親しい人宅との距離 ○親しい人の出身地 ○親しい人とのつきあい方	○親しくしている人 【親戚、職場の人、近所の人、上記以外の友人】 ※同居家族以外で	○親しく思う友人 【学校が同じだった友人、仕事を通じての(職場が同じ友人、近所(小学校区内)に住んでいた友人、子供の養育過程で知り合った友人、趣味やサークルを通じての友人、上記以外の人】 ◎親しい友人の現住所 ◎親しい友人の出身地	○頼りにしている家族・親族 【配偶者、あなたの息子、あなたの娘、あなたの父親、あなたの母親、あなたのきょうだい、子どもの配偶者、配偶者の父親、配偶者の母親、あなたの祖父母、あなたの孫、きょうだいの配偶者、上記以外の親族、頼りにしている家族・親族(親族ではない)】 ○親しくしている人 【近所の人、職場の人(元職場の同僚や仕事上の知人も含む)、子供の養育過程で知り合った人、学生時代に知り合った人、趣味やサークルで知り合った人、民生委員やケアマネージャーや行政の人、上記以外の人、親しくしている人(頼りにしている人はいない)】 ○頼りにしている人【同上】
ネットワークサイズ	『親しくおつきあいでいる人』 ※よく行き来したり、一緒に遊びに行ったりしている人 ●親戚 ●職場の人 ●近所の人 ●上記以外の人	『親しくおつきあいでいる人』 ※よく行き来したり、一緒に遊びに行ったりしている人 ●親戚 ●職場の人 ●近所の人 ●上記以外の友人	『親しくおつきあいでいる人』 ※よく行き来したり、一緒に遊びに行ったりしている人 ●親戚 ●職場の人 ●近所の人 ●上記以外の友人	『ご近所づきあい』 ※小学校区内に居住している人 ●一緒に出かけた近所の人 ●おすそ分けをした、された近所の人 ●家を行き来した近所の人 『友人づきあい』 ●日頃から親しくしている友人 ●過去3年会っていないが友人だと思う人	
つきあい状況	『友人づきあい』 ○友人関係に対する考え方 ○友人とのつきあい方 『近所づきあい』 ○近所の人の属性	『友人づきあい』 ○友人関係に対する考え方 ○友人とのつきあい方 『近所づきあい』 ○近所の人の属性	『隣人づきあい』※同隣に住む人の中で最も親しくしている人 ◎隣人に対する理解度 (家族構成、出身地、職業、最終学歴、結婚のいきさつ、悩み事) ◎隣人との付き合い方 《一緒に出かける、おすそ分け、家の行き来、悩み事相談、家族ぐるみの付き合い、頼み事》		

※：用語の定義、注釈 ○：当てはまる選択肢を一つ選ぶ問題。【 】内は選択肢。
◎：二択問題。〈 〉内は小問の内容で、知っている／知らない、の二択。《 》内は小問の内容で、はい／いいえ、の二択
●：人数を答える問題。単位は〔人〕

④ 参考資料〈研究室調査の質問文と単純集計表〉

【松山調査】

- 1) 「日頃、家族以外であなたが最も親しい人をあげるとしたら、それは次のどの種類の人ですか」
 1：親族 (26.4) 2：友人 (50.9) 3：職場の人 (12.6) 4：近所の人 (10.0)
 2) 「それでは、家族以外で、ふだんあなたが最も気軽におしゃべりをする（電話を含む）相手は次のどの種類の人ですか」
 1：親族 (19.0) 2：友人 (56.5) 3：職場の人 (16.4) 4：近所の人 (8.2)
 3) 「家族以外で、最もよく一緒に遊びに行くのは次のどの種類の人ですか」
 1：親族 (17.8) 2：友人 (54.3) 3：職場の人 (16.7) 4：近所の人 (6.7)
 4) 「あなたのお宅に一番よく訪問してくる人は、どの種類の人ですか」
 1：親族 (41.3) 2：友人 (38.7) 3：職場の人 (6.7) 4：近所の人 (12.3)

【四国調査】

〈インティメイト・ネットワークに関する質問〉

Q. 「日頃、家族以外であなたが最も親しいと考えるを1人思い浮かべて下さい。その人は次のどの種類の人ですか」

	全体	松山	高松	高知	徳島
1. 親戚の人	22.8	31.6	29.8	19.9	33.6
2. 職場の人	12.6	12.0	12.3	15.6	10.4
3. 近所の人	15.7	17.2	16.6	12.3	16.6
4. それ以外の友人	43.0	39.2	41.3	52.1	39.3

SQ. 「(4と答えた方にお尋ねします。) その人と知り合ったきっかけは何でしょうか」

	全体	松山	高松	高知	徳島
1. 趣味やスポーツサークルでの仲間	19.7	17.5	14.9	24.0	22.0
2. 学生時代の友人	46.1	51.3	50.0	47.1	35.4
3. 子供を通しての友人 (PTA など)	9.2	8.8	9.6	4.8	14.6
4. 配偶者を通しての友人	5.6	1.3	6.4	7.7	6.1
5. その他	19.4	21.3	19.1	16.3	22.0

SQ. 「平均してその人 (最も親しい人) と、どれくらいの割合で会っていますか」

	全体	松山	高松	高知	徳島
1. ほとんど毎日	19.3	17.3	21.1	22.2	16.4
2. 週2回程度	14.7	14.9	15.4	14.0	14.5
3. 週1回程度	17.2	21.8	11.4	14.5	21.7
4. 月2回程度	16.9	19.8	16.2	18.8	13.0
5. 月1回程度	14.9	11.9	14.5	15.0	18.4
6. もっと少ない	16.9	14.4	21.5	15.5	15.9

SQ. 「その人 (最も親しい人) の住んでいる家と、あなたの家とでは、どのくらい離れていますか」

	全体	松山	高松	高知	徳島
1. 100km 未満	12.5	14.1	14.6	11.2	9.8
2. 100km～1km 未満	14.3	14.1	14.2	11.7	17.2
3. 1km～5km 未満	27.6	29.8	20.4	33.7	27.5
4. 5km～10km 未満	18.2	19.2	19.0	17.1	17.6
5. 10km～50km 未満	13.6	13.1	13.7	13.7	13.7
6. 50km～100km 未満	3.4	3.0	3.5	3.4	3.4
7. 100km 以上	10.4	6.6	14.6	9.3	10.8

SQ. 「その人 (最も親しい人) の出身地はどこですか」

	全体	松山	高松	高知	徳島
1. 自分と同じ市長村出身	47.7	49.5	44.0	44.3	53.1
2. 自分と同じ市町村ではないが同じ県出身	35.3	36.4	32.4	40.4	32.4
3. 自分とは異なった都道府県出身者	17.0	14.1	23.6	15.3	14.5

SQ. 「その人 (最も親しい人) とは、次のうちどちらの付き合い方をしていますか」

	全体	松山	高松	高知	徳島
1. その人とは個人的なつきあいをしている	45.8	49.0	44.1	50.2	40.2
2. 家族ぐるみの付き合いをしている	54.2	51.0	55.9	49.8	59.8

〈つきあい状況〉

Q. 「あなたは次の2つのうち、どちらの考え方に近いですか」

甲：新しい友人を作るよりは、今の友人とさらに仲良くしていきたい

乙：今の友人も含めて、さらに友人の幅を広げたい

	全体	松山	高松	高知	徳島
1. 甲に近い	22.9	22.8	22.6	24.2	21.9
2. 甲にやや近い	16.4	16.5	18.3	15.3	15.2
3. 乙にやや近い	30.8	28.6	29.4	31.6	33.8
4. 乙に近い	29.9	32.0	29.8	28.8	29.0

Q.「あなたの日頃の近所づき合いは、次の2つのうちどちらに近いですか。」

甲：近所づき合いにおいて、主につきあっているのは向こう三軒両隣の人である。

乙：近所づき合いにおいて、主につきあっているのは気の合う友人である。

	全体	松山	高松	高知	徳島
1. 甲に近い	32.4	32.5	29.9	38.3	29.0
2. 甲にやや近い	16.8	18.2	18.2	10.7	20.0
3. 乙にやや近い	22.2	20.2	23.4	24.3	21.0
4. 乙に近い	28.6	29.1	28.6	26.7	30.0

Q.「友人づき合いについてお尋ねします。あなたが友人と話をしたり、外出したり訪問しあったりする場合、次のどちらに近いですか。」

甲：それぞれの場合に応じていろいろな友人とつき合うことが多い。

乙：たいていの場合、同じ友人と行動をともにすることが多い。

	全体	松山	高松	高知	徳島
1. 甲に近い	30.4	29.7	29.9	32.4	29.8
2. 甲にやや近い	18.4	19.1	19.7	15.3	19.5
3. 乙にやや近い	25.2	23.9	29.5	23.1	23.9
4. 乙に近い	25.9	27.3	20.9	29.2	26.8

Q.「友人づき合いについて、下記の2つの考え方がありますが、あなたはどちらに近いですか。」

甲：友人とは親しくはしたいがあまり深入りしたくはない。

乙：友人とは心をわって深くかかわりたい。

	全体	松山	高松	高知	徳島
1. 甲に近い	26.7	25.4	31.6	23.1	26.1
2. 甲にやや近い	25.8	29.7	27.8	23.1	29.7
3. 乙にやや近い	23.4	23.4	19.8	26.4	23.4
4. 乙に近い	23.1	21.5	20.7	27.3	21.5

〈ネットワークサイズに関する質問〉

Q.「親戚の中で、盆・暮・冠婚葬祭以外にも日頃親しくおつきあい（よく行き来したり、一緒に遊びに行ったりしている親戚は、それぞれの地域に何人いらっしゃいますか（既婚の方は、自分及び配偶者の親、兄弟の範囲、未婚の方は、祖父母、叔父、叔母の範囲でお答えください）」

※単位は〔人〕

	全体平均	松山	高松	高知	徳島
1：同一町内	1.0	0.9	1.0	0.8	1.1
2：市内（同一町内は除く）	2.2	2.7	1.9	2.2	2.0
3：県内（市内は除く）	1.8	1.8	1.4	2.1	1.8
4：県外	1.4	1.2	1.6	1.4	1.5
5：計	6.5	6.8	6.0	6.7	6.7

Q.「あなたの職場におけるおつきあい（パートも含む）についてお尋ねします。仕事以外でも親しくおつきあい（よく行き来したり、一緒に遊びに行ったり）している人は何人いらっしゃいますか」

	全体平均	松山	高松	高知	徳島
1：（ ）人	4.3 人	4.4 人	4.0 人	4.7 人	4.1 人
2：職場がない	37.7%				

Q.「あなたの近所におけるおつきあいについてお尋ねします。あなたが近所で親しくおつきあい（よく行き来したり、一緒に遊びに行ったり）している人は何人いらっしゃいますか」

	全体平均	松山	高松	高知	徳島
（ ）人	2.9 人	3.0 人	3.0 人	2.6 人	3.0 人

Q.「あなたが親戚、職場、近所以外で親しくおつきあい（よく行き来したり、一緒に遊びに行ったり）している友人は何人いらっしゃいますか」

	全体平均	松山	高松	高知	徳島
（ ）人	3.7 人	3.9 人	3.9 人	4.2 人	3.0 人

【中四国調査】

（インティメイト・ネットワークに関する質問）

Q. 「日頃、同居家族以外であなたが最も親しいと考える人を一人思い浮かべて下さい、その人は、次のどの種類の人ですか」

	全体	広島	岡山	松山	宇和島	西条
1. 親戚	44.9	40.1	42.1	45.5	44.9	49.6
2. 職場の人	10.5	9.6	13.4	10.9	12.0	7.3
3. 近所の人	11.7	16.2	10.4	10.0	12.5	10.7
4. 上記以外の友人	32.9	34.1	34.2	33.6	30.6	32.4
合計	100	100	100	100	100	100

（ネットワークサイズに関する質問）

Q. 「あなたの人づきあいについておたずねします。日頃親しくおつきあい（よく行き来したり、一緒に遊びに行ったり）している親戚、職場の人、友人は、それぞれ何人いらっしゃいますか。 ※単位 [人]

	全体平均	広島	岡山	松山	宇和島	西条
1. 親戚	4.4	3.8	3.8	4.2	4.4	5.6
2. 職場の人	2.7	2.4	3.4	2.9	2.1	2.8
3. 近所の人	2.7	2.4	2.4	2.6	2.9	3.0
4. 上記以外の友人	4.1	4.7	4.1	4.7	3.9	3.5
合計	14.1	13.5	13.9	14.5	13.4	15.0

【4 都市居住類型別調査】

Q8. あなたの＜隣人づきあい＞についてお聞きします。お宅の両隣の家を思い浮かべてください。その2軒（なければ1軒でも可）に住む人のなかで、あなたが最も親しくなされている人を一人決めてください。その人とのつきあい状況についてお聞きします。

- その人の家族構成を知っていますか
 - 知っている (86.3)
 - 知らない (13.7)
- その人の出身地を知っていますか
 - 知っている (51.5)
 - 知らない (48.5)
- 世帯主の職業を知っていますか
 - 知っている (72.2)
 - 知らない (27.8)
- その人の最終学歴を知っていますか
 - 知っている (29.0)
 - 知らない (71.0)
- その人の結婚のいきさつ（未婚の場合は恋人の有無）を知っていますか
 - 知っている (21.3)
 - 知らない (78.7)
- その人の現在の悩み事を知っていますか
 - 知っている (16.2)
 - 知らない (83.8)
- その人と先月一ヶ月の間に一緒に出かけたり、買物・食事等に行ったことがありますか
 - ある (13.0)
 - ない (87.0)
- その人におすそわけ(土産を含む)をしたりもらったりしたことがありますか
 - ある (77.5)
 - ない (22.5)
- その人の家に遊びに行ったり（きたり）したことがありますか
 - ある (35.7)
 - ない (64.3)
- その人に自分の悩み事を話したことがありますか
 - ある (19.1)
 - ない (80.9)
- その人とは家族ぐるみのつきあいをしていますか
 - はい (24.6)
 - いいえ (75.4)
- その人に頼み事（留守中のことなど）をしたことがありますか
 - ある (46.6)
 - ない (53.4)

Q9. あなたの＜ご近所づきあい＞についてお聞きします。今度は近所の人を小学校区内に居住している人とお考えいただき、該当する近所の人の人数をお答えください。

- 先月一ヶ月の間に一緒に出かけたり、買物・食事等に行ったことがある近所の人は何人いますか 1.17 人
- これまでにおすそ分けをしたり、もらったりしたことのある近所の人は何人いますか 3.35 人
- 家に遊びに行ったり、来たりしたことのある近所の人は何人いますか 2.20 人

Q14. あなたの＜友人づきあい＞についてお聞きします。友人を A：日頃から親しくおつきあいしている友人

B：過去3年間一度も会っていないが、あなたが友人だと思ふ人に分けて、初めて出会ったきっかけの種類別に人数をお答え下さい。（全ての項目および A・B が重複しない様にご記入下さい）

出会ったきっかけ	A：日頃つきあう友人	B：友人と思う人
学校が同じだった友人	(3.17) 人	(4.53) 人
仕事を通じての（職場が同じ）友人	(3.96) 人	(3.35) 人
近所（小学校区内）に住んでいた友人	(1.36) 人	(1.33) 人
子供の養育過程で知り合った友人	(1.58) 人	(1.04) 人
趣味やサークルを通じての友人	(3.34) 人	(1.96) 人
上記以外の人	(1.42) 人	(1.25) 人

Q15. Q14 で挙げたすべての友人中で、現在あなたが最も親しいと思う友人を一人決めてください。

①その人（最も親しい友人）は、次のうちどの種類の人ですか。

- 学校が同じだった友人 (38.6)
- 仕事を通じての（職場が同じ）友人 (26.4)
- 近所（小学校区内）に住んでいた友人 (7.4)
- 子供の養育過程で知り合った友人 (9.7)
- 趣味やサークルを通じての友人 (11.9)

6. 上記以外の友人 (6.0)
②その人の現住所を知っていますか。また、それはどちらですか。
1. 知っている (98.7) 2. 知らない (1.3)
※本人と親友の現在地
同一市内 (45.9) 隣接市町村 (12.4) 県内・都内 (16.0) 同一地方内 (15.6) 他の地方 (10.1)
③その人の出身地を知っていますか。また、それはどちらですか。(出身地とは、中学校卒業までに主に住んでいたところを指します)
1. 知っている (90.2) 2. 知らない (9.8)
※本人と親友の出身地
同一市内 (29.2) 県内・都内 (24.2) 同一地方内 (14.6) 他の地方 (32.0)

7-4 地方都市における車の必要性

この項では、Q30〈車所有〉、Q31〈運転状況〉について言及する。比較に用いるのは、関西ニュータウン調査、西宮マンション調査であり、同じ質問文を用いた分析を行う。

車に関する統計調査

国土交通省の実施した自動車保有車両数統計によると、「平成30年9月末現在の自動車保有車両数を前年同月と比べると243,566台(0.30%)増加し、85カ月連続のプラスとなった」(自動車保有車両数統計 2018)とある。このことから車産業が好調であることが予想できる。

自家用車所有台数(一般財団法人 自動車検査登録情報協会)

愛媛県⇒74.2万台(過去5年で3.88%増加)

長崎県⇒69.8万台(過去5年で4.13%増加)

※東京都⇒316.3万台(過去5年で1.22%増加)

本調査では、2つの質問文を用いて車社会を計ろうと試みた。自家用車の所有有無を問う〈車所有〉の問いと、車の運転頻度を問う〈運転状況〉の問いである。前者については、過去の研究室調査でも用いられた問いであるため、以下の通り比較分析を行った。

① 車所有に関する比較

・質問文と単純集計表

【表7-10 県民生活実態調査(2017年)】

Q30 あなたの世帯では、自家用車をお持ちですか。お持ちの方は、()に台数を記入してください。

	愛媛(NA=29)	長崎(NA=28)
1.持っている	90.8(1081) 平均1.7台	88.1(1056) 平均1.7台
2.持っていない	9.2(110)	11.9(142)

【表7-11 ニュータウン調査(2005年)】

Q31 あなた(および配偶者)は、自動車をお持ちですか。

	(NA=435)
1.持っている	83.4(1042)
2.持っていない	16.6(208)

※ニュータウン調査のみ、「本人/配偶者」に分けて調査項目を作成している。「世帯の車=本人の車/配偶者の車」の判別が難しかったため正確な数値とは言い難いのではないかな。

【表7-12 ニュータウン調査 単純集計表】

	あなた(NA=111)	配偶者(NA=386)
1.持っている	52.5(827)	50.9(659)
2.持っていない	47.5(747)	49.1(640)

・全国的に自家用車所有台数は増加傾向。(都市部ではその割合が低い)

【表7-13 西宮マンション調査(2008年)】

Q27 あなたのお宅では、自動車をお持ちですか。

	(NA=2)
1.持っている	70.6(594)
2.持っていない	29.4(247)

- ・過去調査と比較して分かったこと

ニュータウン調査(2005年)と西宮マンション調査(2008年)によって車の所有率に関する質問文としては、個人単位ではなく世帯単位で聞く方がよいということが分かった。また、その結果わかった世帯単位で聞く質問文と全く同じものを用いることで前回調査と比較しやすい。そのため、地方における車の需要の高さを明らかにすることができた。

② 車所有に関する考察

車を持っていない人の属性的特徴 (表 7-10)

- ・免許を持っていない人の割合が高い。(252人中72人)
- ・60代以上の女性の割合が高い。(252人中79人)
- ・単身もしくは夫婦のみで暮らす世帯の割合が高い。(愛媛110人中82人 長崎142人中87人)
- ・平均所有率を下回った市町村は、
愛媛県⇒松山市、宇和島市、大洲市、四国中央市、松前町
長崎県⇒長崎市、平戸市、対馬市、新上五島町
このような世帯は駅などの中心地域周辺に分布する割合が高い。

過去調査との比較

- ・1.持っている を選ぶ割合が高い。(愛媛90.8% 長崎88.1%)
⇒本人52.5% 配偶者47.5%(NT調査)、70.6%(マンション調査)
- ・60代以下の割合が増加。(38.3%) ⇒28.3%(NT調査)、27.1%(マンション調査)
- ・女性の割合が高い。(男35.7% 女64.3%)
⇒男52.7% 女47.3%(NT調査)、男60.3% 女39.7%(マンション調査)

結論

統計調査からもわかるように全国的に車の所有台数は増加している。今回の調査は、前回調査(西宮マンション調査 2008年)と同じ世帯単位で質問文を作成したところ、所有率が増加した。

また、ニュータウン調査(2005年)で行った本人単位の質問文は、統計調査と比較して所有率が非常に低いいため妥当とはいえない。以上のことから車の質問文は世帯を単位として行うほうが有意義な結果を得られるとわかる。

③ 運転状況に関する考察

【表 7-14 県民生活実態調査】

Q31 あなた(および配偶者)は、日ごろどの程度自動車を運転していますか。

	男性 (NA=551)		女性 (NA=430)	
	愛媛	長崎	愛媛	長崎
1. ほぼ毎日運転している	72.6(674)	73.5(670)	60.1(594)	59.0(573)
2. たまに運転している	17.5(162)	16.3(149)	13.0(129)	12.4(121)
3. ほとんど運転していない	2.5(23)	2.5(23)	3.6(36)	2.8(27)
4. 全く運転していない	3.0(28)	2.7(25)	8.2(81)	6.4(62)
5. 免許を持っていない	4.4(41)	4.9(45)	15.1(149)	19.4(189)
	100.0(928)	100.0(912)	100.0(989)	100.0(972)

- ・1.ほぼ毎日運転している を選択するのは性別によって割合が異なる。
⇒単純集計表 本人(愛媛 65.6% 長崎 64.6%)
配偶者(愛媛 66.8% 長崎 68.0%)
- ・1.ほぼ毎日運転している を選択する人は、性別によって割合が高い年代が異なる。
⇒愛媛県男性 50代 75.7% 長崎県男性 60代 82.0%
愛媛県女性 40代 80.6% 長崎県女性 40代 80.0%
- ・70代以上の女性は免許を所得しない割合が高い(愛媛40.4% 長崎49.4%)
⇒愛媛県男性 5.6% 長崎県男性 14.1%
- ・問30において2.持っていない を選んでいるにもかかわらず車を運転する例が少数ではあるが存在する。
⇒1.ほぼ毎日運転する を選ぶサンプルが4(愛媛3、長崎1)
2.たまに運転している を選ぶサンプルが4(愛媛1、長崎3)
3.ほとんど運転していない を選ぶサンプルが15(愛媛11、長崎4)
4.全く運転していない を選ぶサンプルが38(愛媛15、長崎23)

7-5 団塊世代の生活実態

① はじめに

「団塊世代」とは、狭義には1947年から1949年に生まれた世代のことをいい、広義には1946年から1950年に生まれた世代のことをいう。ここでは「団塊世代」を1946年から1950年生まれた人々を指す広義の意味で扱う。2015年に団塊世代のほぼ全員が65歳以上となり、年金給付対象年齢に達した。これにより、労働人口が減少するとともに年金給付人口の急激な増大により、年金財政が圧迫され始めた。このことが「2015年問題」と言われ、社会問題となっている。

② 分析にあたって

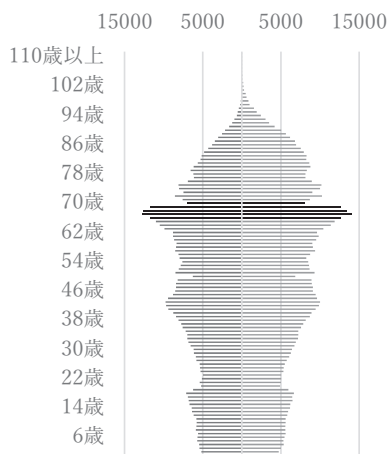
分析にあたって、1936年～1940年生まれを「2つ上世代」、1941年～1945年生まれを「1つ上世代」、1951年～1955年生まれの世代を「1つ下世代」、1956年～1960年生まれを「2つ下世代」と位置づける。

出生年	年齢	世代	老若
1936-1940	77-81歳	2つ上世代	老
1941-1945	72-76歳	1つ上世代	
1946-1950	67-71歳	団塊世代	
1951-1955	62-66歳	1つ下世代	
1956-1960	57-61歳	2つ下世代	若



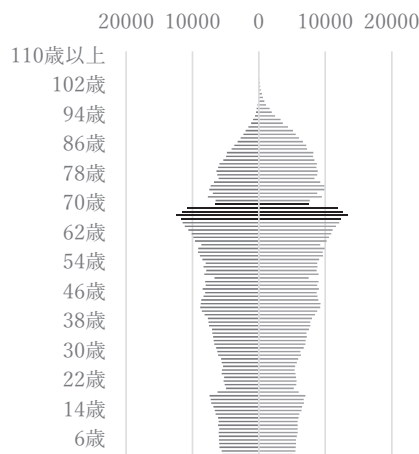
本調査の分析では、団塊世代のサンプルのとり方が、関西ニュータウン比較調査と異なる。関西ニュータウン比較調査では、平成12年の国勢調査をもとに最も人口の多かった1949年生まれを中心として前後の2年ずつをとる形で、1947年から1951年生まれを団塊世代と定義し分析を行っていた。ただし、天野正子著『団塊世代・新論〈関係的自立〉をひらく』によると、団塊世代とは狭義には1947年から1949年に生まれた世代、広義には1946年から1950年に生まれた世代であると定義されている。よって、これをもとに本調査では団塊世代の定義を1946年から1950年に生まれた世代とした。

愛媛県年齢別人口総数1,385,262人
(国勢調査2015)



■ 男性 ■ 女性

長崎県年齢別人口総数1,377,187人
(国勢調査2015)



■ 男性 ■ 女性

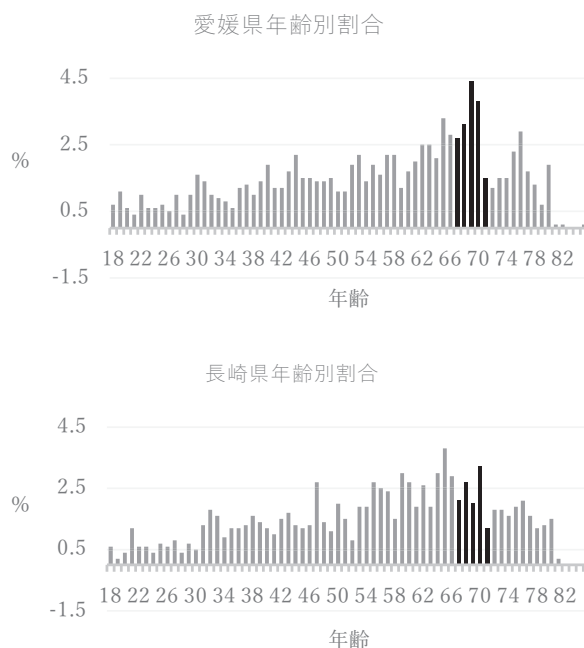
③ 全体から見る団塊世代の数

【表 7-15 年齢別割合】

(愛媛県 NA=88 長崎県 NA=96)

	愛媛	長崎
18-21 歳	2.9 (32)	2.4 (27)
22-26 歳	3.5 (39)	3.0 (34)
27-31 歳	5.4 (61)	3.8 (43)
32-36 歳	4.5 (50)	6.7 (76)
37-41 歳	6.9 (77)	6.5 (73)
42-46 歳	8.1 (91)	7.0 (79)
47-51 歳	6.5 (73)	8.7 (98)
52-56 歳	9.0 (101)	9.9 (112)
2つ下	9.3 (104)	11.6 (131)
1つ下	13.2 (148)	14.2 (161)
団塊	15.5 (174)	11.2 (127)
1つ上	9.4 (106)	9.2 (104)
2つ上	5.7 (64)	5.8 (66)
合計	100.0 (1122)	100.0 (1130)

【グラフ 年齢別人口割合】



2016年の年齢別人口をみると愛媛県・長崎県の65歳から69歳の人口が突出しており、団塊世代の人口が多いことが分かる。団塊世代の人々がさらに高齢になると、後期高齢者の数が急増すると考えられる。愛媛・長崎県民生活実態調査では、愛媛県の本人年齢回答者1122人中414人が65歳以上の高齢者であり、全体の36.9%を占める。さらに団塊世代人数は414人中174人であり、愛媛県の高齢者の42.0%が団塊世代であると言える。また、長崎県の本人年齢回答者1130人中372人が65歳以上の高齢者であり、全体の32.9%を占める。さらに団塊世代人数は372人中127人であり、長崎県の高齢者の34.1%が団塊世代であると言える。愛媛県は団塊世代の割合が高く、長崎県は1つ下世代の割合が高い。

④ 配偶関係について

【表 7-16 愛媛県 団塊世代の配偶関係】(NA=88)

	全体	2つ下世代	1つ下世代	団塊世代	1つ上世代	2つ上世代
既婚	71.0(854)	85.6(89)	86.5(128)	83.9(146)	79.3(84)	78.1(50)
離別	6.9(83)	6.7(7)	6.1(9)	4.6(8)	3.8(4)	0.0(0)
死別	5.6(67)	3.8(4)	2.7(4)	8.6(15)	16.0(17)	21.9(14)
未婚	16.5(199)	3.8(4)	4.7(7)	2.9(5)	0.9(1)	0.0(0)
合計	100.0(1203)	100.0(104)	100.0(148)	100.0(174)	100.0(106)	100.0(64)

【表 7-17 長崎県 団塊世代の配偶関係】(NA=87)

	全体	2つ下世代	1つ下世代	団塊世代	1つ上世代	2つ上世代
既婚	70.5(857)	74.6(97)	82.0(132)	85.8(109)	80.6(83)	68.2(45)
離別	6.7(81)	12.3(16)	8.1(13)	4.7(6)	2.9(3)	3.0(2)
死別	5.3(65)	5.4(7)	3.7(6)	6.3(8)	9.7(10)	27.3(18)
未婚	17.5(212)	7.7(10)	6.2(10)	3.2(4)	6.8(7)	1.5(1)
合計	100.0(1215)	100.0(130)	100.0(161)	100.0(127)	100.0(103)	100.0(66)

両県ともに、1つ上世代から「結婚していたが死別した」と回答している割合が大幅に上がっていることから、数年後、団塊世代の人々が1つ上世代の年齢になり、配偶者と死別する高齢者が増加すると考えられる。

⑤ 夫婦就業組み合わせについて

【表 7-18 愛媛県 団塊世代の夫婦就業組み合わせ】 NA=384 p<0.00

	全体	2つ下世代	1つ下世代	団塊世代	1つ上世代	2つ上世代
共働き	27.4(226)	30.2(26)	21.8(27)	11.9(16)	17.1(14)	18.4(9)
自営・パート(範囲超)	3.8(31)	4.7(4)	3.2(4)	2.2(3)	0.0(0)	0.0(0)
自営・パート(範囲内)	14.5(120)	15.1(13)	6.4(8)	0.7(1)	1.2(1)	0.0(0)
自営・専業主婦(夫)	18.2(150)	30.2(26)	20.2(25)	17.0(23)	7.3(6)	0.0(0)
パート・パート	2.2(18)	2.3(2)	4.8(6)	4.4(6)	0.0(0)	0.0(0)
無職・自営パート	4.2(35)	7.0(6)	9.7(12)	8.9(12)	0.0(0)	1.2(1)
無職・無職	22.9(189)	2.3(2)	23.4(29)	45.2(61)	65.9(54)	73.5(36)
その他	6.9(57)	8.2(7)	10.5(13)	9.6(13)	8.5(7)	6.1(3)
計	100.0(826)	100.0(86)	100.0(124)	100.0(135)	100.0(82)	100.0(49)

【表 7-19 長崎県 団塊世代の夫婦就業組み合わせ】 NA=410

	全体	2つ下世代	1つ下世代	団塊世代	1つ上世代	2つ上世代
共働き	27.6(225)	29.0(27)	19.4(24)	17.1(18)	19.2(14)	15.4(6)
自営・パート(範囲超)	5.1(42)	7.5(7)	3.2(4)	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)
自営・パート(範囲内)	14.0(114)	16.1(15)	7.3(9)	2.9(3)	0.0(0)	0.0(0)
自営・専業主婦(夫)	22.2(181)	26.9(25)	25.0(31)	15.2(16)	8.2(6)	7.7(3)
パート・パート	2.0(16)	3.2(3)	3.2(4)	2.9(3)	1.4(1)	0.0(0)
無職・自営パート	3.8(31)	8.6(8)	5.6(7)	4.8(5)	5.5(4)	2.6(1)
無職・無職	18.1(148)	6.5(6)	23.4(29)	40.0(42)	57.5(42)	66.6(26)
その他	7.2(59)	2.2(2)	12.9(16)	17.1(18)	8.2(6)	7.7(3)
計	100.0(816)	100.0(93)	100.0(124)	100.0(105)	100.0(73)	100.0(39)

愛媛県と長崎県ともに、世代が上がるごとに「無職・無職」の割合が大幅に上がり、特に1つ下世代以上の増え方が顕著である。1つ下世代は62歳から66歳の人を指していることから、60歳の定年を機に無職になる人が多いことが分かる。団塊世代以上の「無職・無職」をみると、愛媛県の方がその割合が高い。長崎県では団塊世代以上の人々の「無職・自営パート」が愛媛県より高く、高齢になっても夫婦のどちらかが、自営業もしくはパートタイムの仕事をしていると分かった。愛媛県・長崎県ともに、1つ下世代以上でも「共働き」の数が一定数あり、62歳以上になっても夫婦両者が働いている世帯が想像以上にある。

⑥ 家計に占める年金所得

【表 7-20 愛媛県 家計全体における本人・配偶者の年金所得割合】 NA=213

		0-3割	4-6割	7-10割	計
本人所得	2つ下世代	95.6(88)	2.2(2)	2.2(2)	100.0(92)
	1つ下世代	76.4(94)	14.6(18)	9.0(11)	100.0(123)
	団塊世代	55.4(77)	20.9(29)	23.7(33)	100.0(139)
	1つ上世代	41.4(36)	30.0(20)	35.6(31)	100.0(87)
	2つ上世代	43.1(22)	39.2(20)	17.7(9)	100.0(51)
配偶者年金所得	2つ下世代	93.4(86)	33.3(3)	3.3(3)	100.0(92)
	1つ下世代	72.4(89)	15.4(19)	12.2(15)	100.0(123)
	団塊世代	66.9(93)	14.4(20)	18.7(26)	100.0(139)
	1つ上世代	64.4(56)	16.1(14)	19.5(17)	100.0(87)
	2つ上世代	51.0(26)	27.4(14)	21.6(11)	100.0(51)

【表 7-21 長崎県 家計全体における本人・配偶者の年金所得割合】 NA=236

		0-3 割	4-6 割	7-10 割	計
本人所得	2 つ下世代	96.2(101)	0.9(1)	2.9(3)	100.0(105)
	1 つ下世代	77.6(97)	8.8(11)	13.6(17)	100.0(125)
	団塊世代	52.3(58)	27.0(30)	20.7(23)	100.0(111)
	1 つ上世代	48.6(35)	26.4(19)	25.0(18)	100.0(72)
	2 つ上世代	39.2(20)	25.5(13)	35.3(18)	100.0(51)
配偶者年金所得	2 つ下世代	96.2(101)	2.9(3)	0.9(1)	100.0(105)
	1 つ下世代	74.4(93)	12.0(15)	13.6(17)	100.0(125)
	団塊世代	73.0(81)	13.5(15)	13.5(15)	100.0(111)
	1 つ上世代	63.9(46)	22.2(16)	13.9(10)	100.0(72)
	2 つ上世代	64.7(33)	13.7(7)	21.6(11)	100.0(51)

世代が上がるごとに家計に占める年金所得の割合が高くなっており、高齢になるほど年金に頼った生活になることが明らかである。団塊世代が今後さらに年を重ねると、年金頼りの生活を送る高齢者が増加し続けていくことが懸念される。2 つ上世代をみると、長崎県に比べて愛媛県は年金所得割合が 7-10 割である割合が低く、年金のみで暮らしている人が比較的少ないことが分かる。

参考文献

天野正子,2001,『団塊世代・新論〈関係的自立〉をひらく』有信堂高文社.

三浦展,2007,『団塊格差』文藝春秋.

第8章 質問文の有効性の検討

今回の愛媛・長崎県民生活実態調査をした際、多くの質問文を用いて調査を行った。本章ではそれらの質問文の妥当性について検討していく。質問文のうち居住形態の質問文は今後の調査にも有効的なものとなった。居住経験と居住年数、国内旅行と海外旅行、そして施設利用の質問文は今後十分に検討する必要があるものとなった。本章でこれらを順に述べていく。尚、各質問文に基づく具体的な表などはDVDを参照していただきたい。

8-1 Q15 居住形態に関する質問文について

A. 県民生活実態調査

あなたが現在お住まいの住居は次のどれですか。

1. 持ち家一戸建
2. 賃貸の一戸建
3. 持ち家マンション・アパート
4. 都市再生機構・公社などの賃貸住宅
5. 公営住宅（県営・市営・町営）
6. 給与住宅（社宅・公務員住宅）
7. 賃貸のマンション・アパート
8. その他

B. 国勢調査

I：住居の種類

1. 持ち家
2. 都道府県・市区町村営の賃貸住宅
3. 都市再生機構・公社等の賃貸住宅
4. 民営の賃貸住宅
5. 給与住宅（社宅・公務員住宅など）
6. 住宅に間借り
7. 会社等の独身寮・寄宿舎
8. その他

II：住宅の建て方

1. 一戸建
2. 長屋建（テラスハウスを含む）
3. 共同住宅（該当する場合は建物全体の階数と住宅がある階も）
4. その他

世帯について（(1)～(4)欄は、調査票が2枚以上にわたる場合は1枚目に記入してください）

(1) 世帯員の構成
・世帯全員の人数を記入してください

(2) 住居の種類
持ち家、都市再生機構等の賃貸住宅、都道府県営の賃貸住宅、民間の賃貸住宅、給与住宅（社宅・公務員住宅など）、住宅に間借り、会社等の独身寮・寄宿舎、その他

(3) 住宅の建て方
一戸建、長屋建（テラスハウスを含む）、共同住宅、その他

(4) 住宅の床面積の合計
・居住室のほか、玄関・台所・トイレ・浴室・廊下・押し入れなどの床面積も含めます
・営業用の部分及び他の世帯の使用部分は除いてください

建て方	床面積の範囲
一戸建	20㎡未満、20～29㎡、30～39㎡、40～49㎡、50～59㎡、60～69㎡、70～79㎡、80㎡以上
長屋建	20㎡未満、20～29㎡、30～39㎡、40～49㎡、50～59㎡、60～69㎡、70～79㎡、80㎡以上
共同住宅	20㎡未満、20～29㎡、30～39㎡、40～49㎡、50～59㎡、60～69㎡、70～79㎡、80㎡以上
その他	20㎡未満、20～29㎡、30～39㎡、40～49㎡、50～59㎡、60～69㎡、70～79㎡、80㎡以上

世帯では、下の欄には記入しないでください

世帯の種類	一部世帯	学校の部	病院・診療所	老人ホーム	その他
（世帯員が記入する欄）	学生・生徒	学生・生徒	入院患者	入居者	その他

電話番号

（わからないことがあった場合、問い合わせて利用させていただきます）

C. 住宅土地統計調査

現住所について 持ち家が借家などの別

1. 持ち家
2. 民営の賃貸住宅
3. 都道府県・市区町村営の賃貸住宅
4. 都市再生機構・公社等の賃貸住宅
5. 給与住宅（社宅・公務員住宅など）
6. 住宅に間借り
7. 賃貸の住宅以外の建物（会社等の独身寮・寄宿舎）
8. 所有の住宅以外の建物（会社等の独身寮・寄宿舎）

※選択肢はほぼ国勢調査と一緒だが、追記で持ち家の一戸建やマンションなどの設問はなし

23 現住居以外の住宅
(ア) 所有していますか
所有している
所有していない

(イ) 住宅の種類
(1) 居住世帯のある住宅
親族居住用、貸家、売却用、その他
(2) 居住世帯のない住宅（空き家）
二次的住宅・別荘、貸家、売却用、その他

24 現住居以外の土地
(ア) 所有していますか
所有している
所有していない（記入あり）

(イ) 土地の種類
・当てはまるものすべてに記入してください
・宅地など（農地、山林以外の土地）には住宅用地や事業用地のほか、庭園、荒れ地、池沼なども含めます
・農地とは、田、畑、果樹園、牧場として使用している土地をいいます
・宅地など（農地・山林以外の土地）
農地、山林

国勢調査・住宅土地統計調査を比較すると、本調査の質問文は国勢調査・住宅土地統計調査の質問文に比べて、はじめからクロスされているうえ、簡潔である点、網羅的な点が有効的である。国勢調査の質問文では住居の種類と住宅の建て方の2つに分かれているが本調査の質問文では1つにまとめられている。

8-2 居住経験と居住年数の質問文について

14 あなたが現在お住まいの市町に住み始めて、何年ですか。

該当する番号に○をつけ、年数をお答えください

1. 生まれてからずっと住んでいる () 年 ⇒ 15
2. 他の市区町村に住んだことがあり、この市町に住み始めて・戻って () 年、通算で () 年 住んでいる

14(1) 現在お住まいの市町以外で、あなたがこれまでにお住まいになったことがある場所はどちらですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。【すべてに○】

- | | | | |
|-------|---------------|---------|-------------|
| 愛媛県内 | 1. 松山市 | 京阪神大都市圏 | 11. 大阪府 |
| 他市町 | 2. 松山市以外の中予地域 | | 12. 京都府 |
| | 3. 東予地域 | | 13. 兵庫県 |
| | 4. 南予地域 | 東京大都市圏 | 14. 東京都 |
| 愛媛県以外 | 5. 徳島県 | | 15. 神奈川県 |
| の四国 | 6. 香川県 | | 16. 千葉県 |
| | 7. 高知県 | | 17. 埼玉県 |
| 中国地方 | 8. 岡山県 | その他 | 18. 外国 |
| | 9. 広島県 | | 19. 上記以外の土地 |

Q14,Q14(1)に関しては、調査票の最終ページに設けた自由回答欄の意見に次の2点のような意見が多く寄せられていた。

・現在住んでいる市町村の年数の質問で「住み始めて・戻って」何年と、「通算で」何年の意味が分かりづらかったです。単に「～年住んでいる」の回答欄だけでいいと思います。

・問14一定のところに住んではいない。町は変わるが市となると、同じ市の中に入ってしまうので、返答に迷いました。

この質問文の問題点として次の3つが挙げられる。

- ① 回答者からの苦情にもあるように、回答しづらい点。NAや記入ミスも多くみられた。
 - ② 居住年数の変数はアフターコーディングをしなければ作成できないため、SPSS上で変数の計算をしなければ求められない。「ずっと住んでいる」と「他の市町村に住んだことがあり……」の回答を組み合わせなければならない。
 - ③ 居住経験はわかるが、居住歴(どこから現住所に移ってきたのか)が分からない。
- 以上の3つからわかるように調査票の幅をとったにもかかわらず、移動のパターンを明確にできなかったなどの問題点があり、この質問文は修正が必要である。

では、既存調査ではどのように調査しているのか、ここでは国勢調査を例に挙げてみる。以下は平成27年国勢調査の調査票サンプルである。国勢調査では5年前の居住地をたずねている。総人口の2割が5年間で住所を移動しており、自市区町村内が移動人口のおよそ半数を占める。

8 現在の場所に 住んでいる期間	出生時から 以外	出生時から 以外	出生時から 以外	出生時から 以外
	1 5 10 20 年 年 年 年 未 未 未 未 満 満 満 満 以上	1 5 10 20 年 年 年 年 未 未 未 未 満 満 満 満 以上	1 5 10 20 年 年 年 年 未 未 未 未 満 満 満 満 以上	1 5 10 20 年 年 年 年 未 未 未 未 満 満 満 満 以上
9 5年前(平成22年10月1日) にはどこに住んでいましたか	現在と同じ市町村内 の場所	現在と同じ市町村内 の場所	現在と同じ市町村内 の場所	現在と同じ市町村内 の場所
	他の区・市町村 の場所	他の区・市町村 の場所	他の区・市町村 の場所	他の区・市町村 の場所
10 5年前に同じ市内の他の区に 住んでいた場合は、他の区・ 市町村に記入してください	現在と同じ市町村内 の場所	現在と同じ市町村内 の場所	現在と同じ市町村内 の場所	現在と同じ市町村内 の場所
	他の区・市町村 の場所	他の区・市町村 の場所	他の区・市町村 の場所	他の区・市町村 の場所
11 他区・市町村の場合は 都道府県・市区町村名も 書いてください (東京都区部と政令指定 都市の場合は区名を)	現在と同じ市町村内 の場所	現在と同じ市町村内 の場所	現在と同じ市町村内 の場所	現在と同じ市町村内 の場所
	他の区・市町村 の場所	他の区・市町村 の場所	他の区・市町村 の場所	他の区・市町村 の場所

以前大谷研究室で実施した2004年「関西ニュータウン比較調査」や2008年「西宮アパート・マンション調査」では前住地を問うている。

【関西ニュータウン比較調査】

現在の住居に入居される直前のことについてお聞きます。

Q13. あなたは、どちらから転居されてきましたか。

1. 同じニュータウンからの転居
2. 同じニュータウン以外からの転居
3. 転居はしていない（生まれてからずっと住んでいる等）

Q14. 現在のニュータウンに移り住んだ直前の住居についてお聞きます。Q13で「1.同じニュータウンからの転居」と答えた方は、ニュータウンに移り住む以前の住居のことについてお答え下さい。

前住居の最寄駅はどちらでしたか。近畿圏内にお住まいだった場合は、鉄道の最寄駅をお答えください。近畿圏外の場合は、都道府県名をお答えください。

1. 近畿圏内 鉄道会社名（ ）（ ）駅
2. 近畿圏外 （ ）都道府県

Q15. あなたは現在の住居をどのように選定されましたか。

1. 自分や家族の考えで住居を選定した
2. 現在の住居の選定にはかかわっていない
（生まれた時から住んでいた・子供だった・社宅の場所が決まっていた等）

※Q16～22については「大谷研究室 関西ニュータウン比較調査を参照」

【西宮アパート・マンション調査】

Q10. 現在の住居に入居される直前のことについてお聞きます。

①現在の住居の直前に住んでいた住居はどちらにありましたか。近畿圏内にお住まいだった場合は鉄道の最寄り駅を、近畿圏外の場合は都道府県名をお答えください。（ここでは近畿圏を大阪府・京都府・滋賀県・奈良県・兵庫県・三重県・和歌山県の二府五県とお考え下さい。）

（例）近畿圏内の場合…鉄道会社（阪急）（神戸）線（梅田）駅

1. 近畿圏内 鉄道会社名（ ）（ ）（ ）駅
2. 近畿圏外 （ ）都道府県 ・ 外国
3. 前住地なし

西宮アパート・マンション調査では、約87%程度の前住地が近畿圏内であった。

このように居住歴・移動パターン・居住経験を把握するためには、前住地・転居のきっかけ・居住地選択要因など様々な質問項目を検討していく必要がある。

（居住経験のアフターコーディングの手順）

愛媛県で、ずっと同じ市町に住んでいる、愛媛県内までの居住経験がある、中国・四国地方までの居住経験がある、それ以外の地域の居住経験があるという4つに分類する場合。

(1)SPSSの変数の計算を用いて、「1. 松山市+…+4. 南予地域＝愛媛県内」とする。同様に、「中国・四国地方」と「その他地方」という新しい変数を作る。

(2)変数の計算で「愛媛県内*100+中国・四国地方*10+その他地方＝居住歴①」を求める。このとき出てくる値の例は、100や211など。百の位は県内の居住経験、十の位は中国・四国地方の居住経験、一の位はその他地域の居住経験がそれぞれ何回あったかを表す。

(3)他の変数への値の再割り当てを用いて、(1)で作った新しい変数をそれぞれ1もしくは0に変換する。移動の回数ではなく、分類した地域に居住経験があるかどうかを把握するためである。愛媛県内ならば「愛媛県内百の位」とし、値の変更は「0=0、システムまたはユーザー欠損＝システム欠損値、1～4=1」となる。

(4)変数の計算で「愛媛県内百の位+中国・四国地方十の位+その他地方一の位＝居住歴②」とする。

(5)居住歴②で出てくる値は、以下のように分類し他の変数への値の再割り当てで居住歴③とする。「0=0、システムまたはユーザー欠損値=0」も忘れない。

- 1 その他のみ…③
- 10 中四国のみ…②

11 中四国とその他…③

100 県内のみ…①

101 県内とその他…③

110 県内と中四国…②

111 県内と中四国とその他…③以上が、「他の市区町村に住んだことがある」の分類になる。次に、「生まれてからずっと住んでいる」と合算する。

(6) 居住歴③で分けた①～③を他の変数への値の再割り当てを用いて、「1=10、2=100、3=1000、0=0」と変更し居住歴④とする。

(7)他の変数への値の再割り当てで、問 14 の質問に 1 と答えた人は 1 のまま、2 と答えた人を 0 とする。新しい変数は「ずっと同じ」とする。

(8)最後に変数の計算で「居住歴④+ずっと同じ=居住歴⑤」とする

《居住年数のアフターコーディングの手順》

回答者全員の通算居住年数を求めたいため、「2. 市町に住み始めて・戻って()年」は用いない。

(1) SPSS には非該当は 88、NA は 99 で入力されている。他の変数への値の再割り当てで、「88=0、99=0、その他のすべての値=今までの値をコピー」と変更する。(新しい変数名は「生誕以来」と「途中から」。)

(2) 変数の計算で「生誕以来+途中から=通算」を求める。

(3)このままだと求められたすべての数字が度数分布表に表される。他の変数への値の再割り当てで 10 年ごとに区切る。

8-3 Q24 国内旅行と Q25 海外旅行の質問文について

24 あなたは「この 1 年間」で、国内旅行をしたことがありますか。
旅行とは、自宅以外で 1 泊以上宿泊する宿泊旅行（出張・業務旅行・帰省を除く）とお考えください。

1. ある () 回 2. ない () 回

25 (1) その国内旅行で宿泊された都道府県はどちらですか。【すべてに○】

1. 北海道	9. 栃木	17. 石川	25. 滋賀	33. 岡山	41. 佐賀
2. 青森	10. 群馬	18. 福井	26. 京都	34. 広島	42. 長崎
3. 岩手	11. 埼玉	19. 山梨	27. 大阪	35. 山口	43. 熊本
4. 宮城	12. 千葉	20. 長野	28. 兵庫	36. 徳島	44. 大分
5. 秋田	13. 東京	21. 岐阜	29. 奈良	37. 香川	45. 高松
6. 山形	14. 神奈川	22. 静岡	30. 和歌山	38. 愛媛	46. 鹿児島
7. 福島	15. 新潟	23. 愛知	31. 鳥取	39. 高知	47. 沖縄
8. 茨城	16. 富山	24. 三重	32. 高松	40. 福岡	

25 あなたは「この 1 年間」で、海外旅行をしたことがありますか。

1. ある () 回 2. ない () 回

25 (1) その海外旅行で訪れた国（地域）はどちらですか。【すべてに○】

1. 中国（香港を除く）	9. グアム・サイパン
2. 韓国	10. オーストラリアやニュージーランドなどオセアニア諸国
3. 台湾	11. ハワイ
4. タイ	12. アメリカ・カナダ（ハワイを除く）
5. シンガポール	13. 中南米諸国
6. 香港	14. ヨーロッパ諸国（ロシア含む）
7. ベトナム	15. アフリカ諸国
8. その他のアジア諸国	16. その他

この質問文は国内旅行の定義が観光庁の質問文と同様であるうえ、NA が少なく（愛媛=8 長崎=21）、有効な結果が得られると考えていた。しかし、国内旅行経験者は愛媛県が 51.7% 長崎県が 51.0%、海外旅行経験者は愛媛県が 4.9% 長崎県が 7.4%と極端に少なくなってしまった。これによって質問文に有効性があるとはいえない要因となってしまった。尚、質問文は以下の観光庁の旅行の定義と同様である。

《観光庁が 2017 年に実施した旅行・観光消費動向調査の質問文》

『「宿泊旅行（国内）」とは 出かけた先での活動内容に関わらず、自宅以外で 1 泊以上宿泊する旅行が「宿泊旅行（国内）」です。自家用車や夜行バス、夜行電車など交通機関の車内で泊まった場合（以後「車中泊」と表記）を含みます。ただし、自宅以外での宿泊滞在が連続して 1 年間を超える場合や出張・業務旅行（3. で 別途質問します）を除きます。』（観光庁 www.mlit.go.jp/kankochou/siryou/toukei/shouhidoukou.html#cp2)

余暇生活に大きく関わっている他の質問文として「ゆとり時間」や「テレビ視聴時間」がある。旅行経験者の少なさを鑑みると旅行の質問よりもこうした項目のほうが有効的であったといえる。国内旅行に限っては日帰り旅行について検証しても結果は出たかもしれない。しかし、調査票の紙面を大幅に割いてしまったうえ、本質問は有効なものとはいえなかったため、今後は削除するべきである。

8-4 施設利用・広報紙・地域活動についての質問文

- 26 あなたは「この1年間」で、次の施設を利用したことがありますか。
- (1) お住まいの地域の公民館や集会所 1. 利用した 2. 利用したことがない
 (2) 公立の図書館などの社会教育施設 1. 利用した 2. 利用したことがない
 (3) お住まいの地域の学校施設 1. 利用した 2. 利用したことがない
 (4) 公民の文化ホールなどの文化施設 1. 利用した 2. 利用したことがない
- 27 あなたは、「この1年間」で、次のものを読んだことがありますか。
- (1) 県の広報紙「愛媛のえひめ」 1. 読んだことがある 2. 読んだことがない
 (2) お住まいの市町の広報紙 1. 読んだことがある 2. 読んだことがない
- 28 あなたは、現在居住されているところの地域活動がどの程度盛んだと思われますか。地域活動とは町内会、芋どろ会、老人クラブ、ミニマニエーション、公民館活動等を総合的に判断してください。
1. とても盛んだと思う
 2. まあ盛んだと思う
 3. あまり盛んでないと思う
 4. 全く盛んでないと思う
 5. わからない
- 29 あなた自身は、どの程度地域活動にかかわりを持っていますか。
1. とてもかかわりを持っている
 2. ある程度かかわりを持っている
 3. あまりかかわりを持っていない
 4. 全くかかわりを持っていない

この質問文の問題点は3つある。

- ・質問文 26 が質問文 27～29 に比べて NA が多かった点。
- ・(1)の質問文で公民館だけでなく集会所を質問文に含んでしまった点。
- ・(2)の質問文で社会教育施設とあり、図書館利用者だけでなく、(1)の利用者も含まれるため回答者が重複されてしまうことである。以下でそれらを検証していく。

① 施設利用の状況

単純集計表より

【26. あなたは「この1年間」で、次の施設を利用したことがありますか。】

(1) お住まいの地域の公民館や集会所

	愛媛 (NA=90)	長崎 (NA=112)
1. 利用した	41.8%(468)	42.3%(471)
2. 利用したことがない	58.2%(652)	57.7%(643)
計	100.0%(1120)	100.0%(1114)

(2) 公立の図書館などの社会教育施設

	愛媛 (NA=160)	長崎 (NA=182)
1. 利用した	33.6%(352)	35.5%(371)
2. 利用したことがない	66.4%(698)	64.5%(673)
計	100.0%(1050)	100.0%(1044)

【表 8-1 愛媛県と長崎県の公民館状況比較】(H27.10.1 総務省統計局社会教育調査 公民館の利用状況より)

	延べ利用者数	公民館設置率
愛媛	2,858,854	100.0
長崎	2,803,456	95.2(市 100.0 町 87.5 《7/8 町》)

【表 8-2 愛媛県と長崎県の公民館状況比較】(e-stat 都道府県データにおいて 基礎データ→文化スポーツ分野→社会教育施設→公民館データ より)

	愛媛	長崎
公民館数	436	194
公民館職員数『人』	1,218	643
公民館職員数(専任)	301	130
公民館諸集会実施館数	405	132
公民館諸集会実施館数	7,175	1,966
公民館講習会・講演会・実習会実施件数	3,515	1,397
公民館体育事業実施件数	1,602	255
公民館文化事業実施件数	2,058	314
公民館諸集会実施参加者数	830,830	236,807
公民館講習会・講演会・実習会実施参加者数	195,618	60,664
公民館体育事業実施参加者数	249,354	57,157
公民館文化事業実施参加者数	385,858	118,986

【表 8-3 愛媛県と長崎県の図書館状況比較】 (e-stat 都道府県データにおいて 基礎データ→文化スポーツ分野→社会教育施設→図書館データ より)

	図書館数	図書館職員数 『人』	図書館職員数 (専任)	図書館蔵書数	図書館登録者数	図書館帯出者数	図書館館外 貸出冊数
愛媛	44	328	81	4,877,014	219,689	1,644,400	6,002,233
長崎	38	391	97	4,856,740	588,340	1,540,687	6,078,331

表 8-1・8-2 からみてとれるように公民館数等すべての統計項目で愛媛県が長崎県を上回っているが、単純集計表の利用率は長崎県が愛媛県を上回っている。※に記した通り、公民館と集会所は別の施設であるにもかかわらず、質問文に「集会所」と記されているため、回答に影響を及ぼしたものであると考えられる。

例) 長崎県波佐見町の公民館施設は 0 であるが利用率が 28.6%あり、町の人々が集会所を利用している可能性が高くなる。

よって 26. (1)の質問文において「集会所」は社会教育施設ではない為、質問文から削除するべきであった。

※公民館類似施設とは、社会教育法第 42 条に規定するもので、市町村が設置した施設で、市町村教育委員会が所管する公民館と同様の事業を行うことを目的に掲げる社会教育会館、社会教育センター等（地方自治法第 244 条の 2 第 3 項に基づき管理者を指定しているものを含む。ただし、生涯学習センター、文化会館、集会所、自治公民館は除く。）をいう。

下線部のように、公民館と集会所は別のものであると考えるべきである。

表 8-3 の分析から図書館登録者数以外の項目では両県に大きな差が見られなかった為、利用率は妥当であると考えられる。しかし、質問文に「図書館などの社会教育施設」とあるため、図書館以外の社会教育施設を利用した人々の回答率も含まれる可能性が高い。そして何より社会教育施設という表現が大きな誤りである。質問文 26. (1)ですでに社会教育施設である公民館について質問しており、(2)の質問文で公民館を利用した人々も回答することができると、回答の重複も考えられる。よって質問文は図書館利用のみの質問にするべきである。

今後検討するべき点として、各自治体の公民館や図書館といった社会教育施設の設置状況等を事前に調べる必要がある。また、社会教育施設の中でも、本調査で対象とした施設以外の施設を測定していくことが有効的であるかを考えていく必要もある。例) 既存データに含まれる社会教育施設・スポーツ施設(大谷研究室『行政サービスからみた東京一極集中—東京 23 区と政令指定都市の便利帳分析』2017 より)

② 施設利用と地域活動との関連

施設利用状況・広報誌を読んだ経験が地域活動へのかかわりと関連しているのかを検証する。施設利用状況・広報誌を読んだ経験を以下のようにスコア化した。

26(1)お住まいの地域の公民館や集会所 (2)お住まいの図書館など社会教育施設

(3)お住まいの地域の学校施設 (4)公共の文化ホールなどの文化施設

利用したことがある→1 点 利用したことがない→0 点

27(1)県の広報誌 1.読んだことがある→1 点

(2)市の広報誌 2.読んだことがない→0 点

このように、0～6 点の合計 6 点満点で、スコア化した。

【表 8-4】

	0 点	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点	6 点	計
愛媛県	14.4	17.7	24.1	16.3	11.4	9.8	6.2	100.0(970)
長崎県	14.0	12.0	27.3	17.6	13.5	8.7	6.9	100.0(981)

【表 8-5 上の表 8-4 の点数と、「29.どの程度地域活動にかかわりがありますか」をクロス集計】

【長崎県】

【愛媛県】

	とてもか かわりが ある	ある程度 かかわり がある	あまりか かわりが ない	全くかか わりがな い		とてもか かわりが ある	ある程度 かかわり がある	あまりか かわりが ない	全くかか わりがな い
0 点	2.5	2.7	8.3	30.0	0 点	0.0	3.0	8.1	30.9
1 点	2.5	3.1	11.1	21.2	1 点	8.6	9.4	19.2	22.8
2 点	5.0	21.7	31.7	29.7	2 点	22.9	16.6	26.7	27.0
3 点	20.0	23.3	20.3	10.3	3 点	2.9	18.3	19.2	12.8
4 点	25.0	19.4	14.0	6.7	4 点	11.4	17.9	13.9	4.5
5 点	12.5	15.5	9.4	2.1	5 点	14.3	20.0	10.6	1.5
6 点	32.5	14.3	5.1	0.0	6 点	40.0	14.9	2.5	0.6
合計	100(40)	100(258)	100(350)	100(330)	合計	100(35)	100(235)	100(360)	100(337)

施設利用や広報誌を読んだかどうかの有無は、地域活動へのかかわりとある程度関連していた。今後複数の項目を検証する際、このように点数化をすることで有効な結果を得ることができるだろう。その際、調査項目や検証方法を検討することが必要になる場合もあるだろう。

参考文献

総務省統計局,2010,「平成 22 年度国勢調査 調査票」

(www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/pdf/chouhyou.pdf).

総務省統計局,2018,「平成 30 年度住宅・土地統計調査 調査票」

(www.stat.go.jp/data/jyutaku/2018/pdf/30kouomote.pdf).

編集後記

私たちのゼミが始まったのは2017年4月。そこから2年の月日が経つのはあっという間でした。この2年間、大谷ゼミ19期生として、大規模な社会調査研究である「県民生活実態調査」の実施や分析に携わってきました。

私たちの学年は非常に出来が悪く、毎週のゼミでは中身が無い上に的外れなレジュメの山が積み重なっていました。それゆえ、先生には何度もお叱りの言葉をいただきました。ゼミ生が本気で危機感を持ち始めたのは4回生の秋頃という、エンジンがかかるのが遅すぎた学年でしたが、冬以降の追い込みもあってか、なんとか卒論・報告書の完成にこぎつけることができました。

報告書をまとめるにあたって、研究員としてご多忙であるにも関わらず、質問があればすぐに的確な助言をしてくださった松川さん、調査に協力していただいた愛媛県庁、長崎県庁と愛媛県民、長崎県民の皆様、ゼミの先輩方や後輩達など、多くの方々にお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

最後に、厳しくも温かく私たちを指導してくださった大谷先生に、心から感謝申し上げます。本当にどうしようもない19期生の私たちを見放すことなく、最後まで向き合ってくくださったおかげで、報告書を完成させるという大きな目標を達成することができました。ゼミで学んだことを忘れず胸に秘め、今後の人生を歩んでいきたいと思います。

大谷ゼミ19期生一同



発行 2019年3月18日
関西学院大学社会学部 大谷研究室
〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL 0798(54)6378